

授業概要

SYLLABUS

2015

平成27年度



近畿大学豊岡短期大学

目 次

カリキュラム一覧

・ 総合科目	1
・ 専門教育科目	
教科専門科目	29
教職専門科目	109

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
総 合 科 目							
生 命 倫 理			○		永 井 秀 和	1	
女 性 と 文 化			○		森 成 美	3	
憲 法	○				野 畑 健 太 郎	5	
環 境 と 人 間			○		藤 井 太 郎	7	
情 報 リ テ ラ シ ー と 処 理 技 術	○	○			丸 山 幸 三	9	
健 康 科 学		○			池 田 正 章	11	
ス ポ ー ツ (実 技)	○	○			池 田 正 章	13	
キ ャ リ ア ア ッ プ I	○				担 当 教 員	15	
キ ャ リ ア ア ッ プ II		○			担 当 教 員	17	
キ ャ リ ア ア ッ プ			○		担 当 教 員	19	別に定める授業科目
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	○				和 田 憲 明	21	別に定める授業科目
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II			○		和 田 憲 明	23	別に定める授業科目

◎ 総 合 科 目

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
生 命 倫 理	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	永井 秀和
授 業 概 要	人間を主人公とした生命科学を多角的な視点から講義し、生命に関わる人間の行為について学生諸君と共に考察します。			
授 業 科 目 の 目 的	生命現象の奥に隠されている自然の法則を理解し、生命に対する人間の責任ある関わり方について、学生諸君自身の考えを表現できるようになることを目的とします。			
学 習 成 果	1. 生命の在り方、生命に対する人間の責任あるかかわり方について、自らの言葉で考えを述べるができるようにします。			
テ キ ス ト				
参 考 書	基礎から学ぶ生命倫理学／村上喜良／勁草書房／2,700円 生命倫理と医療倫理／伏木信次／金芳堂／2,500円			
成 績 評 価 基 準	授業態度20%、レポート15%、試験65%により総合的に評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	生命現象の基本的な仕組みを理解するとともに、生命の尊さを熟考しながら受講することを望んでいます。			
そ の 他				

授業内容及び回数

1 回	生きることの証と生命（生命と物質）
2 回	生命倫理とは何か1 倫理とは
3 回	生命倫理とは何か2 エコロジーや医療との関係
4 回	生命倫理を考える1 生殖生理（生む生まないは女性の権利か）
5 回	生命倫理を考える2 生殖補助技術（人工授精・受精卵移植・代理母）
6 回	生命倫理を考える3 遺伝子操作
7 回	生命倫理を考える4 脳死と臓器移植
8 回	生命倫理を考える5 安楽死と尊厳死
9 回	生命倫理を考える6 生命倫理と宗教との関係（1）
10 回	生命倫理を考える7 生命倫理と宗教との関係（2）
11 回	生命倫理を考える8 自己存在と自己決定
12 回	生命の誕生について考える 生まれること・生むこと
13 回	死について考える1
14 回	死について考える2
15 回	生命倫理と医療倫理の関係
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
女性と文化	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	森 成美
授業概要	男女共同参画社会の叫ばれる中、男性も女性も自分らしく生き、社会に貢献したいと考えているのではないのでしょうか。平塚雷鳥はかつて「原始、女性は太陽であった・・・」と雄々しく叫んでいます。現代の女性はどうでしょうか。社会の変化と共に、自分らしく生きるとはどうすることなのか迷っている人もいるでしょう。女性が築いてきた文化の視点から、社会を見つめ直し自分の近未来を考える時間にしていきましょう。			
授業科目の目的	女性としての人権、地位が認められ、確立をみてから時間を経ています。過去の歴史から学び知識と認識をふまえ、多方面から思考し、現代社会に生きる女性を捉える視点を自らが持つようになることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の人権、社会的地位など過去の歴史、及び身近な人たちからのこれまでの歴史を学び、女性を理解できるようにします。 2. 具体的な女性を取り上げ、その生き方から学ぶ点を見出し、女性の理解について考えることができるようにします。 3. 現代社会の女性が抱える問題点を認識し、現代社会に生きる女性の生き方を探求することができるようにします。 			
テキスト	授業の中で紹介するとともに、プリントも配布します。			
参考書	日本近代文化論8／青木保他編著／岩波書店／2,600円 女性学入門／杉本貴代栄編著／ミネルヴァ書房／2,500円＋税 男と女変わる力学／鹿嶋敬／岩波新書／550円 共同参画／内閣府男女共同参画編			
成績評価基準	定期試験60%、レポート・発表20%、授業・課題に取り組む姿勢20%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッ セー ジと	本授業では、これまで女性が抱えてきた問題点を、講義やみなさんの調査・意見発表等で展開します。日頃からニュース等を見て、世の中の出来事に関心を持ちましょう。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<女性と歴史> 古代 中世 近世
2 回	<戦後の女性> 1970・80年代1990年代とそれ以降 課題
3 回	<平等とは> 男女共同参画社会 二極化
4 回	<家族とは何か> なぜ人間は家族をつくるのか 近代家族 家族のゆくえ
5 回	<結婚> 結婚観 配偶者 日本の婚姻率
6 回	<子育て1 > 誰が担うのか、担ってきたか
7 回	<子育て2> 子育て政策と今後について
8 回	<身近な女性の生き方から学ぶ 1 > レポート作成
9 回	<身近な女性の生き方から学ぶ2 > レポート作成
10 回	<身近な女性の生き方を知る 3 > 発表
11 回	<家庭生活> 家事・地域とのふれあい
12 回	<困難を抱える女性> 貧困 暴力 性
13 回	<高齢者問題> 高齢者と介護
14 回	<セクシャリティの多様性> 身体の多様性
15 回	<まとめ > 女性の歴史と自分の近未来
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
憲法	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野畑 健太郎
授業概要	日本国憲法の全体像が理解できるように講義していきます。この憲法的全領域を、基本原理と具体的な条文の解釈とを架橋する体系的な説明を行うことによって基本的事項の確実な理解をはかります。条文を重視し偏りのない解釈に基づいて解説を心掛けていきます。			
授業科目の目的	憲法は、「統治機構」と「人権」の二つの部分から成っています。この二つは相互に密接に結びついているものです。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構がつくられています。権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕します。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が確保されていきます。これが憲法の構造であり目的と言えます。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況でこそ、初めて機能します。このことは忘れてはならない大切なことです。すなわち、以上を理解することが、この講義の目的となります。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の成立過程を説明できるようにします。 2. 日本国憲法の基本原則とその相互関係を説明できるようにします。 3. 日本国憲法の基本的な条文について通説・判例の見解を説明できるようにします。 			
テキスト	日本国憲法／上田正一／嵯峨野書院／3,300円			
参考書	ポケット六法／有斐閣 デイリー六法／三省堂 コンサイス六法／岩波書店、などの2000円程度の『六法』とします。出版社は問いませんが、「ポツダム宣言」が収録されていないものは不可と考えます。			
基成績評価 準価	定期試験90%、平常点(受講態度)10%で総合的に評価します。			
メ受講の心構えと ツセッション	<p>高等学校までの憲法学習では正解があったと思います。</p> <p>例えば、「明治憲法における国民の権利は、天皇から恩恵的に与えられた臣民の権利であり人権の保障とはいえず、『法律の留保』があったため、法律でどのように権利を制限することもできた。擬似立憲主義憲法であった」といったような見解が正解とされていたと思います。</p> <p>しかし、この講義ではこのような歴史的背景を考慮しない見解は、必ずしも正解とはなりません。正解とされる憲法知識に疑問を投げかけ、憲法とは何か、憲法はいかにあるべきかを考える姿勢を身につけてもらいたいと思います。その理由は、われわれ国民こそが、憲法をつくり、憲法を変える権力(=主権)をもっているからです。受講者の理解度に応じて講義するため、受講者に質問を投げかけますが、間違いを恐れず答えてほしいと思っています。</p> <p>授業はテキストに沿って進めていきますので、テキストは欠かせないものとなります。初めのうちはやや難しいと感じるかもしれませんが、休むことなく出席し、予習・復習の中で、テキストを読み、講義を聴いているうちに、だんだん分かるようになってくるものだと思います。</p>			
のその他 事項	受講者の理解度に応じて授業を進めるため、予定した15回の授業内容と進度にずれが生じる場合があることを了解してください。受講者を置き去りにした授業はしないように心掛けていきます。			

授業内容及び回数

1 回	<p><憲法と立憲主義・日本憲法史></p> <p>1. 「憲法と立憲主義」として、憲法の意味／憲法の分類／憲法の特質 2. 「日本憲法史」として、明治憲法の成立・性格・運用／日本国憲法の成立・性格・運用</p>
2 回	<p><日本国憲法の構造・基本原理・象徴天皇制></p> <p>1. 「日本国憲法の構造」として、日本国憲法の法源／前文の法的性格 2. 「日本国憲法の基本原則」として、国民主権／基本的人権の尊重／平和主義 3. 「象徴天皇制」として、天皇の地位・権能／皇位の継承／皇室財産</p>
3 回	<p><基本的人権の保障></p> <p>1. 基本的人権の歴史 2. 人権の享有主体 3. 特別権力関係 4. 私人間における人権保障 5. 包括的人権 6. 法の下の平等</p>
4 回	<p><精神的自由権></p> <p>1. 思想・良心の自由 2. 信教の自由と政教分離 3. 学問の自由 4. 表現の自由 5. 集会・結社の自由 6. 通信の秘密</p>
5 回	<p><身体の自由></p> <p>1. 奴隷的拘束・苦役からの自由 2. 適正手続きの保障 3. 被疑者の権利 4. 刑事被告人の権利 5. 拷問及び残虐な刑罰の禁止</p>
6 回	<p><経済的自由権></p> <p>1. 居住・移転の自由 2. 職業選択の自由 3. 外国移住・国籍離脱の自由 4. 財産権</p>
7 回	<p><社会権></p> <p>1. 生存権 2. 教育を受ける権利 3. 勤労権と労働基本権</p>
8 回	<p><参政権と国務請求権></p> <p>1. 参政権 2. 国務請求権 3. 国民の義務</p>
9 回	<p><統治機構の基本原則></p> <p>1. 権力分立 2. 代表民主制 3. 選挙 4. 政党</p>
10 回	<p><国会と立法権></p> <p>1. 国会の地位 2. 国会の権能 3. 国会議員の地位・特権 4. 国会の会期</p>
11 回	<p><内閣と行政権></p> <p>1. 内閣の地位 2. 内閣の組織 3. 内閣の権能 4. 内閣の責任</p>
12 回	<p><裁判所と司法権></p> <p>1. 裁判所の地位 2. 裁判所の組織 3. 裁判所の権能 4. 司法権の独立 5. 違憲審査制 6. 憲法訴訟</p>
13 回	<p><財政></p> <p>1. 財政の基本原則 2. 予算</p>
14 回	<p><地方自治></p> <p>1. 地方自治の本旨 2. 地方公共団体の組織・権能 3. 住民自治</p>
15 回	<p><憲法改正></p> <p>1. 憲法改正の意義 2. 憲法改正手続き 3. 憲法改正の限界</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
環 境 と 人 間	2 年 ・ 前 期	講 義	30時間 (2 単 位)	藤 井 太 郎
授 業 概 要	<p>人間は生物であり、地球環境の中に生を受け、生かされて生活し、次世代へと生命をつないできた。地球環境を良好に維持することは現在に生きる人間のみならず後世への責任であり、生きとし生きる生物に対する責務でもあります。本授業では、環境と人間の関係を様々な観点から学び現代社会のあり方を身近な問題から見直し、未来に向けて人類がどう対処すべきか、今我々に何ができるかを考え、環境問題と健康に関心をもち生命（いのち）を大切にすること、子ども達を育てる力をつけていくことをねらいとします。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>地球の環境（とくに自然環境を軸として）と人間に関する諸問題（環境破壊、エネルギー問題など）を学ぶ中で、1. その原因や背景、2. 現状と影響、3. 対応策などについて考え、理解を深めます。また、自然との共生や他者・他国との共生も視野に入れた持続可能な社会環境や人間のあり方を考えていきます。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境についての基本的な知識を学び、多角的な視点から捉え考察できるようにします。 2. 人ごと・よそ事ではなく、自分の身近な問題として環境問題やエネルギー問題を捉え考察できるようにします。 3. 問題意識を持って自らの周囲に目を向け、環境問題に取り組もうとする意識・姿勢・態度を養うことができるようになります。 			
テ キ ス ト	<p>生活と環境の科学／佐島群巳・横川洋子編著／学文社／1,800円 （その他、必要に応じてプリント教材を配布します。また、ビデオやDVD等視聴覚教材も利用します）</p>			
参 考 書	<p>プランB4.0／レスター・ブラウン／ワールドウォッチジャパン／2,625円 幼児のための環境教育／岡部翠 編／新評論／2,000円＋税</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>授業に取り組む意欲・態度 20%、レポート・発表 20%、定期試験60%で総合的に評価します。</p>			
メ ッ ク の セ ー ジ	<p>近年、環境問題とエネルギー問題は地球規模の喫緊の課題として取り上げられています。日々の生活の中で環境に関するニュースや情報などに関心を持って、自らの頭で考えるようにしてください。</p> <p>また、授業内では、環境破壊やエネルギー問題に関する視聴覚教材を用いたり、各自の関心あるテーマに沿って研究・発表も実施したいと考えています。積極的に授業参加すること、予習復習の意識を持つことを求めます。</p>			
そ の 事 項	<p>内容は学生の関心、理解度、授業の流れによって多少変更することもあります。</p>			

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 環境とは？公害問題の歴史
2 回	大気汚染について： 大気汚染の実態と健康被害、歴史、原因、対策について学び、考察する。 映像教材の視聴または課題発表1
3 回	水の問題（水質汚濁等）： 水質汚濁の実態と原因、歴史、健康被害、対策について学び、考察する。 映像教材の視聴または課題発表2
4 回	ゴミ問題とリサイクル： ゴミ問題の実態と対策としてのリサイクルを含む4Rについて学び、考察する。 映像教材の視聴または課題発表3
5 回	地球環境の温暖化とオゾン層の破壊： 現状と原因、歴史、対策等について学び、対策も含めて考察する。 映像教材の視聴または課題発表4
6 回	食の問題と食の安全： 食品添加物、遺伝子組み換え等について学び、考察する。 課題発表5
7 回	食の問題と食の安全： 環境ホルモンなど新たな食の問題について学び、考察する。 課題発表6
8 回	その他の環境問題： 騒音公害、地盤沈下、悪臭などについて学び、考察する。
9 回	最近話題の呼吸器疾患：花粉症、PM2.1 や喫煙の害について学び、考察する。 課題発表7
10 回	望ましい消費者となるために： 環境やエネルギー問題を理解し考えて生活する消費者になるとともに、良き消費者となる子どもを育成する力をつける。
11 回	生き物の保全（自然と生態系）：生態系、生物多様性について学び、考察する。 課題発表8
12 回	環境型社会の構築（開発と環境）：自然と人間の共生、環境保全の取り組み循環型社会、経済システムについて学び、考察する。
13 回	環境倫理と生命倫理： これまで学んだ「科学的な観点」を中心とした学びをもとに、哲学的・倫理的な視点から環境を考察する。
14 回	環境としての情報化社会： 自然環境以外でも子どもに大きな影響を与える社会環境について学び、考察する。（テレビ、テレビゲーム、パソコン、携帯電話等の問題点等）
15 回	総復習： 過去14回の学習を総復習し、まとめる。
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報リテラシーと処理技術	1年・前期	演習	60時間 (2単位)	丸山 幸三
授業概要	Windowsの基本操作やワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる表やグラフの作成、インターネットの利用などの演習を通じて、コンピュータの利用技術を学習します。さらに、応用操作を身につけるため「園だより」の作成など業務に即した課題にも取り組みます。			
授業科目の目的	パソコンをはじめとする情報機器を実際に操作し、活用できる能力を身につけます。 インターネットを始めとするネットワークについての基礎知識を身につけます。 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての基礎知識を身につけます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの仕組みと基本操作を理解することができます。 2. インターネットの基本概念理解し、活用する能力を身につけることができます。 3. 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての基礎知識を身につけることができます。 4. ワープロソフトを活用し、基本的な文書を作成する能力を身につけることができます。 5. 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身につけることができます。 6. プレゼンテーションソフトを活用し、発表資料を作成する能力を身につけることができます。 7. ホームページの仕組みを理解することができます。 			
テキスト	なし。授業内でプリント等を配布します。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク社会における情報の活用と技術／実教出版 ・Microsoft Word2007 セミナーテキスト基礎 [新装版] /日経B P社 ・Microsoft Excel2007 セミナーテキスト 基礎 [新装版] /日経B P社 ・情報倫理ハンドブック／NOA出版 			
成績評価基準	定期試験60%、提出課題30%、学習態度10%をもとに総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	課題として、演習において作成したファイルなどの提出を指示することがあります。提出された課題については、試験成績、学習態度とともに評価の対象としますので、提出忘れのないようにしてください。この分野は成長が著しく、常に最新の動向を捉えておく必要があります。ここで習得した知識を基礎として、今後の変化に柔軟に対応する能力が求められます。			
その他	第2回、第3回の講義で使用する教材として「情報倫理ハンドブック（定価512円）」を別途購入して頂きます。詳細は第1回のオリエンテーションにて案内します。			

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 授業目標、成績評価、教室・情報機器を利用する上での注意等の説明。	16 回	<表計算ソフトの概要> ブックやシートの操作、データ入力、コピー、移動方法を理解する。
2 回	<情報倫理> インターネットを通じての情報の適切な取扱い方法を身につける。	17 回	<計算式の利用> 計算式の入力方法を理解する。
3 回	<情報管理と情報セキュリティ> 情報管理、情報セキュリティ、ネット犯罪について理解する。	18 回	<基本関数の利用> 関数を使って合計や平均を求める方法を理解する。
4 回	<教育者としての情報リテラシー> 教育現場で求められるICT機器の活用方法を理解する。	19 回	<応用関数の利用> 日付、条件判定、端数処理などの関数の活用方法を理解する。
5 回	<ハードウェアとソフトウェア> パソコン、周辺機器の構成理解とソフトウェアの働きを理解する。	20 回	<グラフの作成1> エクセルデータを基に、基本的なグラフを作成する能力を身につける。
6 回	<ネットワークの基礎> ネットワーク、インターネット、電子メールの仕組みや、活用方を理解する。	21 回	<グラフの作成2> エクセルデータを基に、応用的なグラフを作成する能力を身につける。
7 回	<Windowsの基本操作> Windowsの基本操作、ファイル操作、日本語入力システムを理解する。	22 回	<データベース機能> データベース機能を理解し、活用できる能力を身につける。
8 回	<ワープロソフトの基本> ワープロソフトでの文書作成の基本を身につける。	23 回	<ブックの利用> 複数のワークシートの連携方法を理解する。
9 回	<文書編集> ワードにて作成した文書を編集する能力を身につける。	24 回	<シート分析と入力規則> 条件付き書式、SmartArtグラフィックス、入力規則などを理解する。
10 回	<罫線・表・図形の活用> 文書に罫線や表を追加する能力を身につける。	25 回	<総合課題1> ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する。
11 回	<イラスト、画像の活用> 文書にイラストや画像ファイルを追加する能力を身につける。	26 回	<総合課題2> ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する。
12 回	<プレゼンテーションソフト> プレゼンテーションソフトを使って発表資料を作成する能力を身につける。	27 回	<総合課題3> ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する。
13 回	<プレゼンテーションソフト> プレゼンテーションソフトの操作方法、活用方法を理解する。	28 回	<総合課題4> ワードを使って文書を作成し、より実践的な活用方法を身につける。
14 回	<Webページ作成1> Webページの仕組みとHTMLの要素を理解する。	29 回	<総合課題5> エクセルを使ってワークシートを作成し、より実践的な活用方法を身につける。
15 回	<Webページ作成2> 簡単なWebページが作成できる能力を身につける。	30 回	<総合課題6> ワード、エクセルを組み合わせた文書作成し、より実践的な活用方法を身につける。
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
健康科学	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	池田 正章
授業概要	健康科学のテキストとスポーツに関する視聴覚教材を使用した講義と演習で科学的な根拠に根ざした健康づくりを学びます。グループでの課題研究発表も行います。			
授業科目の目的	日々、健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境や生活の変化は、私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えることができるようになります。 2. 救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身につけるとともに、生涯における健康な生活設計（薬物・アルコール・たばこ・エイズ等）への自己の認識を確立し、実践できるようにします。 			
テキスト	健康科学／長谷川定宣／近畿大学豊岡短期大学通信教育部			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート・発表20%、実技10%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。 2. 課題レポート では課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識を習得・理解できているか。 			
受講の心構えとメッセージ	日頃からの自己の健康管理を考え実践してください。また、予習・復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み科学的健康づくりを実践することを求めます。課題レポートは本学図書館等を活用し完成させてください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える。
2 回	運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ。
3 回	運動生理学 運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経について知識を深める。
4 回	救命救急 救命救急処置についての知識と処置法、AEDの取り扱い方を学ぶ。
5 回	運動処方1 運動処方について学ぶとともに、毎夏に運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ。
6 回	運動処方2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて。
7 回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る。
8 回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康づくりを学ぶ。
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
スポーツ (実技)	1年・通年	実技	45時間 (1単位)	池田 正章
授業概要	<p>各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わいます。仲間と身体活動を行う中で自己の体力・健康の保持増進を図ります。将来、保育者、指導者としての子ども達への指導法や競技の運営について学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とします。講義では、健康と安全に留意しながら対人的・集団的のスポーツを楽しむことができ、作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学びます。各種のスポーツを仲間とともに技能の上達を図りながら楽しみ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球を仲間とともに楽しみ、技術の上達を図ることができるようにします。 各スポーツのルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようにします。 障害のある方々が行うスポーツについて体験し、指導者としての知識を獲得できるようにします。 			
テキスト	健康科学／長谷川定宣／近畿大学豊岡短期大学通信教育部			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート10%、実技・技能20%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーシップや周りへの配慮ができていますか。 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 実技・技能では、技能が発揮できるとともに、チームメイトへの指導力も備えているか。 定期試験では、知識を習得・理解ができていますか。 			
受講の心構えとメッセージ	<p>この講義を通して、スポーツをすることの意味をあらためて考えてみましょう。また、スポーツの新たな魅力や関わり方を発見することが大切です。スポーツ (実技) は参加してこそ、そのスポーツの本来の楽しさを味わうことができます。見学・欠席しないように日頃の健康管理を実践してください。また、予復習としては、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組み健康づくりを行ってください。課題レポートは本学の図書館等を活用し完成させてください。</p>			
その他事項	<p>実技では、運動のできる服装・シューズを準備し指導者 (保育士) の心構えを身につけよう。</p>			

授業内容及び回数

1 回	ガイダンス スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ。	16 回	軽スポーツ・レクリエーション他
2 回	バレーボール1 基本練習・ルール説明・障害者スポーツについて学ぶ。	17 回	障害者スポーツ1 風船バレーボールについて学ぶ。
3 回	バレーボール2 応用練習でバレーボールの技能を上達しゲームを楽しむ。	18 回	障害者スポーツ2 障がいを持つ人とスポーツ交流を行う。(風船バレー)
4 回	バレーボール3 バレーボールの技能を上達し、チームゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	19 回	卓球1 シングルの基本練習で技能の上達を図る。
5 回	軽スポーツ・レクリエーション他	20 回	卓球2 シングルのルールを学び、技能の上達を図りリーグ戦方式でゲームを楽しむ。
6 回	バレーボール4 技能を上達させ、作戦を立てゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	21 回	卓球3 シングルの技能の上達を図り、リーグ戦方式でゲームを楽しむ。
7 回	バスケットボール1 基本練習・ルール説明・障害者スポーツについて学ぶ。	22 回	卓球4 ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ。
8 回	バスケットボール2 応用練習でバレーボールの技能を上達しゲームを楽しむ。	23 回	卓球5 ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ。
9 回	バスケットボール3 バレーボールの技能を上達し、チームゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	24 回	
10 回	バスケットボール4 技能を上達させ、作戦を立てゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	25 回	
11 回	バスケットボール5 技能を上達させ、作戦を立てゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	26 回	
12 回	バドミントン1 バドミントンの基本練習で技能の上達を図る。	27 回	
13 回	バドミントン2 ダブルスの基本練習・応用練習・ルールを学び、ゲームを楽しむ。	28 回	
14 回	バドミントン3 ダブルスでゲームを楽しみ、上達する。	29 回	
15 回	バドミントン4 ダブルスのゲームをでリーグ戦方式で楽しみ、上達する。	30 回	
		【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
キャリアアップ I	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	マナーは、教育者、保育者として基本的な礼儀・作法を実践的に学びます。一般常識は社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。作文は、観察から文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。			
授業科目の目的	学生一人ひとりが、将来の自分のイメージをしながら、社会で活動するための力を養うことが目的です。保育者・社会人として必要なマナーや教養を身につけることを目指します。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として基本的な礼儀・作法を身につけることができます。 2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけることができます。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。 			
テキスト	授業の中で紹介します。			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>マナーは授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。</p> <p>一般常識は授業態度・意欲30% 小テスト、課題等を70%として総合的に評価します。</p> <p>作文は授業態度・意欲30% 課題を70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準はマナー50%、一般教養関係25%、作文関係25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	「マナー」、「一般常識」と「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション ＜マナー・一般常識・作文の授業内容について＞
2 回	マナー1. 服装・身だしなみ
3 回	一般常識1. 一般常識テスト・解説等（1） 作文1. 観察したことを記録する「風景」
4 回	マナー2. 敬語の使い方
5 回	一般常識2. 一般常識テスト・解説等（2） 作文2. 観察したことを記録する「絵本（1）」
6 回	マナー3. 表情・挨拶・お辞儀の仕方
7 回	一般常識3. 一般常識テスト・解説等（3） 作文3. 観察したことを記録する「絵本（2）」
8 回	マナー4. 電話のかけ方・受け方
9 回	一般常識4. 一般常識テスト・解説等（4） 作文4. 観察したことを記録する「動画・・・3分間クッキング」
10 回	マナー5. 掃除の仕方
11 回	一般常識5. 一般常識テスト・解説等（5） 作文5. 観察したことを記録する「動画・・・保育園児の生活（1）」
12 回	マナー6. 聞き取りやすい話し方
13 回	一般常識6. 一般常識テスト・解説等（6） 作文6. 観察したことを記録する「動画・・・保育園児の生活（2）」
14 回	マナー7. 振り返り・まとめ
15 回	一般常識7. まとめ テスト・解説等 作文7. 観察したことを記録する「動画・・・保育園児の生活（3）」
【定期試験】 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
キャリアアップⅡ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>社会人として求められる一般常識を身につける学習を行っていきます。具体的には、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。作文は、自己分析をし表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して常識と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>キャリアアップⅠの学習をさらに深め、学生自身が、将来を見据えて、就職に必要な知識とスキルを高め、保育者・社会人としての質の向上を目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として基本的な知識と技能を身につけることができます。 2. 社会人・保育者として必要な常識を身につけることができます。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。 保育は授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。 一般常識は授業態度・意欲30% 小テスト、課題等を70%として総合的に評価します。 作文は授業態度・意欲30% 課題を70%として総合的に評価します。 ※総合評価基準は保育50%、一般常識関係25%、作文関係25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「保育」と「一般常識」、「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。短期間では身につけませんので、主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション／メディアリテラシーの理解
2 回	一般教常識1. 一般常識模擬テスト. 解説等 作文1. 表記について
3 回	保育1. 保育観察・理解（子どもの発達 0歳～2歳）（1）
4 回	一般教養2. 一般常識テスト・解説等（1） 作文2. 自己分析をする
5 回	保育2. 保育観察・理解（子どもの発達 0歳～2歳）（2）
6 回	一般教養3. 一般常識テスト・解説等（2） 作文3. 自己分析を文章にする
7 回	保育3. 保育観察・理解（保育者の援助 0歳～2歳）（1）
8 回	一般教養4. 一般常識テスト・解説等（3） 作文4. 自己紹介文を作成する
9 回	保育4. 保育観察・理解（保育者の援助 0歳～2歳）（2）
10 回	一般教養5. 一般常識テスト・解説等（4） 作文5. 自己紹介をする
11 回	保育5. 保育観察・理解（環境 3歳～5歳）
12 回	一般教養6. 一般常識テスト・解説等（5） 作文6. 長所を文章にする
13 回	保育6. 保育観察・理解（子どもの姿 3歳～5歳）
14 回	一般教養7. まとめテスト・解説等 作文7. 長所を発表する
15 回	保育7. 保育観察・理解（保育者の援助 3歳～5歳）
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
キャリアアップ	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>社会人として求められる一般常識を身につける学習を行っていきます。具体的には、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。作文は、自己分析をし表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、保育者としての模擬保育を行い、実践的学習を通して、保育者としての資質を高める内容を実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>社会人に求められる「自ら考え、行動し、協力し合える力」の向上を目指します。学生一人ひとりが将来に向けて、目標を持ち、計画を立てて、この演習での学びを充実させ自分自身のキャリアアップを図ることが目的です。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として基本的な知識と技能を身につけることができます。 2. 社会人・保育者として必要な一般常識を身につけることができます。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。 			
テキスト	授業の中で紹介します。			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。 保育は授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。 一般常識は授業態度・意欲30% 小テスト、課題等を70%として総合的に評価します。 作文は授業態度・意欲30% 課題を70%として総合的に評価します。 ※総合評価基準は保育50%、一般教養関係25%、作文関係25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとセージ	<p>学生一人ひとりが、卒業後の進路希望の実現をめざす授業内容です。就職することで各自のキャリアがスタートしますが、その就職活動に実際に取り組む際に必要な基本的知識と技術を身につけ、就労意識を高めて、適切な職業選択に役立てましょう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション
2 回	模擬保育1. 3歳～5歳児(1)
3 回	模擬保育2. 3歳～5歳児(2)
4 回	模擬保育3. 3歳～5歳児(3)
5 回	模擬保育4. 0歳～2歳児(1)
6 回	模擬保育5. 0歳～2歳児(2)
7 回	模擬保育6. 0歳～2歳児(3)
8 回	模擬保育7. 0歳～2歳児(4)
9 回	一般常識1. 一般常識模擬テスト・オリエンテーション 作文1. 小論文について
10 回	一般常識2. 一般常識テスト・解説等(1) 作文2. テーマをもとに小論文を書く
11 回	一般常識3. 一般常識テスト・解説等(2) 作文3. テーマをもとに小論文を書く
12 回	一般常識4. 一般常識テスト・解説等(3) 作文4. テーマをもとに小論文を書く
13 回	一般常識5. 一般常識テスト・解説等(4) 作文5. テーマをもとに小論文を書く
14 回	一般常識6. 一般常識テスト・解説等(5) 作文6. テーマをもとに小論文を書く
15 回	一般常識7. まとめ テスト・解説等 作文7. テーマをもとに小論文を書く
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーション	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	和田 憲明
授 業 概 要	テキストは保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読んでいきます。また保育者と子どもや保護者との会話に使われる表現や、連絡事項の書き方などを学習します。			
授 業 科 目 の 目 的	近頃では、幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えている。保育の現場で必要な英語を身につけることを目的とします。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができますようにします。 2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようにします。 			
テ キ ス ト	新・保育の英語／森田和子／三修社／1,995円			
参 考 書				
成 績 評 価 基 準	定期試験、小テストの成績、課題の提出状況、授業に取り組む姿勢・態度などで評価します。定期試験50%、課題・小テスト20%、授業態度30%			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	学習の効果を上げるためには、テキストを使った家庭での学習が不可欠です。テキストと英和辞典を持参し、積極的に授業に取り組んでください。			
そ の 他				

授業内容及び回数

1 回	< The School Year Begins > 本文の読解、基本表現、練習
2 回	< Arrival > 本文の読解、基本表現、練習
3 回	< Playtime in the Classroom > 本文の読解、基本表現、練習
4 回	< In the Sandbox > 本文の読解、基本表現、練習
5 回	< Grammar 1 > 一般動詞・be 動詞
6 回	< Lunchtime > 本文の読解、基本表現、練習
7 回	< Changing Clothes and Story Time > 本文の読解、基本表現、練習
8 回	< Nap Time > 本文の読解、基本表現、練習
9 回	< A Sick Child > 本文の読解、基本表現、練習
10 回	< Grammar 2 > 疑問文・否定文・命令文
11 回	< Preparation for Sports Day > 本文の読解、基本表現、練習
12 回	< Sports Day > 本文の読解、基本表現、練習
13 回	< Going for a Walk > 本文の読解、基本表現、練習
14 回	< Discovering Autumn > 本文の読解、基本表現、練習
15 回	< Grammar 3 > 前置詞
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーションⅡ	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	和田 憲明
授業概要	日本とアメリカの文化や社会事情の比較に関する英文を読みながら、中学・高校で学んだ文法の復習をしたり、両国の文化・社会事情の違いについて考えを深めます。			
授業科目の目的	進学・就職に向けて、総合的な英語の力を伸ばすことをめざします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語読解力、リスニング力、ライティング力、スピーキング力など、英語の4技能を高めることができるようにします。 2. 文法事項の説明などを受けて、基本的な英語知識を定着することができるようにします。 			
テキスト	Basically America, Basically Japan / Charles L. Clark 他 / 南雲堂 / 1,995円			
参考書				
成績評価基準	定期試験、小テストの成績、課題の提出状況、授業に取り組む姿勢などで評価します。定期試験50%、課題・小テスト20%、授業態度30%			
受講の心構えとメッセージ	学習の効果を上げるためにはテキストを使った家庭学習が不可欠です。テキストと英和辞典を持参し、積極的に授業に取り組んでください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	< Cherry Blossoms 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
2 回	< Cherry Blossoms 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
3 回	< Capital Cities 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
4 回	< Capital Cities 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
5 回	< Movies 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
6 回	< Movies 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
7 回	< Transportation 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
8 回	< Transportation 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
9 回	< Advertisements 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
10 回	< Advertisements 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
11 回	< Education 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
12 回	< Education 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
13 回	< Loan Words 1 > 本文の読解、リーディング、問題演習
14 回	< Loan Words 2 > 本文の読解、リーディング、問題演習
15 回	< 復習とまとめ > 総復習、学習アンケート
【定期試験】 (有) ・ 無	

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
教科専門科目							
こ ども 学 概 論		○			森 成 美	29	
児 童 家 庭 福 祉		○			安 達 美 穂	31	
社 会 福 祉 論	○				森 合 真 一	33	
相 談 援 助				○	栗 岡 あ け み	35	別に定める授業科目
保 育 相 談 支 援				○	岡 本 妙 子	37	
地 域 福 祉 論				○	森 合 真 一	39	
障 害 児 (者) 福 祉 論			○		森 合 真 一	41	
こ ども と 音 楽	○				西 野 亨 丸	43	
こ ども と 造 形 I	○				岩 田 健 一 郎	45	
こ ども と 造 形 III			○		岩 田 健 一 郎	47	
こ ども と 造 形 IV				○	岩 田 健 一 郎	49	
こ ども と 体 育 I	○				池 田 正 章	51	
こ ども と 体 育 II		○			池 田 正 章	53	
こ ども と 文 学			○		小 西 律	55	
家 庭 支 援 論		○			岡 本 妙 子	57	
こ ども の 保 健 I			○		谷 岡 ま さ 子	59	
こ ども の 保 健 II				○	谷 岡 ま さ 子	61	
こ ども の 保 健 III				○	原 田 玻 瑠 美	63	
保 育 原 理	○				岡 本 妙 子	65	
社 会 的 養 護	○				安 達 美 穂	67	
精 神 保 健			○		野 口 和 也	69	
こ ども の 食 と 栄 養			○	○	岡 崎 典 子	71	
障 害 児 保 育		○			岡 本 妙 子	73	別に定める授業科目
地 域 ボ ラ ン テ ィ ア	○	○	○	○	岸 本 英 之	75	
こ ども の 人 権			○		野 畑 健 太 郎	77	
こどもと音楽表現Ⅲ(器楽)			○	○	茨木・大江・大谷・松本	79	
医 学 一 般			○		原 田 玻 瑠 美	81	
保 育 総 合 演 習 II			○	○	担 当 教 員	83	
卒 業 研 究			○	○	担 当 教 員	85	
特 別 研 究 I	○	○			担 当 教 員	87	
特 別 研 究 II	○	○			担 当 教 員	89	
図 書 館 情 報 技 術 論				2 年 次	戸 邊 俊 哉	91	集中講義(面接1単位、印刷教材1単位)
図 書 館 制 度 ・ 経 営 論				○	戸 邊 俊 哉	93	
図 書 館 サ ー ビ ス 概 論				○	戸 邊 俊 哉	95	
情 報 サ ー ビ ス 論				2 年 次	原 田 安 啓	97	集中講義(面接1単位、印刷教材1単位)
児 童 サ ー ビ ス 論				○	戸 邊 俊 哉	99	
図 書 館 情 報 資 源 概 論				2 年 次	原 田 安 啓	101	集中講義(面接1単位、印刷教材1単位)
情 報 資 源 組 織 論				○	戸 邊 俊 哉	103	
図 書 館 情 報 資 源 特 論			○		戸 邊 俊 哉	105	
図 書 館 施 設 論			○		戸 邊 俊 哉	107	

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
教職専門科目							
教 職 論			○		藤 井 太 郎	109	
教 育 原 理		○			伊 藤 博	111	
教 育 心 理 学		○			野 口 和 也	113	
発 達 心 理 学	○				野 口 和 也	115	
こ ど も と 文 化	○	○			小 西 律	117	
教 育 課 程 論			○		宿 南 久 美 子	119	
保 育 内 容 総 論				○	宿 南 久 美 子	121	別に定める授業科目
こ ど も と 健 康		○			栗 岡 あ け み	123	
こ ど も と 人 間 関 係		○			野 口 和 也	125	
こ ど も と 環 境		○			藤 井 太 郎	127	
こ ど も と 言 葉	○				森 成 美	129	
こ ど も と リ ズ ム 表 現		○			茨 木 金 吾	131	別に定める授業科目
こ ど も と 造 形 表 現 I		○			岩 田 健 一 郎	133	別に定める授業科目
こ ど も と 音 楽 表 現	○	○			西野・大江・大谷・松本	135	
教 育 方 法 論			○		伊 藤 博	137	
教 育 相 談				○	岸 本 英 之	139	
乳 幼 児 保 育			○		井 上 美 由 紀	141	別に定める授業科目
社 会 的 養 護 内 容		○			安 達 美 穂	143	別に定める授業科目
教 育 実 習			実習		宿 南 久 美 子	145	
教 育 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導		○	○	○	宿 南 久 美 子	147	
保 育 実 習 I	実習				栗 岡 ・ 岡 本 妙 子	149	
保 育 実 習 指 導 I	○	○	○		栗 岡 ・ 岡 本 妙 子	151	別に定める授業科目
保 育 実 習 II			実習		栗 岡 あ け み	153	
保 育 実 習 指 導 II			○	○	栗 岡 あ け み	155	別に定める授業科目
保 育 実 習 III			実習		岡 本 妙 子	157	
保 育 実 習 指 導 III			○	○	岡 本 妙 子	159	別に定める授業科目
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)				○	宿 南 ・ 森	161	

◎專門教育科目

○教科專門科目

○教職專門科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども学概論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	森 成美
授業概要	こども学は近年、注目を浴びながら発展している学問です。これまで、教育学、心理学、小児医学、社会学、文化人類学など多岐にわたる学問領域において、それぞれ「こども」について取り組んできました。しかし、「こども」はひとりの人間として存在し、「こども」時代を生きていると言えます。特に幼児期を、一つの領域から理解するだけでなく、総体としての「こども」を理解することは、保育者を志すみなさんにとって必要不可欠なことです。「こども」について認識し、よき「こども」の理解者となるように学んでいきます。			
授業科目の目的	誰でも「こども」であった時代があり、そしていつか「こども」ではなくなる時期を迎えます。 「こども」とは、いったいどのような存在なのでしょう。この授業では、「こども」を多面的に見ることによって、こども理解を進めることを目的としていきます。 社会で起こる様々な事例を通してこどもについて考え、深いこども観を持った保育者になるよう学んでいく時間にしましょう。			
学習成果	1. 「こども」の歴史的意味や概観を理解することができるようにします。 2. 「こども」を、生物的・心理的・社会的な立場から考察することができるようにします。 3. 現代のこどもに関わる様々な問題を理解し、自らの考えを深めることができるようにします。			
テキスト	必要に応じてプリント、資料を配布します。			
参考書	子ども学概論／稲垣由子／丸善プラネット／1,600円 新学力観に立つ子ども理解と評価法の改善／森成美他／明治図書／2,060円			
成績評価基準	授業態度20%、課題レポート・発表等の取り組み20%、定期試験60%で、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	こども学科で学ぶ学生として、「こども」とは何か、改めて考えてほしいと思います。「こども」とはどのような存在であり、どう育っていくのか。また、育ってほしいのか。「こども」に興味を持ち、様々な観点から「こども」について考え、共に学びあっていきましょう。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 「こども学」とは何か
2 回	<「こども」とは？ 1> 「こども」と法律
3 回	<「こども」とは？ 2> 「こども」と福祉
4 回	<こども観の変遷 1> 江戸～明治時代
5 回	<こども観の変遷 2> 大正～昭和・平成時代
6 回	<世界のこどもたち 1> 様々な状況で生きるこどもたち
7 回	<世界のこどもたち 2> 外国のこどもと日本のこども
8 回	<こどもの文化と社会 1> 遊びについて（レポート作成）
9 回	<こどもの文化と社会 2> 遊びについて（レポート作成）
10 回	<こどもの文化と社会 3> 遊びについて（プレゼンテーション）
11 回	<こどもをめぐる問題 1> いじめ、不登校について
12 回	<こどもをめぐる問題 2> 情報化とコミュニケーションについて
13 回	<こどもをめぐる問題 3> 虐待について
14 回	<こどもをめぐる問題 4> 少子化、貧困等について
15 回	<まとめ> こどもの幸せとは何か
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
児童家庭福祉	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	安達 美穂
授業概要	<p>現代社会において子どもや家庭を取り巻く環境がどのような状況にあるのかを明らかにし、子ども家庭福祉の理念や制度を理解することにより、そのルールに基づいた実践の方法を習得します。</p> <p>また、保育士として必要な児童福祉法や児童虐待防止法などの法律と制度を理解し、児童家庭福祉の実情や各種の福祉制度等に関する基礎知識の理解を深めます。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもや家庭を取り巻く環境、子ども家庭福祉施策を概説し、具体的な支援の在り方や保育者の役割について理解し、実践につなげることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。 2. 児童家庭福祉制度の歴史や児童の権利についての理解を深める。 3. 児童家庭福祉制度や、児童家庭福祉に関連する法律について知る。 4. 児童虐待の実態とその対策について知る。 5. 特別な配慮を要する子ども、親・保護者への援助のあり方について考察する。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童や家庭を取り巻く環境が言葉で説明できるようにします。 2. 児童家庭福祉の理念と実施体系について関係づけて考えることができるようにします。 3. 児童家庭福祉の現状や動向、今後の展望を論ずることができるようにします。 4. 望ましい福祉観と支援観を持ち、実践することができるようにします。 5. 社会的養護で学習したことを応用し、保育活動に関連づけて考察することができるようにします。 			
テキスト	保育と児童家庭福祉／櫻井 奈津子 編集／みらい書房 原則として、授業毎に資料を配付します。			
参考書	保育と社会的養護原理／櫻井 奈津子 編集／みらい書房 保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館 社会福祉小六法 他			
成績評価基準	定期試験を50%、小テスト2回10%、授業ごとの演習問題20%、受講態度等20%（講義中の態度と意欲も加味する）により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料とテキスト、参考書を中心に演習を進めるので、指定されたものを持参すること。 ・専門用語や援助技術に関してわからない項目について、資料や参考書を基にして各自調べておくこと。 ・授業後には配布資料やワークシート等をポートフォリオにまとめて事後学習に活用すること。 ・授業で指示した演習課題を評価の対象とするので、期限を守って提出すること。 <p>*毎時間ごとの演習問題については、原則として、授業終了後に全て解答し提出し、提出できない場合は、次回の授業までに完成させて提出すること。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	授業内容などについてのガイダンス 児童家庭福祉とは何か
2 回	児童を取り巻く状況 子どもと家庭の状況 少子化 家族・社会・地域の変容
3 回	子どもの権利 権利保障の歴史 子どもの権利を護る取り組み
4 回	児童家庭福祉の歴史 イギリス・アメリカ・日本 各々の児童家庭福祉
5 回	児童家庭福祉の制度と法体制 児童福祉法とその他の関連法律
6 回	児童家庭福祉行財政と実施機関と施設・事業
7 回	子育て支援サービスと児童の健全育成 エンゼルプラン、支援サービス
8 回	母子保健サービス 母子保健の理念、サービスの実施と体系、取り組み
9 回	保育サービス 保育所と待機児童の問題、各種保育サービス
10 回	児童虐待とDV 社会的養護との関連性 代替的養護や今後の課題
11 回	ひとり親家庭への福祉 現状と生活状況、サービスの概要
12 回	障害のある子どもへの福祉 新たな福祉観、定義と現状、福祉政策
13 回	情緒障害・少年非行問題
14 回	児童家庭福祉専門職と連携1 専門機関・専門職や関連機関との連携 児童家庭福祉のまとめ1
15 回	児童家庭福祉専門職と連携2 児童家庭福祉の専門性と連携の重要性と留意点 児童家庭福祉のまとめ2
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
社会福祉論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	森合 真一
授業概要	2000(平成12)年には社会福祉事業法が改正(社会福祉法)、介護保険制度もスタートし、その後、障害者自立支援法が施行され、あるいは、次世代育成支援対策、高齢者医療保険改革など、我が国の社会福祉制度は大きな変革を辿っています。このような現状において社会福祉の意義や理念、法体系などの全体像が把握できるよう、近年の社会状況を踏まえながら講義を進めていきます。			
授業科目の目的	一人ひとりの幸せの実現を目指す社会福祉政策、国民の生活の質およびフィールドにおける実践の内実は、決して十分とは言えませんが、私たちは社会福祉の実現を目指していく努力を惜しんではならないであろうと考えます。このような視点に立って、現代社会における社会福祉の意義、理念、そして、社会福祉の制度、法体系および行財政の要旨などについて理解をします。そして、多様化する福祉ニーズに対する専門職としての役割や援助方法について学びます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷が理解できるようにします。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨が理解できるようにします。 3. 社会福祉における公私の役割が理解できるようにします。 4. 相談援助方法及び福祉専門職の役割が理解できるようにします。 5. 社会福祉関連領域の概要が把握できるようにします。 6. 利用者保護の制度、活動が理解できるようにします。 			
テキスト	社会福祉の基本と課題／井村圭壯・相澤譲治 編著／勁草書房／2015年／2,400円(本体価格)			
参考書	福祉とは何だろう／加藤博史 編著／ミネルヴァ書房／2011年／2,400円(本体価格)			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点(講義中の態度・意欲など)を20%とします。			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 2. 講義前にはテキストを読み予習をしておくこと。また、講義後に講義内容の復習をしておくこと。 			
その他	講義内レポートを課した場合、そのレポートの評価は平常点に含む。			

授業内容及び回数

1 回	<生活と社会福祉1> 現代の生活と社会福祉について
2 回	<生活と社会福祉2> 社会福祉と社会保障、保健・医療・福祉の連携について
3 回	<社会福祉の歴史1> 欧米の社会福祉の歴史について
4 回	<社会福祉の歴史2> 我が国の社会福祉の歴史について
5 回	<社会福祉の法律> 社会福祉法、福祉六法、関連した法律について
6 回	<社会福祉の行政組織> 国・地方の行政組織、行政組織の関連施設および機関について
7 回	<社会福祉の民間活動> 社会福祉における民間活動の内容および課題について
8 回	<社会福祉従事者> 社会福祉従事者の資格制度、専門性と倫理について
9 回	<社会福祉における相談援助> 相談援助の意義と原則、相談援助の方法と技術について
10 回	<社会福祉における利用者保護の仕組み> 情報提供と第三者評価、権利擁護と苦情解決について
11 回	<児童家庭福祉の概要> 児童家庭福祉の制度および課題について
12 回	<高齢者保健福祉の概要> 高齢者保健福祉の制度および課題について
13 回	<障がい者福祉の概要> 障がい者福祉の制度および概要について
14 回	<生活保護> 生活保護制度の概要と課題について
15 回	<地域福祉> 地域福祉の概要と課題について
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
相 談 援 助	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授 業 概 要	<p>子どもの養育に関わる保育士は、子育て専門職としてその活躍が期待されています。相談援助は専門職の手による様々な生活上の困難を抱えた人たちを側面から支援する対人援助です。特に、保育士に最低限となる子どもと保護者を受け止める、保護者の気持ちに共感し寄り添うなど、子どもと家族を取り巻く人間関係をいかに支援していくかということに着目しながら、演習問題やロールプレイなどを通して実践的に学んでいきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>保育者として、子ども・保護者にかかわる上で習得しておくべき基本的な対人援助技術について学びます。個人援助技術（ケースワーク）について、その価値・技術・知識について包括的に学びます。</p>			
学 習 成 果	<p>1. 保育士として乳幼児、児童の保育や養護の場面で個別的ニーズを的確に把握し、その充足のために適切な個別援助技術を活用することができる。</p> <p>2. さまざまな支援場面において利用者の最善の利益を計り、人格と徳性を最大限に尊重することができる。</p>			
テ キ ス ト	<p>保育所保育指針解説書／フレーベル館 その他必要な資料は適宜配付する。</p>			
参 考 書	<p>相談援助論／保育出版社／杉本敏夫・豊田志保 編、森合真一 他著／2,381円</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>定期試験を70%、平常点（講義中の態度・発表意欲・コミュニケーション力など）を30%とする。学習姿勢について、質疑や時間外の自己学習によるレポートの提出等は加点材料とし、テキスト持参忘れ、授業中の私語、携帯電話使用、などは減点材料とする。</p>			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	<p>普段から保育や子育てに関する時事的な話題に関心をもつようにしましょう。授業後は配付された資料を読み返し、学んだ知識が汎化できるようにつとめてください。</p>			
そ の 事 項	<p>講義で使ったプリント・資料を収納する専用ファイルを1冊用意しておくこと。</p>			

授業内容及び回数

1 回	< 相談援助の概要 1 > 相談援助の意義と機能
2 回	< 相談援助の概要 2 > 保育とソーシャルワーク
3 回	< 相談援助の方法と技術 1 > 基本的態度とコミュニケーションスキル
4 回	< 相談援助の方法と技術 2 > 家庭に対する保育者の役割
5 回	< 相談援助の具体的展開 1 > 記録・連携・協働
6 回	< 相談援助の具体的展開 2 > 多様な専門職との連携
7 回	< 相談援助事例演習 1 > 障害のある子どもとその保護者への支援
8 回	< 相談援助事例演習 2 > ロールプレイによる事例分析
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育相談支援	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保育士は単に保育サービスを子どもに提供するだけでなく、子育て家庭をも含めて子どもを支援する役割を担います。子育てに戸惑う親は多く、保育士は子育てをする親にとって身近な専門職と言えます。</p> <p>子育て保育相談支援の意義と原則を学び、且つ、さまざまな保育相談支援の場面における実践的対応能力の向上を図っていきます。保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受けとめながら、子どもの養育に関する相談等に応じることができるようになるために、保護者との信頼関係の構築や養育力の向上に資する支援など保護者支援の基本、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際等について習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>保護者への支援を保育士の重要な役割として認識し、保育者としての専門的価値の構築を図ります。そして、自己の保育観を確立し、支援スキルについて学ぶことを目的とします。保護者支援について内容・方法・技術を具体的に理解し、計画・記録・評価・カンファレンスの実際を知り、保育所だけでなく児童養護・障がい児・母子生活支援施設での保育相談支援についても学ぶことを目的とします。</p> <p>相談技術においてはカウンセリング的要素が含まれており、各家庭における様々な悩みごとの個人情報守秘義務等の倫理綱領を遵守することや記録と評価を通してのケースカンファレンスの在り方についても学ぶことも目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について説明できるようにします。 2. 保育相談支援の基本的スキルが修得できるようにします。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法が論じられるようにします。 4. 保育所などの児童福祉施設における保護者支援の実際について述べられるようにします。 			
テキスト	保育者養成シリーズ 保育相談支援／林邦雄・谷田貝公昭 監修 高玉和子・和田上貴昭 編 森合真一 他著／一藝社／2012年／2,200円（税別）			
参考書				
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とします。			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士という専門職業人として、非常に重要な保護者への支援を中心に学んでいきます。すなわち授業では人のこころに触れる内容を扱い、人を支え援ける実際的な活動を学んでいるという意識を持ち、皆さんには真摯で真剣な姿勢を期待します。テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れず、予習復習にも取り組んでください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<保育相談支援とは> 子どもが育つ環境と家族を取り巻く状況、保育相談支援の意義について
2 回	<保育士の専門性を生かした支援> 子どもと家庭の理解、発達を捉えた相談支援、家族を支える相談支援
3 回	<保育相談支援の実際1> 保育相談のポイント／保育相談支援の過程
4 回	<保育相談支援の実際2> 保育相談支援事例の分析および考察
5 回	<子どもの最善の利益> 子どもの最善の利益とは／子どもの権利とは
6 回	<保護者とのパートナーシップ> 保護者とともに子どもを育てる 家庭との連携／ペアレンティングの教育
7 回	<特別な対応を要する家庭への支援> 特別な対応を要する家庭とは／相談援助の展開と考察
8 回	<保護者のエンパワメント> エンパワメントとは何か エンパワメントの実践／ストレングスを引き出す
9 回	<信頼関係を基本とした関わり> 信頼される保育者となるために 情報の提供と共有／職業倫理について
10 回	<社会資源の活用と関係機関> 社会資源と関係機関とは 保育所を中心とした地域ネットワーク／関係機関との連携・協働
11 回	<要保護児童の家庭に対する支援1> 保護者支援の在り方について
12 回	<要保護児童の家庭に対する支援2> 要保護児童家庭支援の展開／連携の在り方／事例検討
13 回	<保護者に伝わる保育指導> 何を伝えるのか 個別の方法と集団を通しての方法
14 回	<保護者支援の方法と技術> 個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について／面接技法について
15 回	<保護者支援の内容> 支援ニーズの発見／相談内容のアセスメント／マッピングの活用について
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
地域福祉論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	森合 真一
授業概要	すべての人々が地域の一構成員として、社会生活を営んでいくことの意義について学びます。そして、地域福祉の定義づけ、福祉コミュニティを形成していく上での地域福祉活動の方法や社会資源の活用などについて教授していきます。			
授業科目の目的	我が国における地域福祉の流れを源流から捉えたうえで地域福祉の理念や考え方についての理解を深め、地域福祉の展開がどのような職種によって担われているのかを把握します。さらに保育、ソーシャルワークの視点から、地域福祉推進の方法について理解するとともに、地域福祉実践における問題点や課題についてを考える機会としていきます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の理念や考え方について説明できるようにします。 2. 地域福祉の担い手について説明できるようにします。 3. 地域福祉推進の方法について説明できるようにします。 4. 地域福祉実践の問題点や課題について説明できるようにします。 			
テキスト	現代地域福祉論－地域と生活支援－／高内正子監修 高井由起子編著／保育出版社／2,381円			
参考書	自治型地域福祉の理論／右田紀久恵／ミネルヴァ書房／2005年／4,725円 新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法／第3版 社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／2015年／2,808円			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とします。			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 2. 講義前にはテキストを読み予習をしておくこと、また、講義後は講義内容の復習をすること。 			
その他事項	講義内レポートを課した場合、そのレポートの評価は平常点に含むものとする。			

授業内容及び回数

1 回	<地域福祉とは何か> 地域福祉の定義、役割、理念について学ぶ
2 回	<地域福祉の主体と対象> 地域福祉の中の制度福祉、対象の広がりや主体の変化、自発的福祉について学ぶ
3 回	<地域福祉の歴史1> イギリスにおける救貧体制・地域福祉の思想と基盤・福祉事業の発展について学ぶ
4 回	<地域福祉の歴史2> アメリカにおける救貧体制・地域福祉の思想・福祉社会のシステムづくりについて学ぶ
5 回	<地域福祉の歴史3> 我が国の福祉に関する歴史を社会情勢を背景に学ぶ
6 回	<地域福祉の枠組み1> 地域福祉の展開における政策・制度・財源について学ぶ
7 回	<地域福祉の枠組み2> 地方公共団体、社会福祉法人、NPO法人、社会福祉協議会、共同募金会、人材（社会福祉士・福祉活動専門員）について学ぶ
8 回	<地域福祉の枠組み3> 地域福祉の人材つづき（ボランティアコーディネーター・地域活動コーディネーター）、民生委員、介護相談員、認知症サポーターなどについて学ぶ
9 回	<コミュニティ・ソーシャルワークとは> コミュニティ・ソーシャルワークの定義、社会環境の改善、ネットワークの構築、コミュニティ・ワークの展開および課題について学ぶ
10 回	<地域福祉展開のための技法1> 地域福祉におけるニーズの把握と地域福祉計画策定、地域福祉計画の内容などについて学ぶ
11 回	<地域福祉展開のための技法2> 福祉教育・ボランティア組織の涵養、ネットワーキングについて学ぶ
12 回	<地域福祉展開のための技法3> アウトリーチ、コーチング、ファシリテーション、ソーシャルワポートネットワークについて学ぶ
13 回	<事例検討1> 無縁の絆～行き別れる家族たち～
14 回	<事例検討2> グループごとにまとめた但馬地域における地域福祉の展開について
15 回	<事例検討3> グループごとにまとめた但馬地域における地域福祉の展開について
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
障害児(者)福祉論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	森合 真一
授業概要	人は、みなそれぞれ異なった個性を持っていて、その違いを認めて共に生きる社会を築いていくことの大切さを実感し、障害児(者)が抱える生活上の困難・課題とその背景や構造およびその対策を理解します。そして、福祉従事者としての役割や援助の在り方について教授していきます。			
授業科目の目的	「知る」ことや「ふれあう」ことにより、障害についての理解を深め、「偏見」や「差別」を取り除き、障害児(者)と共に生きる社会を築いていこう(ノーマライゼーションの実現)という姿勢をもつこと、また、障害児(者)支援の経験の浅い人がスムーズに障害児(者)とのふれあい、あるいは援助体験に入っていけるように支援方法について理解していきます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児(者)福祉をめぐる歴史、制度、理念などの基本的枠組みを理解したうえで障害児者福祉の現状を説明できるようにします。 2. 障害児(者)およびその家族のニーズをどのように捉えて知識を生かしていくのかを自らの問題として理解できるようにします。 			
テキスト	障害児者へのサポートガイド/新井英晴 編著/中央法規出版/2007年/1,600円(税別)			
参考書	差異と平等 障害とケア・有償と無償/立岩真也・堀田義太郎 著/青土社/2012年/2,400円 語りかける身体 看護ケアの現象学/西村ゆみ 著/ゆみる出版/2001年/2,200円			
成績評価基準	定期試験を60%、平常点(講義中の態度・意欲、レポートなど)を40%とします。また、事前提出のレポートを課した場合は、そのレポートは平常点において評価をする。			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 2. 講義前にはテキストを読み予習をしておくこと、また、講義後は講義内容の復習をすること。 			
その他	本科目は、財団法人日本障害者スポーツ協会認定の「障害者スポーツ指導員(初級スポーツ指導員)」資格を取得予定の者は履修しなければならない科目です。			

授業内容及び回数

1 回	<はじめに> 障害者支援の基本原則
2 回	<我が国の障害者福祉施策1> 障害者施策の変遷について、障害者福祉施策と障害者スポーツ
3 回	<我が国の障害者福祉施策2> 障害者の生活と実態について、ボランティア論
4 回	<視覚障害者への支援> 視覚障害とは？ 視覚障害者への支援方法
5 回	<聴覚障害者への支援> 聴覚障害とは？ 聴覚障害者への支援方法、手話のルール
6 回	<肢体不自由者への支援> 肢体不自由とは？ 肢体不自由者への支援方法
7 回	<知的障害者への支援> 知的障害とは？ 自閉症者への理解と支援方法
8 回	<抱きしめたい1> 記憶障害とは？ 映像ソフトの視聴
9 回	<抱きしめたい2> 映像ソフトの続きを視聴
10 回	<発達障害者への支援> 学習障害の理解と支援方法、ADHDの理解と支援方法
11 回	<内部障害者への支援> 内部障害とは？ 内部障害者への支援方法
12 回	<障害者の自立を支える支援の在り方1> 「自立」とその支援について
13 回	<障害者の自立を支える支援の在り方> 「共生社会」の時代、「違いを認め合う社会」を築くことについて
14 回	<1リットルの涙1> 難病とは？ 映像ソフト視聴
15 回	<1リットルの涙2> 脊髄小脳変性症とは？ 映像ソフト視聴
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	西野 享丸
授業概要	日々の保育に音楽を活かすために必要な基礎となる知識や技術を学びます。幼児教育者として、子ども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層子ども達に伝えられるように基礎力を養います。そのためには、音楽理論の習得は必修条件であり、本授業ではこの知識の習得を中心に展開していきます。また、幼児教育用楽器の奏法からアンサンブルやリトミックまでの展開を試みます。			
授業科目の目的	保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊びを展開するために必要な基礎知識や技術を学び、幼児教育者として、子ども達とともに豊かな音楽経験を積み感動が共感できるように、個々の課題を見出し音楽の楽しさを一層子ども達に伝えられるように、基礎力を養うことをその学びの目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽的な基礎知識が理解できるようにします。 2. 基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることができます。 3. 基礎知識を応用しながら、子どもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器にてアンサンブルをすることによって展開できるようになります。 			
テキスト	こどもと音楽（音楽の基礎）／藤原俊輔著／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	こどものうた [簡易伴奏曲付]／田中常雄監修／平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著／圭文社			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験（音楽理論）……50% 2. 実技試験……40% 3. 学習態度、意欲……10% <p>上記に示した割合にて総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自、五線ノートとプリント保管用ファイルを用意してください。 2. 時間があれば、楽譜を声を出して読む練習しましょう。 3. 授業外での自主練習、自主学習を怠らないでください。 4. 授業への積極的な取り組みを期待します。 			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 「音」 音の種類・楽音の3要素・純正調と平均律
2 回	「譜表と音名と記号」 五線・加線・音部記号・譜表・音名・変化記号
3 回	「音符の種類と休符」 単純休符とその種類・付点音符と付点休符の種類・タイとスラー
4 回	「リズムと拍子」 リズム・拍・拍子と拍子記号・小節線と小節・強起と弱起
5 回	「音程」 度数・単音程と複音程・音程の種類・協和音程・不協和音程
6 回	「音階と調」 長音階と短音階・調・調と調の関係（近親調）・移調と転調
7 回	「和音」 和音を構成する音・3和音の種類・音階各音上3和音（コードネーム）
8 回	「唱歌と伴奏法」 指導要領にのった唱歌の指導法・弾き歌いと簡易伴奏法
9 回	「速さと強さ、曲想と奏法に関する表示法」 音楽用語・音楽記号の理解
10 回	「リズム楽器の奏法と創作」 幼児教育用楽器の奏法・リズム楽器と身体表現の関わり
11 回	「身体表現とリトミック」 リトミックの導入と実践
12 回	「即興演奏」 主に幼児教育用リズム楽器を用いた即興演奏への試み
13 回	「リズム楽器を用いたアンサンブル」 グロッケンシュピール・シロフォンなどを用いたアンサンブル
14 回	「スコア譜の作成」 アンサンブルスコアの理解と作成
15 回	「アンサンブル発表」 各グループ演奏発表
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形 I	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	<p>幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習します。それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、合わせて用具や描画材について体験的に理解します。さらに、イメージをもとにした製作体験と、素材をもとにそれらの特性を活かし工夫する製作を展開します。具体的には保育現場の教材も視野に入れながら、紙コップ、紙皿などの日用品を使った製作をしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できるようにします。 2. 形や色、材質等の造形に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を関係づけることができるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと造形 I / 岩田健一郎・船井武彦 / 近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現 I / 船井武彦 / 近畿大学豊岡短期大学 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館</p>			
参考書	<p>その他の参考書は授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p> <p>授業時間内で仕上がらない課題は事業時間外で製作してください。</p>			
その他	<p>絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。</p>			

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 授業の目的と研究の観点について学ぶ ～子どもの造形活動と製作体験の意義～ 子どもの造形表現を鑑賞し理解する
2 回	<形態と色彩の原理について学ぶ> ～形・色・構成美の要素～ <形態と色彩について学ぶ1>色調について学ぶ(1)
3 回	<形態と色彩について学ぶ2>色調について学ぶ(2)
4 回	<形態と色彩について学ぶ3>色の感情について学ぶ(1)
5 回	<形態と色彩について学ぶ4>色の感情について学ぶ(2)
6 回	<形態と色彩について学ぶ5>色の感情について学ぶ(3)
7 回	<形態と色彩について学ぶ6>色の感情について学ぶ(4)
8 回	<形態・色彩等についての小テスト・振り返り> <造形表現を支える環境づくりについて学ぶ> <子どもの発達と表現手法・材料用具について学ぶ>
9 回	<えがく表現と表現手法について学ぶ1>描画材料と表現研究(1)
10 回	<えがく表現と表現手法について学ぶ2>描画材料と表現研究(2)
11 回	<モノ(日用品)と製作1>紙皿・紙コップによる製作(1)
12 回	<モノ(日用品)と製作2>紙皿・紙コップによる製作(2)
13 回	<モノ(小麦粉粘土)と製作1>
14 回	<モノ(小麦粉粘土)と製作2>
15 回	<振り返り・まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅲ	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	保育内容を理解し、幼児造形の材料についての基礎知識をもとにしてそれらの取り扱いと、つくる・えがく活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、実習や保育現場における幼児造形の教材を視野に入れ、指導・援助するための知識や技術について学習します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できるようにします。 2. 形や色、材質等の造形に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を関係づけることができるようにします。 			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
参考書	その他の参考書は授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>造形表現は表現技術の上手さよりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p> <p>授業時間内で仕上がらない課題は授業時間外で製作してください。</p>			
その他	絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。			

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション>授業内容、学習の心構え <子どもの製作活動と発達を理解する>
2 回	<材料と子どもの製作活動を考える> <紙コップによる製作1> 動物
3 回	<紙コップによる製作2> びっくりお化け
4 回	<紙コップによる製作3> お花
5 回	<紙による製作1> ぱたぱた蝶々
6 回	<紙による製作2> お弁当(1)
7 回	<紙による製作3> お弁当(2)・振り返り
8 回	<牛乳パックによる製作1> パクパク人形(1)
9 回	<牛乳パックによる製作2> パクパク人形(2)・振り返り
10 回	<牛乳パックによる製作3> パクパク人形(3)
11 回	<つくって飾る作品の製作1> 水族館(1)
12 回	<つくって飾る作品の製作2> 水族館(2)
13 回	<つくって遊ぶおもちゃの製作研究1>
14 回	<つくって遊ぶおもちゃの製作研究2>
15 回	<まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅳ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	保育内容を理解し、紙と粘土によるつくる活動に主眼をおきます。それらの基礎知識をもとにして、材料や用具の取り扱いと、つくる・えがく活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。乳幼児の造形活動の教材やそれらを使って活動を展開、援助するための知識や技能について、製作と振り返りを通して学習します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できるようにします。 2. 形や色、材質等の造形に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して、造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を関係づけることができるようにします。 			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学／ 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
参考書	その他の参考書は授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。			
受講の心構えとメッセージ	造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な制作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。 また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
その他	テキスト、デザインセットは毎回持って来てください。その他の教材は準備します。 絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。			

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> <つくる活動の素材と子どもの造形活動（遊び）について考える>
2 回	<粘土等の素材と子どもの造形活動（遊び）について考える>
3 回	<粘土による製作1> 空想の動物（1） 構想と成形
4 回	<粘土による製作2> 空想の動物（2） 成形
5 回	<粘土による製作3> 空想の動物（3） 成形
6 回	<粘土による製作4> 空想の動物（4） 成形
7 回	<粘土による製作5> 空想の動物（5） 彩色・完成
8 回	<紙による製作研究 紙の特性、種類、加工法について> <紙による製作1> 立体構成（1） 加工法の試作
9 回	<紙による製作2> 立体構成（2） 本製作
10 回	<紙による製作3> 立体構成（3） 本製作
11 回	<紙による製作IV> 立体構成（4） 本製作・完成・振り返り
12 回	<日用品・廃材等による製作1> 段ボールについて 段ボール紙によるお面（1）
13 回	<日用品・廃材等による製作2> 段ボール紙によるお面（2）
14 回	<日用品・廃材等による製作3> 段ボール紙によるお面（3）・振り返り
15 回	<子どもの造形表現活動についてのまとめと今後の課題>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育 I	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	池田 正章
授業概要	<p>こどもたちにとっての運動遊びの必要性を発育発達の面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学びます。</p> <p>グループごとに色々な運動遊びを考案し、発表をとおして指導法を学ぶとともに保育者として必要な運動遊びを習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもの運動遊びは、第一に楽しくなければなりません。訓練的にならずに、こどもたちが能動的に取り組み、多くの動きが体験できるような環境を設定することが大切です。この講義で多くの運動遊びの指導法を具体的に習得し、年齢や環境に応じてこどもたちに指導ができ、こどもの発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（グループ遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び）などを考え、学生を園児に見立て、グループで考案した運動遊びの指導ができるようにします。 2. 遊具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導ができるようにします。 			
テキスト	こどもと体育 I / 長谷川定宣 / 近畿大学豊岡短期大学通信教育部			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技10%、定期試験50%により総合的に評価します。</p> <p>その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。 2. 課題レポートでは 課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているかを評価します。 			
受講の心構えとメッセージ	<p>この演習は参加してこそ授業を受けた意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。課題レポートは図書館等を活用し完成させてください。</p>			
その他事項	<p>演習のできる服装で参加し、授業を通して指導者（保育士）の心構えを身につけましょう。</p>			

授業内容及び回数

1 回	ガイダンス 幼児の運動あそびの必要性について考え、その環境作りや言葉かけを学ぶ。
2 回	こどもの発育と遊びについて考える 1歳から5歳児までの「歩・走・跳・押・引・転・登・投」の動きをグループで考え発表しよう。
3 回	運動遊びを考える1 1歳から5歳児までのグループでの遊びを考え、発表しよう。
4 回	運動遊びを考える2 1歳から5歳児までの競争遊びを考え、発表しよう。
5 回	操作性遊具を使った遊びを考える ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動あそびを考える。
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動あそびを考え、発表・体験しよう。
7 回	身近な素材を使った遊びを考える1 新聞紙を使って遊ぼう。
8 回	身近な素材を使った遊びを考える2 新聞紙を使った遊びを発表しよう。
9 回	こどもの体操を考える1 リズム体操・こどもの体操・親子体操を創作しよう。
10 回	こどもの体操を考える2 リズム体操・こどもの体操・親子体操を発表しよう。
11 回	器具を使った遊びを考える1 マット運動あそびの基本を学ぼう。
12 回	器具を使った遊びを考える2 マット・跳び箱運動遊びの基本を学ぼう。
13 回	器具を使った遊びを考える3 マット・跳び箱を使った運動遊びの基本を学ぼう。
14 回	固定遊具の遊びと安全点検を学ぶ1 固定遊具の遊び方と安全点検を理解しよう。
15 回	固定遊具の遊びと安全点検を学ぶ2 附属こども園の固定遊具の安全点検を行う。
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育Ⅱ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	池田 正章
授業概要	こどもと体育Ⅰの学習をもとに、運動あそびを考え発表・体験します。固定遊具の鉄棒遊びや逆上がりなどについて研究していきます。また、鬼ごっこ遊びについて研究を深めるなど、こどもたちが安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方を学びます。			
授業科目の目的	<p>こどもの運動遊びは、異年齢で運動能力や理解度に差がある中で展開されていきます。そして、皆が楽しくなければなりません。決まりやルールも、小さい子には大目に見るなど、そのグループに集まったこどもたちの能力にあったものを年長者が決めるなどは、スポーツと違います。</p> <p>保育士はこどもたちに運動遊びを指導する際、訓練的にならず、こどもたちが能動的に取り組み、多くの動きが体験ができるような環境を設定していきます。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じてこどもたちに提供できることが求められます。この講義は発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動あそび（野外での個人・対人・集団遊び、鉄棒遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び）が考える力を養った上で、指導ができるようにします。 2. 運動遊びの指導法や必要な知識の習得ができるようにします。 			
テキスト	こどもと体育／長谷川定宣／近畿大学豊岡短期大学通信教育部			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技10%・定期試験50%により総合的に評価します。</p> <p>その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていないか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識が習得でき理解ができていないか、により評価します。 			
受講の心構えとセージ	この演習は参加してこそ授業を受けた意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。課題レポートは図書館等を活用し完成させてください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	自然（野外）での幼児の遊びを考える 1 幼児のあそびへのワクワク感に思いをはせ、成長過程での運動あそびの大切さを考える。 園児を野原に連れて行きました。あなたはどのような遊びを指導できますか。
2 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 1 自然（野外）での幼児の遊びを考える 2 グループでの遊びを考え発表し体験しよう。
3 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 2 自然（野外）での幼児の遊びを考える 3
4 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 3 実践とDVDで研究
5 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 4 自然（野外）での幼児の遊びを考える 4 集団での遊びを考え発表し体験しよう。
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える 1 ボール・縄・フープ・竹馬を使って遊びを考え体験し発表しよう。
7 回	操作性遊具を使った遊びを考える 2 ボール・縄・フープ・竹馬を使って遊びを考え体験し発表しよう。
8 回	大型遊具を使った遊びを考える 1 マット・跳び箱・平均台を使って遊びを考え体験し発表しよう。
9 回	大型遊具を使った遊びを考える 2 マット・跳び箱・平均台を使って遊びを考え体験し発表しよう。
10 回	サーキット遊びを考える 1 マット・跳び箱・平均台を使ってサーキット運動あそびを考える。
11 回	サーキット遊びを考える 2 絵本の物語をサーキット遊びへ展開させる。
12 回	鬼ごっこ遊びを研究する 1 これまでに体験したことのない鬼ごっこ遊びを研究する。
13 回	鬼ごっこ遊びを研究する 2 これまでに体験したことのない鬼ごっこ遊びの研究を発表し体験する。
14 回	伝承遊びを研究する 1 書物や高齢者から昔の遊びを知る。
15 回	伝承遊びを研究する 2 書物や高齢者から昔の遊びを学ぶ。
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと文学	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	小西 律
授業概要	<p>具体的に児童文学の作品を題材として、作者がこどもに託したメッセージ、先人の望みなどをこどもの生活経験と照らし合わせながら思考、作品分析をします。 また、小学校の国語の教科書に載せられている作品も取り上げます。</p>			
授業科目の目的	<p>「子どものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる（西本鶏介）」ものであると言われます。このように言われ、生涯にわたりその人の人間性の基礎を培うこどもの文学についての理解を深めるとともに、こどもにとり成長の糧となりうる最上の一冊を提示できる選択眼を養うことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの文化の先駆的役割を担った「赤い鳥」の主張を理解し、その中の文学について現在に受け継がれている過程及び、意味を理解、認識した上で、今日の児童文学のについて説明ができるようにします。 2. 具体的な作品を探求することから、こどもを取り巻く生活、環境、社会問題などを認識し、分析ができ、それらを踏まえ作品論を仕上げます。 3. 作家たちの多様なメッセージからこどもの未来に向けての生き方、可能性に思いを馳せ、作品の選択眼を養うことができるようにします。 			
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもと文学／小西律／近畿大学豊岡短期大学／2013年／1,000円 2. 幼稚園教育要領／幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 3. 保育所保育指針／保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語ってよ子守歌のように／禅定生世／エルビス社／1,500円 2. 世界でいちばん愛される絵本たち／人気作家30人のインタビュー集／白泉社／2007年／本体1600円 			
成績評価基準	<p>定期試験30%、レポート・提出物・発表20%、授業・課題に取り組む姿勢20% 作品論 30% により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「人生の真実は大人が教えるものでなく、こどもがみずからの力でつかみとっていくものです。その力をあたえてくれるのが文学の価値」と西本鶏介は言います。授業は、講義と映像の視聴、意見発表などで進めます。幼い頃読んだ懐かしい作品も出て来ます。作者が託したメッセージを受け取り、大いに悩み、考え、感動してほしいと思っています。 最終的には一作品を選び、その作品論を完成させるという大きな目標があります。深く読み込まなければ作品論はまとめることは叶いませんが、やり遂げた後にはきっと大きな喜びと自信が得られるでしょう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<こどもと文学 1> 日本と世界の児童文学 「赤い鳥」について、「赤い鳥」がもたらしたもの
2 回	<こどもに何を語り伝えるか> 児童文学作家達からのメッセージ 私の好きな児童文学作品、児童文学地図作成
3 回	<子どもと家族 1> ワイルダーの生涯と作品
4 回	<子どもと家族 2> ワイルダー レポート作成
5 回	<子どもの自立 1> バーネットの生涯と作品
6 回	<子どもの自立 2> バーネット レポート作成
7 回	<現代社会と子ども 1> エンデの生涯と作品
8 回	<現代社会と子ども 2> エンデ レポート作成
9 回	<絵本作家からのメッセージ 1> ディック・ブルーナー 人と仕事 ブルーナーカラーとは
10 回	<絵本作家からのメッセージ 2> ディックブルーナー 調査
11 回	<絵本作家からのメッセージ 3> ディック・ブルーナー 意見交換
12 回	<教科書に取り上げられている作品 1> 幼児教育と小学校との連携の中での児童文学 概論、調査
13 回	<教科書に取り上げられている作品 2> 意見交換
14 回	<こどもと文学 2> こどもとは リンドグレーン、ヤンソン、角野栄子の作品から
15 回	こどもに与える一冊の絵本・物語を考える <まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
家庭支援論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>子ども達が育っていく基盤である家庭とは何か、どのようなものかについて学んでいきます。家庭の意義と機能、今日の子育て家庭の特徴について理解し、子育て家庭がいかに課題を抱えやすいものであるのかを考えていきます。そのうえで、子育てを取り巻く社会的状況や子育て家庭に対する支援体制について理解し、ニーズに応じた支援機関との連携について授業を展開していきます。</p> <p>保育士等が行う家庭支援の原理や子育て支援策について学習し、具体的な家庭支援の方法と技術を習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>今日、ますます多様性を持ち変化し続けている家庭、子育ての特徴を理解し、子育てを取り巻く社会的状況や子育て家庭に対する支援体制およびニーズに応じた支援機関との連携について理解していきます。社会生活で最初にして最期までかかわる最小集団である家族・家庭のなかで、子どもの成長・発達過程とのかかわりから、家族成員間での意識・行動や問題発生の仕組みと、それらに対する制度や支援の方策等について理解することを目的とします。</p>			
学習成果	<p>保育者に求められる子育て支援・保護者支援という役割や機能（保育相談支援と一部重なる部分がある）について理解し、それらに関する専門的な知識・技術・倫理を身につけます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解できるようにします。 2. 子育て家庭を取り巻く社会状況等について論じることができるようにします。 3. 子育て家庭の支援体制について理解し説明できるようにします。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について、その役割・方法について説明できるようにします。 			
テキスト	<p>保育者養成シリーズ 家庭支援論／林 邦雄、谷田貝公昭 監修、中野由美子 編著 森合真一他執筆／一藝社／2,200円（税別）</p>			
参考書	<p>児童の福祉を支える 家庭支援論／吉田真理 著／萌文書林／2,100円 家族性分業論前哨／立岩真也 著／生活書院／2,200円</p>			
成績評価基準	<p>定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とします。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>子ども達のもっとも身近で重要な環境となる家庭について、一緒に考えていきましょう。よく知っているようで、まだまだ知らない部分が多い環境なのかも知れません。授業で学ぶ中で、家庭に対する保育者としての支援や役割などを学んで欲しいと考えています。そして現代の社会状況や行政による支援施策なども理解する必要がありますので、ニュース、新聞などにも目を通す習慣を持ってください。予習・復習が欠かせませんので、取り組みに期待しています。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	子どもが育つ場としての家庭・家族 「家庭」「家族」とは、現代家族と家庭の機能、家庭環境の変化と乳幼児の育ちの変容について学ぶ
2 回	子育て環境の変化と家庭支援の必要性 子育て環境の変容と親子への影響、家庭支援の必要性、家庭支援の目的と基本姿勢について学ぶ
3 回	現代家族の人間関係と子育て 子どもを取り巻く社会的状況の激変、家族関係の多様化と子育て環境の変容、個人化する子育てについて学ぶ
4 回	地域社会の変容と家庭支援の必要性 在宅子育て家庭への支援、地域ネットワークによる家庭支援について学ぶ
5 回	男女が共同で働き子育てをする社会 共働き家庭の増加に伴う、男女共同子育てを支える制度について学ぶ
6 回	保育の場における家庭支援 保育所・幼稚園における家庭支援、家庭支援における保育者の姿勢について学ぶ
7 回	家庭との緊密な連携およびパートナーシップ 「子ども」を核とする家庭支援、家庭・保護者との連携による支援について学ぶ
8 回	保育所・幼稚園における支援方法の実際 家庭支援の実際、家庭支援の専門性について学ぶ
9 回	子育て支援制度の概要 子育て支援に関する法律、次世代育成支援施策について学ぶ
10 回	子育て支援における関係機関や人との連携 子育て支援に関する社会資源・関係機関との連携について学ぶ
11 回	在宅子育て家庭への支援 在宅子育て家庭の現状、支援施策などについて理解する
12 回	子育ての負担・不安を抱えた保護者への支援 子育てに不安を抱える保護者、ひとり親家庭・外国籍家庭に対する支援について学ぶ
13 回	発達が気になる子どもと保護者への支援 発達に問題がある子ども、障害のある子どもの現状、療育・教育への支援などについて理解する
14 回	ネグレクト（養育拒否）や不適切な養育家庭に対する支援 児童虐待の現状および課題、専門機関との連携について学ぶ
15 回	子育て支援サービスの課題 少子化と子育て支援サービス、ワーク・ライフ・バランス憲章について理解する
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健 I	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	谷岡 まさ子
授業概要	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。 また、こどもの事故や安全対策について理解し基本対応について学習していきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。 2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解します。 3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解します。 4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解します。 5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学びます。 6. こどもの精神保健とその課題等について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できるようにします。 2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解できるようにします。 3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解し、説明できるようにします。 4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解し、説明できるようにします。 5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解し、説明できるようにします。 6. こどもの精神保健とその課題等について理解し、論じることができるようになります。 			
テキスト	こどもの保健 I / 新川加奈子 / 近畿大学豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度、課題提出20%、定期試験80%により総合的に評価します。			
受講の心構えと	<ul style="list-style-type: none"> ・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康な子どもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしい。 ・常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしい。 ・自分のこれからの育児や仕事に役立てる方向で取り組んでほしい。 ・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参してほしい。 			
その他				

授業内容及び回数

1 回	小児保健の基本
2 回	小児の健康指標と水準
3 回	小児の発育1 発育と発達
4 回	小児の発育2 身体発育の問題点
5 回	小児の生理機能1 中枢神経 水分代謝
6 回	小児の生理機能2 免疫機能 感覚機能
7 回	小児の運動機能
8 回	小児の精神機能 小児の精神保健
9 回	先天異常
10 回	家庭看護
11 回	予防接種1 予防接種とは
12 回	予防接種2 予防接種の種類と受け方
13 回	事故と安全対策1 こどもの事故の特徴
14 回	事故と安全対策2 救急処置の基本対応
15 回	保育所保育指針・幼稚園教育要領における小児の健康
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅱ	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	谷岡 まさ子
授業概要	<p>こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもに多い病気を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。</p> <p>また、こどものおかれている健康問題や地域保健活動を理解し、保護者支援についても学習していきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価を行うことができます。 2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えます。 3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に学び、知識を獲得します。 4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解します。 6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画立案及び評価ができるようにします。 2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境が理解できるようにします。 3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的な理解ができるようにします。 4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できるようにします。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解し、論じることができるようにします。 6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解できるようにします。 			
テキスト	こどもの保健Ⅱ／新川加奈子／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度、課題提出20%、定期試験80%により総合的に評価します。			
受講の心構えと	<p>医学用語や表現が難しい面がありますが、健康なこどもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしいと考えています。</p> <p>常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしいと思っています。自分のこれからの育児や仕事に役立てる意識を持ち、その方向で取り組むことを望んでいます。テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参し、予習・復習に取り組んでください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	日常に見られる症状1 こどもの健康状態の観察 下痢
2 回	日常に見られる症状2 頭痛
3 回	小児感染症1 感染症の基礎知識 等
4 回	小児感染症2 発疹性疾患
5 回	小児感染症3 食中毒
6 回	小児感染症4 呼吸器疾患
7 回	小児感染症5 血液・リンパ節疾患 保育所における感染症対策 等
8 回	小児感染症6 その他 中耳炎
9 回	小児感染症7 アレルギー疾患
10 回	集団の保健1 保健活動の基本指針 等
11 回	集団の保健2 施設の特徴と保健
12 回	母子保健行政1 母子保健行政の組織
13 回	母子保健行政2 母子保健サービス
14 回	母子保健行政3 健やか親子2 1
15 回	こどもの健康と生活
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅲ	2年・後期	講義	30時間 (1単位)	原田 玻璃美
授業概要	<p>初めに、子どもを思いやるとはどういうことなのかを考え、講義と実技演習で実践に役立つ、知識と技術を習得できるように進めます。</p> <p>次いで、発達途上にある乳幼児の特徴を学び、発達の評価をするための身体計測の技術を演習します。安全を担保するための実技に重点を置き進めていきます。生活を守るための技術にも習熟するよう取り組みます。</p> <p>保育環境の安全を守り、病気や事故時の対応ができるよう応急手当や、救急処置ができるよう演習します。授業はグループワークを取り入れ、学生双方の学びと気づきを深めていきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育を行う上で必要な子どもの成長、発達の状態、健康状態を正しく把握するための方法と技術を演習から学びます。 2. 健康と安全に関する保健活動について理解し、関係者とのコミュニケーションがとれるよう知識を獲得します。 3. 病気の早期発見や事故の予防、対応を正しく行えるよう応用能力と技術を演習し、また、家族との連携や記録の必要性を理解します。 4. グループワークの授業でリーダーシップや発表態度を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育施設での保健活動の計画立案ができるようにします。 2. 日常生活に必要な養護技術が安全におこなえるようにします。 3. 発育指標となる身体計測の実践と評価ができるようにします。 4. 健康上の問題となる情報を把握し、情報の判断ができるようにします。 5. 子どもの疾病について予防や応急処置と急変時の対応と報告、連絡、記録ができるようにします。 6. 安全を脅かすリスクが把握できるようします。 7. 保育者間の連携を取る力を養い、母親への支援について自分の意見を持つことができるようにします。 			
テキスト	改訂 小児保健実習／佐藤益子編著／みなみ書房／2,200円			
参考書	保育所保育指針及び解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	<p>事前学習によるグループへの貢献度 10%</p> <p>グループワークへの参加度 10%</p> <p>実技テスト 20% 定期テスト60%</p> <p>により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者として重要な科目です。事前学習をしっかりと主体的参加をしてください。実技演習は何回でも繰り返し、自信が持てるようにしてください。グループワークでは他人の意見をよく聞き、まとめと発表の力をつけてください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 小児保健を学ぶ意義、保育・養護する専門職業人として必要な態度と技術
2 回	<対象の理解> 成長と発達・機能的発達と評価
3 回	<観察技術1> 保健活動の計画立案・身体計測と発育の評価：体重・身長・胸囲など
4 回	<観察技術2> バイタルサインの測定と評価
5 回	<養護技術1> 抱っこ・おんぶ・食事・口腔清潔
6 回	<養護技術2> 排泄とトレーニング 沐浴・衣服の着脱
7 回	<症状に対する看護1> 不機嫌・泣く・発熱
8 回	<症状に対する看護2> 咳・下痢・嘔吐・腹痛・便秘
9 回	<病気への対応と予防> 感染症・食中毒・手洗いチェック ・薬の与え方
10 回	<事故防止と安全教育> 発達段階と事故・事故予防
11 回	<応急処置1> 意識障害・出血・外傷
12 回	<応急処置2> やけど・鼻出血・熱中症・異物
13 回	<応急処置3> 鼻血・熱中症・異物の誤飲・目、耳、鼻の異物
14 回	<救急法> 手当の基本・一次救命処置
15 回	<地域との連携協働> 障害をもった子どもの支援
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育原理	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保育という営みの全般について理解し、保育の主体である子ども理解を深めながら、保育者としての使命感を養います。そのためにもまず、「保育とは何か」についての基礎的な理解を深めていきます。子育て・保育の歴史的な変遷、保育施設の歴史的変遷、保育に対する社会的期待の変遷などについての理解を基礎としながら、「これからの保育」を作り出していくための基礎的な理論や知識について学んでいきます。これらのことから、自分の保育観について、いつもとは違う多様な視点から捉えなおせる力を培うための貴重な準備、作業とします。</p>			
授業科目の目的	<p>現代の子どもをめぐる環境をふまえながら、「保育とは何か」を広い視点から捉えて保育全般を学び、保育の現状と課題について理解することを目的とします。現代における保育の意義と特性について理解し、現在の保育問題の紹介に触れながら、自分なりの「保育観」「子ども観」を構築することを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義・意味について考え、述べる力を身につけ、保育実践と結びつけることができるようになります。 2. 保育の歴史と内容の変遷について理解し、説明することができるようになります。 3. 保育学の基礎知識・理論を理解し、習得することができるようになります。 4. 保育の現状と課題を理解し、論じることができるようになります。 5. 保育内容・方法と保育計画など、保育園・幼稚園での保育活動の実際について認識することができるようになります。 			
テキスト	<p>保育者養成シリーズ 保育原理／林 邦雄／一藝社／2,200円 保育所保育指針―平成20年告示―／フレーベル館／2008年 保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館／2008年</p>			
参考書	<p>授業内で適宜指示をしていきます。</p>			
成績評価基準	<p>上記の到達目標について、授業内試験により理解度を評価します。 定期試験（70%）、授業参画度、発表、リアクションペーパー、レポート（30%）により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>幼児保育・教育や児童福祉分野に携わる人が理解しておかなければならない理論について学んでいくこととなります。目の前の子ども達をどのように理解し、どのように保育活動を展開していくか、保育者として絶対不可欠となる保育観について自分自身で考え抜き、作り上げていってほしいと考えています。そのためにも授業にしっかりと向き合い、予習復習に取り組んでください。</p>			
その他	<p>毎時間の授業内容や進度は、授業展開や学生のニーズにより、多少変更することがあります。</p>			

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 「保育」とは何か——保育の本質を考える
2 回	保育の場について知る 1 家庭における保育
3 回	保育の場について知る 2 保育所
4 回	保育の場について知る 3 幼稚園その他
5 回	保育の思想・歴史を学ぶ 1 西洋における保育の歴史
6 回	保育の思想・歴史を学ぶ 2 日本における保育の歴史
7 回	保育所保育指針に学ぶ 保育原理の考え方
8 回	子ども理解について
9 回	保育課程・教育課程を学ぶ
10 回	保育の内容 1 養護と教育
11 回	保育の内容 2 子どもの育ちをとらえる視点「5領域」
12 回	保育の内容 3 子どもの発達過程
13 回	子どもの安全と健康への配慮
14 回	保育者のあり方と保育の未来の課題と展望
15 回	理解度の確認と総括
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	安達 美穂
授業概要	<p>社会的養護について理解を深め、現行福祉制度における社会的養護の動向および課題に触れ、類型別施設養護の意義と、その処遇展開についての基礎的知識を理解する中で、養護理論や実践および児童の権利保障などについて考察していきます。</p> <p>また、新しい社会的養護の考え方を理解し、養護を必要とする子どもや特別な配慮を必要とする子どもについて、施設における日常生活援助、施設保育士の専門性、保護者への援助について学び、インケア、リービングケア、アフターケアの実際を習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>社会的養護をめぐる問題や理念や動向を基本に捉えながら、全ての子ども家庭を視野に入れた「新たな社会的養育システム」の構築に向けた制度のあり方を知るとともに、児童の人権を踏まえた保育や自立支援の在り方を理解することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉法における施設養護の体系、処遇展開を理解します。 2. レジデンシャルワークおよびソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもや保護者への援助のあり方、さらに地域社会との関連性を理解します。 3. 社会的養護に関連した用語を認識します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的意義や、児童家庭福祉、保育とを関連づけて考えることができるようになります。 2. 社会的養護の現状と課題が言葉で説明することができるようになります。 3. 社会的養護の実施体系を理解し言葉で説明することができるようになります。 4. 養護理論や自立支援の在り方が理解でき、実践することができるようになります。 5. 児童家庭福祉との互換性を理解でき、また、相違点についても分類することができるようになります。 			
テキスト	<p>保育と社会的養護原理／大竹 智・山田 利子 編集／みらい書房 原則として、授業ごとに内容に添った資料を配付します。</p>			
参考書	<p>保育と児童家庭福祉／櫻井 奈津子 編集／みらい書房 社会福祉小六法他 社会的養護の現状について／厚生労働省編 保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>定期試験を50%、小テスト10%、授業ごとの演習問題20%、受講態度等20%（講義中の態度と意欲も加味する）により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料とテキスト、参考書を中心に演習を進めるので、指定されたものを持参すること。 ・専門用語や援助技術に関してわからない項目について、資料や参考書を基にして各自調べておくこと。 ・授業後には配布資料やワークシート等をポートフォリオにまとめて事後学習に活用すること。 ・授業で指示した演習課題を評価の対象とするので、期限を守って提出すること。 <p>*毎時間ごとの演習問題については、原則として、授業終了後に全て解答し提出すること。また、提出できない場合は、次回の授業までに完成させて提出すること。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	授業内容などについてのガイダンス 社会的養護とは何か
2 回	施設養護、児童福祉施設
3 回	子ども観と社会的養護理論、子ども観の変遷
4 回	子どもの発達過程と基本的ニーズ
5 回	子どもと家庭を取り巻く状況、環境
6 回	社会的養護の展開、課題と最近の児童福祉法の改正
7 回	日本における社会的養護の歴史と現在の状況
8 回	社会的養護の仕組み、措置制度、児童福祉サービス
9 回	社会的養護にかかわる人々の資質とその支援
10 回	社会的養護と基本的な実践1（個別対応、支援計画、評価）
11 回	社会的養護と基本的な実践2（支援ネットワークとの連携、新たな実践動向）
12 回	社会的養護サービス1（乳児院、児童養護施設、自立支援施設）
13 回	社会的養護サービス2（里親制度、各種支援サービス）
14 回	子どもの養護（虐待などの現状、法律、親権、対応） 社会的養護のまとめ1
15 回	自立の支援、家族の支援 社会的養護のまとめ2
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
精神保健	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口 和也
授業概要	<p>精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものであり、精神医学、身体医学、心理学、社会福祉学といった多岐にわたる領域から成り立つ科目となります。</p> <p>乳幼児期によく見受けられるこころの問題について解説を行います。また、学生の基礎的な知識の獲得と定着がしっかりとできているか、確認しながら授業を展開したいと思っています。</p> <p>さらに、精神保健が取り扱う領域や内容について説明しながら、適切なアプローチ方法、周囲への対応など実践についても学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>精神保健では、保育者がその専門活動に従事する中で関わりを持つ他機関との連携や協働を念頭に置き、基礎的な知識について学び取っていきます。</p> <p>精神保健の実践は、単なる個人的な経験や感覚的な事柄に依拠して理解されるものではなく、系統的かつ体系的な知識の獲得が不可欠なものとなっていきます。</p> <p>そこで、精神保健では、精神疾患をはじめとするこころの健康問題について幅広く学ぶ機会を設け、どのようなアプローチの方法があり、どのような周囲への対応があるのかについて理解できるようになることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る精神保健活動の意義を説明することができるようにします。 2. 子どもの精神機能の発達と保健について知識を獲得することができるようにします。 3. 子どもの精神疾患とその予防・対応の視点を持ち、実践に応用することができるようにします。 4. 養育者への援助と対応について、イメージを持ち技術を獲得することができるようにします。 			
テキスト	随時配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館／100円＋税</p> <p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／190円＋税</p> <p>保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館／120円＋税</p> <p>保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館／190円＋税</p>			
成績評価基準	授業態度10%、レポート20%、レスポンスカード20%、定期試験50%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こころの健康に関する問題は、特別なことではなく、程度の差はあっても誰もが抱える可能性があるものと言えます。また、自分は問題がなくても周囲の人がこころの健康を崩すこともあります。</p> <p>現代社会の中で保育の専門家として活動する際、精神保健の活動は重要な事柄になっていきます。ぜひとも、その活動に真摯な姿勢で向き合いながら理解を深化させ、こどもの精神保健だけでなく、養育者や周囲の精神保健についても幅広く学びを深めていくことを期待しています。</p> <p>予習・復習に取り組む姿勢を徹底し、さらに、こころの健康問題と、どのように向き合っていくのか考えていきましょう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション・精神保健とは1> 精神保健のねらい
2 回	<精神保健とは2> こころの健康とはなにか
3 回	<精神保健の基礎1> 生理学的背景（脳・神経系の仕組みと機能）
4 回	<精神保健の基礎2> 心理学的背景（発達理論）
5 回	<発達と精神保健1> 胎児期・乳児期の発達と精神保健
6 回	<発達と精神保健2> 幼児期・児童期の発達と精神保健
7 回	<こどものこころの問題1> 習癖障害
8 回	<こどものこころの問題2> こどものうつ病・摂食障害（おとなと同じところと違うところ）
9 回	<こどものこころの問題3> 強迫性障害・睡眠障害
10 回	<こどものこころの問題4> 分離不安・児童虐待
11 回	<精神保健活動1> 母子の精神保健：妊娠・出産・育児をめぐる諸問題
12 回	<精神保健活動2> 子育て支援とこころの健康づくり
13 回	<精神保健活動3> 地域精神保健活動と保育：様々な診断方法、検診
14 回	<精神保健活動4> 乳幼児精神医学
15 回	<精神保健活動5> 精神保健活動における保育者の役割
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの食と栄養	2年・通年	講義	60時間 (2単位)	岡崎 典子
授業概要	現場の事例や演習を交え、自らが自分の食生活も含めて食に対するあり方・態度を考えることのできる授業にしていきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎栄養学をもとに、小児における栄養の特性と重要性を、現代社会における問題も含めて、理解します。 2. 食育の重要性を理解し、食育の実践力のある保育士を養成します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 五大栄養素の栄養生理について理解することができるようにします。 2. 小児にとって適切な食事の献立内容を理解し作成することができるようにします。 3. 小児の栄養生理について理解することができるようにします。 4. 母乳の意義について理解することができるようにします。 5. 離乳の意義・実際について理解し、料理作業に活かす力を養うことができるようにします。 6. 幼児期の栄養の意義について理解し、献立作成調理の実践に活かす力を養うことができるようにします。 7. 学童期・思春期の栄養意義について理解することができるようにします。 8. 集団給食と献立について理解することができるようにします。 9. 小児の特徴的な疾患の食の対応について理解することができるようにします。 10. 障害を持つ子どもの特徴と食の対応について理解することができるようにします。 11. 食育の重要性を理解し、積極的に進められる力をつけることができるようにします。 			
テキスト	こどもの食と栄養演習／小川雄二編著／建帛社／2011年 新食品成分表フーズサポーター (CD-ROM)付／新食品成分表編集委員会／東京法令出版			
参考書				
成績評価基準	小論文・レポート作成・定期試験・授業態度を総合的に判定する。定期試験55%、提出物25%、授業態度20%とする。			
受講の心構えとメッセージ	小児における食べ方をめぐる問題は、その子の一生だけでなく次世代、その次の世代へ続く重要な問題です。また、食育基本法も施行され、社会的にも食に対する姿勢が大きく問われています。まず、自己の食生活を見つめ、指導の実践につなげられる力をしっかりつけられるよう真剣に学んでください。予習・復習にも取り組み学びを深めてください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<栄養素・生理・代謝1> 炭水化物の栄養生理代謝	16 回	<学童・思春期の栄養> 学童期と思春期の生理と食生活の実際
2 回	<栄養素・生理・代謝2> 脂質・タンパク質の栄養生理代謝	17 回	<演習 幼児期の食事1> 幼児のお弁当とおやつ調理実習
3 回	<栄養素・生理・代謝3> 水とミネラルの働き・ビタミンの働き	18 回	<演習 幼児期の食事2> 幼児のお弁当とおやつ調理実習
4 回	<栄養摂取基準> 栄養摂取基準を理解し使えるようになる	19 回	<給食 理論> 給食の目的・あり方
5 回	<食品と食生活の基礎知識> 食品の特性を理解するとともに食生活の基礎的な考え方を深める	20 回	<演習 集団給食の献立1> 小児集団給食献立の作成
6 回	<献立作成1> 献立作成演習	21 回	<演習 集団給食の献立2> 小児集団給食献立の作成
7 回	<献立作成2> 献立作成演習	22 回	<障害をもつこどもの食事> 障害の特徴と食生活の具体的対応
8 回	<小児の栄養> 小児をめぐる食生活の基礎知識と現代社会での問題点	23 回	<小児の健康をめぐる問題1> アレルギー・感染症などの食事対応と考え方
9 回	<小児の栄養生理1> 食欲の仕組み	24 回	<小児の健康をめぐる問題2> 若年者に多い生活習慣病の原因と食事対応
10 回	<小児の栄養生理2> 味覚の発達と嗜好の形成	25 回	<食育の基本と内容1> 食育基本法・保育所食事指針等
11 回	<授乳期の栄養> 母乳栄養の意義と実際	26 回	<食育の基本と内容2> 食育における養護と教育・保護者支援
12 回	<離乳期の栄養> 離乳の意義と離乳食の実際	27 回	<食育の実際> 食育計画と評価
13 回	<幼児期の栄養> 幼児期の生理と食生活の実際	28 回	<食育演習> 給食だよりなど食育媒体の作成
14 回	<演習 離乳期の食事1> 調乳および離乳食の調理実習	29 回	<食育のための環境> 地産地消の意義と実践・栽培の実践
15 回	<演習 離乳期の食事2> 調乳および離乳食の調理実習	30 回	<食をめぐる問題とこれからの課題> 地球環境・食料自給など
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
障 害 児 保 育	1 年 ・ 後 期	演 習	30時間 (2 単 位)	岡 本 妙 子
授 業 概 要	<p>近年、障がいのある子ども達の支援ニーズに応じた保育の提供が指摘されています。障がい児への保育や教育という言葉から、何かと通常とかけ離れた特別な保育や教育であるかのように考えられがちな部分もあるかもしれません。しかし、むしろ一人ひとりを大切に、子どもがその持ち味を十分に発揮できることを願い、支える営みであると言えます。</p> <p>障がい児保育こそ「保育の原点」として捉えて、指導とそのあり方を理解します。子ども達の支援ニーズに応じた保育活動を展開していく専門的な力量を担保するため、本演習では、障がいの種類や障がいの特性、障がい児に対する保育方法等、障がいのある子どもたちを保育する際に必要な基本的知識・技術を学んでいきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>障がい児保育を支える理念や歴史的変遷を踏まえ、障がいや障がいのある子どもに対する理解、家庭への支援や基本的な保育方法について理解し獲得することを目的とします。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい児保育を支える理念について理解し、言葉で説明できるようにします。 2. さまざまな障がいについて理解し、その特性から支援に結びつけることができるようにします。 3. さまざまな障がいに対応した保育計画の内容の読み取りができるようにします。 4. 障がいのある子どもの保護者への支援について理解できるようにします。 5. 他機関・他職種との連携のあり方が論じられるようにします。 			
テ キ ス ト	障害児保育／藤永 保 監修／萌文書林／2012年			
参 考 書	保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーバル館			
成 績 評 価 基 準	定期試験80%。受講態度20%で総合評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ	<p>近年、子どもひとり一人のニーズを正確に把握し、それに応じた心身の健やかな発達に寄与する保育・教育活動が強く求められています。このことができる保育者として学ぶべき多様な内容について、テキストを中心に講義を進めていきます。予習としてテキストを読むことを忘れないようにしてください。演習やグループワークを含めて、学生の主体的な参加を望んでいます。講義後、グループワークで得られた知識などを復習により学び深めてください。</p>			
そ の 他				

授業内容及び回数

1 回	障がいのとらえ方と障がい児保育の歴史
2 回	障がい児保育の基本
3 回	肢体不自由児、視覚障がい児、聴覚障がい児の理解と支援 1
4 回	肢体不自由児、視覚障がい児、聴覚障がい児の理解と支援 2
5 回	知的障がい児の理解と支援
6 回	発達障がい児の理解と支援 ADHD（注意欠陥多動性障がい）／LD（学習障がい）／PDD（広汎性発達障がい等）
7 回	障がい児保育を支える記録・評価
8 回	子ども一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境
9 回	子ども同士のかかわりと育ちあい
10 回	発達障がい児と向き合うための造形的活動
11 回	保護者や家族に対する理解と支援の方法
12 回	地域の専門機関などとの連携や子ども一人ひとりの支援計画の作成
13 回	保健・医療における現状と課題
14 回	福祉・教育における現状と課題
15 回	支援の広がりとながり
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
地域ボランティア	1～2年・通年	演習	30時間 (1単位)	岸本 英之
授業概要	<p>地域交流の行事や、福祉施設等での補助・援助、また各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行います。初めに1年前期の事前指導で留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項等について説明します。活動は様々ですので、自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容などを決め、実際に活動します。活動後は所定の活動日誌をすみやかに作成、押印し、担当教員等の確認印を受けて提出してください。その後、2年後期に事後指導を受けながら活動の成果や課題について考察し、活動報告書を提出した上で、最終的に2年後期の終了時に単位認定します。</p>			
授業科目の目的	<p>本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきました。社会の一員として、学生の人間力を培う活動に対し、また、学生のこうした努力に報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ります。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動を通じて、地域社会を担っていく力の育成をめざします。 2. 他者や社会の利益のために活動することが、学生自身の楽しさや喜びとなり、ひいてはコミュニケーション能力を高めるなど人間的成長をめざします。 			
テキスト				
参考書	<p>ボランティア まるごとガイド／安藤雄太監修／ミネルヴァ書房／2002年／1,500円＋税 ボランティアのすすめ－基礎から実践まで－／岡本榮一監修／ミネルヴァ書房／2005年／2,520円 その他、プリント教材や視聴覚教材も使用します。</p>			
成績評価基準	<p>ボランティア活動事前・事後指導の授業態度20%、ボランティア活動合計時間70%、活動日誌と活動最終報告書10%により評価を行います。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>ボランティアは、誰か人のためにするものと思われがちです。でも、社会と関わることで初めて、自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、今までとは違った自分に気づいたりするのではないのでしょうか。ボランティア活動は、卒業後、社会に出られる皆さんの大きな力となると思います。皆さんの自主的で、楽しい活動を期待します。</p>			
その他	<p>活動日誌は、ボランティア活動終了後すみやかに担当者まで提出してください。</p>			

授業内容及び回数

1 回	<ボランティア活動事前指導1> ボランティア活動の意義について ボランティア活動の基本的性格・定義について
2 回	<ボランティア活動事前指導2> ボランティア活動の事例について 活動日誌と報告書の書き方について
3 回	ボランティア活動（各自）
4 回	ボランティア活動（各自）
5 回	ボランティア活動（各自）
6 回	ボランティア活動（各自）
7 回	ボランティア活動（各自）
8 回	ボランティア活動（各自）
9 回	ボランティア活動（各自）
10 回	ボランティア活動（各自）
11 回	ボランティア活動（各自）
12 回	<ボランティア活動事後指導1> ボランティア活動の感想と振り返り
13 回	<ボランティア活動事後指導2> ボランティア活動の成果の確認と課題の考察
14 回	<ボランティア活動事後指導3> ボランティア活動報告書の作成
15 回	<ボランティア活動事後指導4> まとめ
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの人権	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	野畑 健太郎
授業概要	<p>子どもの人権に関する法規定を概観し、国内法と国際法で子どもの人権がどのように保障されているかを考察していきます。その際、まず「人権とは何か」について、憲法学の立場から解説していきます。「人権」という用語を法律学用語として厳格に明確し使用できるようにします。その上で、憲法の人権論の中で子ども（未成年者）の人権の位置づけを明らかにし、憲法・法律・国際法で保障される子どもの人権について整理していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>本授業は、人権論における子どもの権利の位置づけ、法で保護される子どもの権利の種類と限界を明らかにし、子どもの権利をめぐる法制度の問題点を抽出することを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権とは何かを説明できるようになります。 2. 法で保護される子どもの権利について説明できるようにします。 3. 子どもの権利について法制度上どのような問題があるか説明できるようにします。 4. 子どもに限らず人権保障一般の大切さを認識できるようにします。 			
テキスト	<p>授業ごとにレジュメ・資料を配付します。</p>			
参考書	<p>授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>定期試験90%、平常点（受講態度）10%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとセッション	<p>法律科目のため耳慣れない、やや難解な用語もあるかもしれませんが、できるだけわかりやすく説明するように心がけます。受講者の皆さんも分かろうとする努力をしてください。受講者の理解度をみるため、授業中に皆さんに問いかけます。黙ったままやり過ぎたり、分かりませんで済ますのではなく、思ったこと、考えたことを遠慮なく答える姿勢を期待しています。</p> <p>予習復習もその都度、伝えていきます。</p>			
その他の事項	<p>受講者の理解度に応じて授業を進めるため、予定した15回の授業内容と進度にずれが生じる場合があることを了解してください。受講者を置き去りにした授業はしないように心掛けていきます。</p>			

授業内容及び回数

1 回	<人権の概念> 人権とは何か／日本国憲法における人権の意味／近代自然法思想における人権
2 回	<人権の分類> イエリネックによる分類／日本国憲法における人権の分類／人権の分類の相対性
3 回	<人権の享有主体> 国民／天皇・皇族／外国人／法人／未成年者
4 回	<憲法と未成年者> 成人と同等の保障を受けない権利／成人と同等の保障を受ける権利／未成年者ゆえに保障される権利
5 回	<自己決定権と未成年者> 子どもに自己決定権は認められるか
6 回	<民法と未成年者> 行為能力の制限／所有権の制限／婚姻年齢の制限
7 回	<刑事法と未成年者> 責任年齢（刑法41条）／少年法
8 回	<法律と子どもの権利1> 教育基本法／学校教育法
9 回	<法律と子どもの権利2> 児童福祉法／労働基準法
10 回	<法律と子どもの権利3> 児童買春／児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律
11 回	<国際法と未成年者1> 「世界人権宣言」と子どもの権利／「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」と子どもの権利
12 回	<国際法と未成年者2> 「市民的及び政治的権利に関する国際規約」と子どもの権利／児童の権利に関する条約
13 回	<児童の権利に関する条約1> 前文／第1条～第11条
14 回	<児童の権利に関する条約2> 第12条～第16条／第17条～第22条
15 回	<児童の権利に関する条約3> 第23条～第27条／第29条～第41条
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと音楽表現Ⅲ (器楽)		2年・通年	演習	60時間 (2単位)	茨木 金吾・大江 美歩子 大谷 妃早子・松本 裕子
授 業 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏技術の習得と子どもの歌の弾き歌いは、個人指導 (レッスン) 形式でおこないます。 2. 教材に関しては、テキストを中心に進めるが、弾き歌いは中級レベル以上の演奏力を習得するものとし、試験については必ず原譜にて対応します。また、ピアノ曲についてはバイエル100番以上の習得やマーチ、スキップ等の各種リズムに対応した奏法の習得を目指し、演奏技術の向上を図ります。 3. 弾き歌いについては、原譜を弾きこなす力とともに、コードネームによる簡易伴奏付けを取り入れ、即戦力に対応した即興力を身につけます。また、豊かな声量で表情豊かに歌う力を付け、保育士及び、幼稚園教諭の採用試験突破に向けて力を付けていきます。 4. グループワークとして、歌唱と伴奏法を取り入れた取り組みを行い、集団での構成力 (特に歌唱力と伴奏力) をつけていきます。 5. 詳細な授業進行は、レッスンカルテにより進めていきます。 				
授 業 目 的	<p>音楽に関する基本的な知識と技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽表現Ⅰ (ピアノ)」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とします。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者にとって必要な音楽的基礎技能の養成を目指した「こどもと音楽表現Ⅰ (ピアノ)」に続き、より高度な目標を持って、授業を展開することにより、ピアノ演奏技術の習得や弾き歌いする力の習得ができるようになると同時に、それを保育現場に活かす応用力、音楽的感性を身につけることができます。 2. 近年、多くの保育士及び、幼稚園教諭の採用試験で課題として課せられる、「原譜による弾き歌い」や「初見視奏」に対応しているため、原譜を弾きこなす力や即興力を身につけることができます。 3. グループワークを導入することにより、個々の演奏力を集結したグループでの演奏力、表現力が体験でき、グループ内での役割と責任を通して、作品を完成させる喜びと、その手法が習得できます。 4. 弾き歌い楽曲を通して、コードネームの理解と、それを用いた即応力を身につけることができます。 				
テ キ ス ト	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 / 圭文社 / 2,800円 こどもと音楽表現 / 原敏行・鎌田直美・黒北多恵子著 / 近畿大学豊岡短期大学 授業の中でプリント等を適宜配付します。</p>				
参 考 書	<p>たのしく遊べるこどものうた [改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 / すずき出版 楽しく遊べる子どもの音楽表現 / 田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著 / 大学図書出版</p>				
成 績 評 価 基 準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前・後期に実施される計4回の課題習得度確認試験の内容と定期試験の内容、70% ※後期に実施する定期試験は、練習楽曲を通して学んだ演奏知識 (コードネームなど) の理解度で評価します。 2. レッスンカルテの習得状況、20% 3. 学習態度、意欲、10% 上記に示した割合で評価します。 				
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	<p>地道で精一杯の努力は、必ず実を結びます。子どもたちの嬉しい顔を思い浮かべながら、一曲でも多く自信を持って、弾き歌いや演奏ができるように頑張ってください。また、この教科は、努力の履歴がそのまま結果として現れる教科です。最低でも、1日1時間の練習を重ねると同時に、合格した楽曲についてもふり返りをおこなってください。 さらに、即興での伴奏付けに対応できるように、コードネームを中心とした楽譜を取り入れていきます。その楽曲のメロディー譜に対して自分なりの伴奏ができるようにしっかりと学んだことを復習し、予習してください。</p>				
そ の 他	<p>授業の中でプリント等を適宜配付します。 こどもと音楽表現Ⅲ (器楽) 専用ファイルを必ず作ってください。</p>				

授業内容及び回数

1 回	前期オリエンテーション 教材課題選択及び模範演奏と解説	16 回	後期オリエンテーション 夏期休暇中の課題曲の習得度確認
2 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 こどもの歌の弾き歌い力の習得1	17 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 3 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 3 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）1
3 回	ピアノ曲による演奏技術の習得2 こどもの歌の弾き歌い力の習得2	18 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 4 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 4 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）2
4 回	ピアノ曲による演奏技術の習得3 こどもの歌の弾き歌い力の習得3	19 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 5 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 5 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）3
5 回	ピアノ曲による演奏技術の習得4 こどもの歌の弾き歌い力の習得4	20 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 6 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 6 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）4
6 回	ピアノ曲による演奏技術の習得5 こどもの歌の弾き歌い力の習得5	21 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 7 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 7 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）5
7 回	ピアノ曲による演奏技術の習得6 こどもの歌の弾き歌い力の習得6	22 回	課題習得度確認試験3 ※（グループワークでの楽曲演奏）
8 回	課題習得度確認試験1 ※（ピアノ曲と弾き歌い曲）	23 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 8 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 8 採用試験曲への取り組みと習得1
9 回	ピアノ曲による演奏技術の習得7 こどもの歌の弾き歌い力の習得7	24 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 9 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 9 採用試験曲への取り組みと習得2
10 回	ピアノ曲による演奏技術の習得8 こどもの歌の弾き歌い力の習得8	25 回	ピアノ曲による演奏技術の習得2 0 こどもの歌の弾き歌い力の習得2 0 採用試験曲への取り組みと習得3
11 回	ピアノ曲による演奏技術の習得9 こどもの歌の弾き歌い力の習得9	26 回	ピアノ曲による演奏技術の習得2 1 こどもの歌の弾き歌い力の習得2 1 採用試験曲への取り組みと習得4
12 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 0 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 0	27 回	ピアノ曲による演奏技術の習得2 2 こどもの歌の弾き歌い力の習得2 2 採用試験曲への取り組みと習得5
13 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 1 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 1	28 回	ピアノ曲による演奏技術の習得2 3 こどもの歌の弾き歌い力の習得2 3 採用試験曲への取り組みと習得6
14 回	ピアノ曲による演奏技術の習得1 2 こどもの歌の弾き歌い力の習得1 2	29 回	ピアノ曲による演奏技術の習得2 4 こどもの歌の弾き歌い力の習得2 4 採用試験曲への取り組みと習得7
15 回	課題習得度確認試験2 ※（ピアノ曲と弾き歌い曲） 夏期休暇中の課題曲の選定	30 回	課題習得度確認試験4 ※（ピアノ曲と弾き歌い曲）
		【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
医学一般	2年・前期	講義	30時間 (1単位)	原田 玻璃美
授業概要	人が生きていくための生物体としての特性や、身体の構造を説明し、それぞれの器官がどのように支え合っているのかを理解できるようにします。その仕組みが障害されるとどうなるのか、病気や障害について説明し、社会の中で暮らしていくための医療の仕組みについて、リハビリを含めて解説していきます。			
授業科目の目的	障害児・者がスポーツを楽しみ、社会参加できることを支援する者には、地域での支援者や医療・福祉館会社とのコミュニケーションが取れるように、医学的知識を得る。また、医療連携について理解し、健康を保つための社会的支援を学ぶことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的な構造を図に表し、重要な器官名とその働きを言葉で述べるができるようになります。 2. 病気の成り立ちや予防・治療について述べるができるようになります。 3. リハビリテーションについて概説できるようにします。 4. 援助を必要としている人の健康状態が理解できるようにします。 			
テキスト	社会福祉学習双書 医学一般／全国社会福祉協議会／2011年／2,520円			
参考書	必要に応じ授業内で紹介します。			
成績評価基準	定期試験60%、課題レポート20%、授業態度20%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・医療の世界はめまぐるしく変化していますので、新聞やテレビの医療情報に関心を持ち、授業に反映させてください。 ・学習内容を生活に取り入れ、自分自身の健康管理ができるようにしてください。 ・事前事後の自主学習にも積極的に取り組んでください。 			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<現代医学の歴史と意義> 歴史の中の感染症・現代医学の発達について
2 回	<人体の基本的構造と機能> 人間固有の構造：骨格・筋肉・細胞・血液について
3 回	<器官系別構造と機能1> 循環器系：肺循環と体循環について 呼吸器系：外呼吸と内呼吸について
4 回	<器官系別構造と機能2> 消化器系：消化管と消化腺 消化と吸収について
5 回	<器官系別構造と機能3> 泌尿器系：尿の排泄について 内分泌系：ホルモン分泌器官とホルモンの働きについて
6 回	<器官系別構造と機能4> 神経系：中枢神経（脳の構造と働き） 末梢神経（脊髄の構造と働き）
7 回	<器官系別構造と機能5> 運動器系：骨格筋と間接・運動の仕組みについて 感覚器系：皮膚・眼・耳について
8 回	<病気の起きる仕組み> ホメオスタシスの破綻とは 病気の診断と治療について
9 回	<代表的な疾病の理解1> 生活習慣病：がん・心臓病・脳卒中・糖尿病・アルルハイマー 感染症：インフルエンザ
10 回	<代表的な疾患の理解2> 神経疾患：神経難病 感染症：インフルエンザ
11 回	<医学的リハビリテーション> 理学療法・作業療法・言語聴覚療法
12 回	<介護予防> 介護保険：介護予防3つの柱について
13 回	<障害者スポーツの意義と理念> 基本理念・用語の理解・障害者とスポーツ
14 回	<公衆衛生の動向> 医療保険制度・健康日本21
15 回	<医療サービス体制の動向> 医療提供の仕組み・患者権利擁護について
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育総合演習Ⅱ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（演劇・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得すると共に昨年度に経験したことを後輩に伝えリーダーシップを発揮することも求められます。さらに、学習の成果を大学行事「こどもフェスタ」を通して地域の子どもたちにも上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年次での体験をもとに保育士に必要な下記の習得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得することを目的とします。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができることを目的とします。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培うことを目的とします。 4. 1年生、2年生そして教員、さらには地域の方々など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養うことを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向け計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の立場を理解し、役割に責任をもって取り組み後輩に対しては指導力を発揮できます。（協調性・指導性） 4. 課題に沿った製作物等をつくり、表現することができるようになります。（製作物などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する関心など）：25% 2. 思考・判断（企画・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性・指導性（協力・責任感・指導力など）25% 4. 製作物などの内容や演技などの発表（製作内容・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えと	<p>授業の中で自分の立場を理解し、役割に責任をもって取り組み、自らの考えを述べるとともに、表現に対しては意欲的に取り組むことで保育者としての基本的な技能・技術に身に付けよう。また、後輩に対しては指導的な立場で授業に臨みましょう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ: 演劇 Bグループ: 人形劇 Cグループ: 運動遊び Dグループ: 紙芝居)	16 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 1 B・Dグループ: 練習 1 Cグループ: 作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 Aグループ: テーマ設定・台本作り 1 B・Dグループ: テーマの設定 Cグループ: 運動遊びの研究 1	17 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 2 B・Dグループ: 練習 2 Cグループ: 作品の準備、練習 7
3 回	Aグループ: 台本作り 2 B・Dグループ: 作品決定 Cグループ: 運動遊びの研究 2	18 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 3 B・Dグループ: 練習 3 Cグループ: 作品の準備、練習 8
4 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 1 B・Dグループ: 脚本づくり 1 Cグループ: 運動遊びの研究 3	19 回	A・B・C・Dグループ: 「育ち合いのなかま づくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 2 B・Dグループ: 脚本づくり 2 Cグループ: 運動遊びの研究 4	20 回	Aグループ: オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ: 振り返り・手直し Cグループ: 発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 3 B・Dグループ: 製作 1 Cグループ: 運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 2 (秋の自然素材)
7 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 4 B・Dグループ: 製作 2 Cグループ: 運動遊びの研究 6	22 回	Aグループ: リズムの練習 1 B・Dグループ: パネルシアター製作 1 Cグループ: 作品の練習 1
8 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 5 B・Dグループ: 製作 3 Cグループ: 発表作品決定	23 回	Aグループ: リズムの練習 2 B・Dグループ: パネルシアター製作 2 Cグループ: 作品の練習 2
9 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 1 (春の自然素材)	24 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 6 B・Dグループ: 製作 4 Cグループ: 作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 1
11 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 7 B・Dグループ: 製作 5 Cグループ: 作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 2
12 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 8 B・Dグループ: 製作 6 Cグループ: 作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 にて上演 1
13 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 9 B・Dグループ: 製作 7 Cグループ: 作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 にて上演 2
14 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 10 B・Dグループ: 製作 8 Cグループ: 作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 1
15 回	A・B・C・Dグループ: まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 2 A・B・C・Dグループ: 報告会・まとめ
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
卒業研究	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（演劇・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得すると共に昨年度に経験したことを後輩に伝えリーダーシップを発揮することも求められます。さらに、学習の成果を大学行事「こどもフェスタ」を通して地域の子どもたちにも上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年次での体験をもとに保育士に必要な下記の習得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得することを目的とします。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができることを目的とします。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培うことを目的とします。 4. 1年生、2年生そして教員、さらには地域の方々など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養うことを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向け計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の立場を理解し、役割に責任をもって取り組み後輩に対しては指導力を発揮できます。（協調性・指導性） 4. 課題に沿った製作物等をつくり、表現することができるようになります。（製作物などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する関心など）：25% 2. 思考・判断（企画・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性・指導性（協力・責任感・指導力など）：25% 4. 製作物などの内容や演技などの発表（製作内容・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>授業の中で自分の立場を理解し、役割に責任をもって取り組み、自らの考えを述べるとともに、表現に対しては意欲的に取り組むことで保育者としての基本的な技能・技術に身に付けよう。また、後輩に対しては指導的な立場で授業に臨みましょう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ: 演劇 Bグループ: 人形劇 Cグループ: 運動遊び Dグループ: 紙芝居)	16 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 1 B・Dグループ: 練習 1 Cグループ: 作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 Aグループ: テーマ設定・台本作り 1 B・Dグループ: テーマの設定 Cグループ: 運動遊びの研究 1	17 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 2 B・Dグループ: 練習 2 Cグループ: 作品の準備、練習 7
3 回	Aグループ: 台本作り 2 B・Dグループ: 作品決定 Cグループ: 運動遊びの研究 2	18 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 3 B・Dグループ: 練習 3 Cグループ: 作品の準備、練習 8
4 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 1 B・Dグループ: 脚本づくり 1 Cグループ: 運動遊びの研究 3	19 回	A・B・C・Dグループ: 「育ち合いのなかま づくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 2 B・Dグループ: 脚本づくり 2 Cグループ: 運動遊びの研究 4	20 回	Aグループ: オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ: 振り返り・手直し Cグループ: 発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 3 B・Dグループ: 製作 1 Cグループ: 運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 2 (秋の自然素材)
7 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 4 B・Dグループ: 製作 2 Cグループ: 運動遊びの研究 6	22 回	Aグループ: リズムの練習 1 B・Dグループ: パネルシアター製作 1 Cグループ: 作品の練習 1
8 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 5 B・Dグループ: 製作 3 Cグループ: 発表作品決定	23 回	Aグループ: リズムの練習 2 B・Dグループ: パネルシアター製作 2 Cグループ: 作品の練習 2
9 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 1 (春の自然素材)	24 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 6 B・Dグループ: 製作 4 Cグループ: 作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 1
11 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 7 B・Dグループ: 製作 5 Cグループ: 作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 2
12 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 8 B・Dグループ: 製作 6 Cグループ: 作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 にて上演 1
13 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 9 B・Dグループ: 製作 7 Cグループ: 作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 にて上演 2
14 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 10 B・Dグループ: 製作 8 Cグループ: 作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 1
15 回	A・B・C・Dグループ: まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 2 A・B・C・Dグループ: 報告会・まとめ
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究 I	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ(演劇・人形劇・運動遊び・紙芝居)に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により下記の保育士に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。(関心・意欲・態度) 2. 企画から発表に向け計画を立てると共に実践することができるようになります。(思考・判断) 3. 責任感と協調性を持ち、自分の役割をふまえて授業に臨むことができます。(協調性) 4. 課題に沿った製作物等をつくったり、演技などで表現することができるようになります。(製作物などの内容や演技などの発表) 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度(授業態度や日々の課題に対する関心など) : 25% 2. 思考・判断(企画・創造力・実践力など) : 25% 3. 協調性(協力・責任感など) : 25% 4. 製作物などの内容や演技などの発表(製作内容・表現・発表力など) : 25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身につけましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで保育者としての基本的な技能・技術を身に付けよう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ: 演劇 Bグループ: 人形劇 Cグループ: 運動遊び Dグループ: 紙芝居)	16 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 1 B・Dグループ: 練習 1 Cグループ: 作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 Aグループ: テーマ設定・台本作り 1 B・Dグループ: テーマの設定 Cグループ: 運動遊びの研究 1	17 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 2 B・Dグループ: 練習 2 Cグループ: 作品の準備、練習 7
3 回	Aグループ: 台本作り 2 B・Dグループ: 作品決定 Cグループ: 運動遊びの研究 2	18 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 3 B・Dグループ: 練習 3 Cグループ: 作品の準備、練習 8
4 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 1 B・Dグループ: 脚本づくり 1 Cグループ: 運動遊びの研究 3	19 回	A・B・C・Dグループ: 「育ち合いのなかま づくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 2 B・Dグループ: 脚本づくり 2 Cグループ: 運動遊びの研究 4	20 回	Aグループ: オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ: 振り返り・手直し Cグループ: 発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 3 B・Dグループ: 製作 1 Cグループ: 運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 2 (秋の自然素材)
7 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 4 B・Dグループ: 製作 2 Cグループ: 運動遊びの研究 6	22 回	Aグループ: リズムの練習 1 B・Dグループ: パネルシアター製作 1 Cグループ: 作品の練習 1
8 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 5 B・Dグループ: 製作 3 Cグループ: 発表作品決定	23 回	Aグループ: リズムの練習 2 B・Dグループ: パネルシアター製作 2 Cグループ: 作品の練習 2
9 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 1 (春の自然素材)	24 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 6 B・Dグループ: 製作 4 Cグループ: 作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 1
11 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 7 B・Dグループ: 製作 5 Cグループ: 作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 2
12 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 8 B・Dグループ: 製作 6 Cグループ: 作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ」 にて上演 1
13 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 9 B・Dグループ: 製作 7 Cグループ: 作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ」 にて上演 2
14 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 10 B・Dグループ: 製作 8 Cグループ: 作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 1
15 回	A・B・C・Dグループ: まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 2 A・B・C・Dグループ: 報告会・まとめ
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅱ	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ(演劇・人形劇・運動遊び・紙芝居)に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により下記の保育士に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。(関心・意欲・態度) 2. 企画から発表に向け計画を立てると共に実践することができるようになります。(思考・判断) 3. 責任感と協調性を持ち、自分の役割をふまえて授業に臨むことができます。(協調性) 4. 課題に沿った製作物等をつくったり、演技などで表現することができるようになります。(製作物などの内容や演技などの発表) 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度(授業態度や日々の課題に対する関心など)：25% 2. 思考・判断(企画・創造力・実践力など)：25% 3. 協調性(協力・責任感など)：25% 4. 製作物などの内容や演技などの発表(製作内容・表現・発表力など)：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行するとともに一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身につけましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで保育者としての基本的な技能・技術を身に付けよう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ: 演劇 Bグループ: 人形劇 Cグループ: 運動遊び Dグループ: 紙芝居)	16 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 1 B・Dグループ: 練習 1 Cグループ: 作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 Aグループ: テーマ設定・台本作り 1 B・Dグループ: テーマの設定 Cグループ: 運動遊びの研究 1	17 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 2 B・Dグループ: 練習 2 Cグループ: 作品の準備、練習 7
3 回	Aグループ: 台本作り 2 B・Dグループ: 作品決定 Cグループ: 運動遊びの研究 2	18 回	Aグループ: オペレッタの実演練習 3 B・Dグループ: 練習 3 Cグループ: 作品の準備、練習 8
4 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 1 B・Dグループ: 脚本づくり 1 Cグループ: 運動遊びの研究 3	19 回	A・B・C・Dグループ: 「育ち合いのなかま づくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 2 B・Dグループ: 脚本づくり 2 Cグループ: 運動遊びの研究 4	20 回	Aグループ: オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ: 振り返り・手直し Cグループ: 発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 3 B・Dグループ: 製作 1 Cグループ: 運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 2 (秋の自然素材)
7 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 4 B・Dグループ: 製作 2 Cグループ: 運動遊びの研究 6	22 回	Aグループ: リズムの練習 1 B・Dグループ: パネルシアター製作 1 Cグループ: 作品の練習 1
8 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 5 B・Dグループ: 製作 3 Cグループ: 発表作品決定	23 回	Aグループ: リズムの練習 2 B・Dグループ: パネルシアター製作 2 Cグループ: 作品の練習 2
9 回	A・B・C・Dグループ: 食育研究・調理実 習 1 (春の自然素材)	24 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 6 B・Dグループ: 製作 4 Cグループ: 作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 1
11 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 7 B・Dグループ: 製作 5 Cグループ: 作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 上演リハーサル 2
12 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 8 B・Dグループ: 製作 6 Cグループ: 作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ」 にて上演 1
13 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 9 B・Dグループ: 製作 7 Cグループ: 作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ」 にて上演 2
14 回	Aグループ: 衣装・道具の製作 10 B・Dグループ: 製作 8 Cグループ: 作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・Dグループ: 「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 1
15 回	A・B・C・Dグループ: まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ: 報告集づくり 2 A・B・C・Dグループ: 報告会・まとめ
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館情報技術論	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	戸邊 俊哉
授業概要	図書館業務に必要な基礎的情報技術を習得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説します。			
授業科目の目的	導入されていく技術に振り回されるのではなく、自分でその仕組みや特徴を理解して使用できるようになります。それにより今後も進歩する技術に対応できるようになります。また、普段利用している情報技術と図書館を関連付けることで理解を深めていきます。			
学習成果	ICT技術の中で図書館に特に関係の深い部分を正確に学び、図書館司書として求められる情報機器の操作ができるようになります。			
テキスト	授業中に資料を配付します。			
参考書	図書館情報技術論／ミネルヴァ書房／河島茂生編著／2013年 その他にも適宜授業中に提示します。			
成績評価基準	定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	「司書」資格に関する授業です。 皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。 不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。 また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	コンピュータとネットワークの基礎
2 回	情報技術と社会
3 回	情報ニーズの変化
4 回	図書館における情報技術活用の現状
5 回	図書館業務システムの仕組み（ホームページによる情報発信を含む）
6 回	ネットワークの仕組み（インターネット）
7 回	構造化文書 html の理解
8 回	データベースの仕組み
9 回	検索エンジンの仕組み
10 回	インターネットと図書館
11 回	電子資料の管理技術
12 回	コンピュータシステムの管理（ネットワークセキュリティ、ソフトウェア及びデータ管理）
13 回	ウェブページの評価
14 回	デジタルアーカイブ
15 回	最新の情報技術と図書館 まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館制度・経営論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊 俊哉
授業概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について学び、企業経営やNPM理論との関係の比較、財務・会計の面をふくめて考察します。			
授業科目の目的	図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画について理解を深めます。 また、事例の提示や課題に取り組むことで制度・経営に対して知識だけでなく、具体的な理解を持てるようにします。			
学習成果	図書館経営に関する歴史的な流れを説明することができるようになるとともに、現代に求められている図書館の管理・運営方法の特徴について指摘することができるようになります。			
テキスト	授業中に資料を配付します。			
参考書	図書館経営論／柳 与志夫著／学文社／2013年 その他にも適宜授業中に提示します。			
成績評価基準	定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	「司書」資格に関する授業です。 皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。 不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。 また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	逐条解説図書館法
2 回	他館種の図書館に関する法律 (学校図書館法、国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)
3 回	図書館サービス関連法規 (子ども読書活動推進法、著作権法等)
4 回	図書館学の5法則
5 回	行政制度
6 回	図書館政策 (国・地方公共団体)
7 回	図書館における経営の観点
8 回	公共機関・施設の経営法 (マーケティング、危機管理を含む)
9 回	図書館の組織・職員 (館長、人事管理等)
10 回	図書館の施設・設備
11 回	図書館のサービス計画と予算の確保
12 回	図書館サービスの調査及び望ましい基準とPDCAサイクル
13 回	図書館の評価1. その歴史
14 回	図書館の評価2. アウトカムとパフォーマンス
15 回	図書館の管理形態の多様化 まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
図書館サービス概論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊 俊哉
授業概要	<p>図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種サービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>図書館サービスの対象者のニーズにこたえるために必要な知識を体得することを目的とします。 また、課題に取り組むことで、理論と実践をつなげ、図書館サービスの具体的なイメージや今後の方向性等について理解することを目的とします。</p>			
学習成果	<p>図書館サービス全体の概要を把握し、個々のサービスの特徴・歴史を掘り下げ、今日に至る経過を学ぶことによって、現在のサービスの実体を捉えることができるようになります。</p>			
テキスト	<p>授業中に資料を配付します。</p>			
参考書	<p>図書館サービス論／小田光宏／日本図書館協会／2010年 その他にも適宜授業中に提示します。</p>			
成績評価基準	<p>定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「司書」資格に関する授業です。 皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。 不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。 また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	図書館サービスの考え方と構造
2 回	図書館サービスの変遷（図書館法制定以降） 1. 中小レポートを中心として
3 回	図書館サービスの変遷（図書館法制定以降） 2. 市民の図書館を中心として
4 回	資料提供サービスの基本（利用案内・貸出・予約サービスの流れと相互の関係）
5 回	図書館サービスの連携協力（自治体等機関）
6 回	レファレンスサービス
7 回	情報発信、講座・セミナー
8 回	課題解決支援サービス
9 回	障害者サービス
10 回	高齢者サービス、多文化サービス
11 回	児童サービス YA サービス
12 回	図書館サービスと著作権
13 回	図書館サービス無料の意義
14 回	インターネットと図書館サービス
15 回	接遇・コミュニケーション、広報
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報サービス論	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	原田 安啓
授業概要	教科書による講義を中心として、Webからの情報やパワーポイントを用いて、現実の情報環境の理解を深めつつ、日進月歩で進化する情報サービス現場を体験します。			
授業科目の目的	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等の方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて学びます。			
学習成果	図書館業務の中核を占める「情報サービス」について、そのさまざまな形態を把握し、運用できる能力を養います。そしてネットワーク情報資源や発信型情報サービスなど新しい分野のサービスについても理解を深めます。			
テキスト	原田安啓 著 『情報サービス論』 近大姫路大学における教科書 (2011年) を使用します。無料			
参考書	文献調査法 第4版／毛利和弘 著／日本図書館協会／平成22年／1,900円			
成績評価基準	授業態度、理解度 (30%) 確認テスト (70%) により、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	情報サービス論は、伝統的メディアから最新の情報資源までを扱い、学ぶ範囲は広いが要点を整理し、わかりやすい授業に務めるので、授業中において不明な点があれば、いつでも質問してください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	情報社会と図書館における情報サービス
2 回	読書相談・利用案内
3 回	レファレンスサービス
4 回	レフェラルサービスとカレントアウェアネスサービス
5 回	その他のサービス（コンテンツサービス等）
6 回	レファレンスサービスの理論（利用者の情報行動、レファレンスプロセス、事例の活用、組織と担当者、評価等）
7 回	レファレンスサービスの体制づくり・実施・普及、現状と問題点
8 回	情報検索サービスの理論と方法1
9 回	情報検索サービスの理論と方法2
10 回	各種情報源の特質と利用法
11 回	参考図書の解説と評価（付属図書館を利用します）
12 回	ネットワーク情報資源の評価
13 回	各種情報源の組織化（二次資料の作成、情報発信等）
14 回	発信型情報サービスの意義と方法
15 回	図書館利用教育、情報リテラシー育成、まとめ
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
児童サービス論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊 俊哉
授業概要	児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説します。			
授業科目の目的	図書館は生涯利用し続ける教育機関であり、その利用の端緒である図書館における児童サービスの基礎的知識・特徴について知るとともに、知識だけを理解するのではなく、どのように実践に取り入れていけばよいのかを課題を達成することで習得することを目的とします。			
学習成果	児童サービスは幼児から児童・生徒まで、その発達段階を把握しながら適切な資料の提供を図るという点で、専門性の高い業務であることを説明できるようになります。またニーズを的確につかみとり、実践の場でも応用することができるようになります。			
テキスト	授業中に資料を配付します。			
参考書	児童サービス論／堀川照代編／日本図書館協会／2009年 その他にも適宜授業中に提示します。			
成績評価基準	定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>「司書」資格に関する授業です。</p> <p>皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。 不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。</p> <p>また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	発達と学習における読書の役割
2 回	児童サービスの意義・理念
3 回	児童サービスの歴史
4 回	絵本
5 回	物語と伝承文学
6 回	知識の本、触る絵本（障害者用）
7 回	児童サービスの実際 資料の選択と提供
8 回	ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク等
9 回	乳幼児サービス（ブックスタート等）と資料
10 回	ヤングアダルトサービスと資料
11 回	学習支援としての児童サービス、図書館利用指導等
12 回	児童のためのレファレンスサービス
13 回	学校、学校図書館の活動
14 回	学校、家庭、地域との連携・協力
15 回	インターネットと児童 まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館情報資源概論	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	原田 安啓
授業概要	教科書に従って、講義を中心としますが、必要に応じてWebの活用やパワーポイントまたはDVDも視聴しながら授業を進めます。			
授業科目の目的	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を学びます。			
学習成果	個別具体的な情報資源について、その特徴と取り扱い、そして流通について理解するとともに、情報資源には大きく分けて4つの分野のあることを学ぶことができますようにします。また資料の図書館での受入れから除籍に至るまでの流れを知り、情報資源全体の概略を把握することができます。			
テキスト	図書館情報資源概論 J L A 図書館情報学シリーズⅢ／馬場俊明 著／日本図書館協会／2012年／定価1,900円			
参考書	必要に応じてプリントを配布します。			
成績評価基準	授業態度や理解度30%、確認テスト70%、により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	身近な公共図書館や大学図書館をあらかじめ見学して、情報資源の全容を調べておくと、授業の理解度が高まります。また自分が図書館員になったと仮定して授業に取り組むのも効果的です。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	印刷資料・非印刷資料の種類と特質（図書・雑誌・新聞、主要な一次・二次資料、資料の歴史含む）
2 回	電子資料、ネットワーク情報資源の種類と特質
3 回	地域資料の特質、身近な図書館の例
4 回	行政資料（政府刊行物）、灰色文献その流通と収集の方法
5 回	情報資源の生産（出版）
6 回	情報資源の流通と再販制度、商品と図書の違い
7 回	図書館業務と情報資源に関する知識
8 回	コレクション形成の理論 価値論と要求論含む
9 回	資料の選択・収集、コレクションの評価
10 回	コレクション形成の方法（選択ツールの利用、選定、評価）
11 回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性
12 回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性
13 回	資料の受入・除籍・保存・管理
14 回	資料の装備・補修・排架・展示・点検
15 回	図書館情報資源の拡大 まとめ
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
情報資源組織論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊 俊哉
授 業 概 要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を学びます。			
授 業 科 目 の 目 的	膨大な数の図書館の情報資源がどのように組織化されているのかを理解します。 また、図書館のウェブサービス等を利用することで、組織化の理論と技術がどのように活用されているのかを体感し、理論と実践をつなげていきます。			
学 習 成 果	図書館が扱うあらゆる情報資源の組織化を視野に入れた上で、各種情報資源の特徴を理解し、組織化にあたっての必要な知識や技術を習得することができます。また、課題を達成することで知識を実践に応用することができるようになります。			
テ キ ス ト	授業中に資料を配付します。			
参 考 書	資料組織概説／柴田正美／日本図書館協会／2008年 その他にも適宜授業中に提示します。			
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。			
メ 受 講 の 心 構 え と セ ー ジ ト	「司書」資格に関する授業です。 皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。 不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。 また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。			
そ の 他				

授業内容及び回数

1 回	情報資源組織化の意義と理論
2 回	書誌コントロールと標準化
3 回	国立国会図書館及び国際レベルの書誌コントロール
4 回	書誌記述法（主要な書誌記述規則）
5 回	主題分析の意義と考え方
6 回	主題分析と分類法（主要な分類法）
7 回	主題分析と索引法（統制語彙）
8 回	件名標目表とシソーラス
9 回	書誌情報の作成と流通 MARC
10 回	書誌ユーティリティ
11 回	書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
12 回	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13 回	多様な情報資源の組織化（地域資料、行政資料）
14 回	多様な情報資源の組織化（その他の資料） 1
15 回	多様な情報資源の組織化（その他の資料） 2 まとめ
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館情報資源特論	2年・前期	講義	15時間 (1単位)	戸邊 俊哉
授業概要	<p>情報資源全体を広く深く見渡し、幅広い図書館の情報資源に対応できる能力を涵養するとともに生涯学習全体にも目配りを効かせて理解を深めていきます。 また、情報化による変化と影響について等も取り上げます。</p>			
授業科目の目的	<p>図書館の情報資源について理解するとともにその取扱いについても習得します。 理論だけでなく、課題や事例を提示することで具体的なイメージや問題意識を持つことができるようにします。</p>			
学習成果	<p>図書館が文化・情報を保存する重要な機能を担っていることを理解し、古典籍の取り扱いや図書館における災害への対策方法等についての取り組み方を説明することができるようになります。さらに電子書籍等の新しい情報資源についての図書館での取り扱い方も習得できます。</p>			
テキスト	<p>授業中に資料を配付します。</p>			
参考書	<p>資料保存の調査と計画／安江明夫著／日本図書館協会／2009年 その他にも適宜授業中に提示します。</p>			
成績評価基準	<p>定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「司書」資格に関する授業です。 皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。 不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。 また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	学習・研究活動に役立つ情報へのアクセス（書誌の活用・デジタル情報の活用）
2 回	日常の生活情報の取り扱い
3 回	生涯にわたって学ぶとは（情報リテラシーの習熟を含む）
4 回	図書館と古典資料
5 回	写本 著作権の考え方の無い時代、オリジナルと異本
6 回	古典資料の収集・整理、補修・保存、利用
7 回	図書館と災害 阪神・淡路、東日本大震災と図書館 災害を乗り越えて
8 回	リスクマネジメント まとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館施設論	2年・前期	講義	15時間 (1単位)	戸邊 俊哉
授業概要	<p>図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その他構成要素等について学びます。</p> <p>また、具体的なイメージを持つために実際の図書館を適宜取り上げて説明します。</p>			
授業科目の目的	<p>図書館施設は人々が集う場所であり、そこがどのような施設であることが求められているのかを考えます。</p> <p>また、実際に存在する図書館を取り上げることで、具体的にどのような課題や解決法があるのかを理解します。</p>			
学習成果	<p>図書館の外観から内部、閲覧室、事務室、書庫をはじめとする諸配置について、それぞれの配置の意味を説明することができるようになります。また、実際の図書館を取り上げることによって、具体的な問題と対応策も指摘できるようになります。</p>			
テキスト	授業中に資料を配付します。			
参考書	よい図書館施設をつくる／植松貞夫著／日本図書館協会／2010年 その他にも適宜授業中に提示します。			
成績評価基準	定期試験60%、授業中の課題40%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>「司書」資格に関する授業です。</p> <p>皆さんから意見も聞いて、それも参考にしつつ授業を進めていきます。</p> <p>不明な点等があったら気軽に質問して、わからないままにすることなく、知識を深めてください。</p> <p>また図書館は身近な存在ですので、自分の利用状況や問題意識に絡めることで理解が深まります。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	住民と図書館サービス
2 回	サービス計画の立て方 住民の生活動線等と図書館の位置 規模 情報資源量の観点
3 回	図書館計画 サービス指標の観点から
4 回	地域の歴史、産業、人口等の分析と行政の地域計画との整合性
5 回	図書館の建築 コンペ方式等、設計者の観点、利用者の観点、ミッション（使命）の確定
6 回	館長及び職員
7 回	図書館の財政
8 回	まとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教職論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	藤井 太郎
授業概要	<p>本授業では、教職免許に関する科目として「人間形成の基礎を培う重要な時期」に関わる教職（以下、保育職も含む）の意義、教員（以下、保育士も含む）の役割と専門性、職務内容と課題、必要とされる資質・能力、果たすべき役割や仕事の意義等について学習していきます。</p> <p>同時に、学生が教職、親としてのあり方を見つめ直し、認識と自覚を深め、使命感を高めることを目的とします。学校教育に限らず、教育とは「人と人」の関係で成り立つものであり、教職志望以外の学生も「人間学」として学んでほしいと思います。あるべき教育者・保育者像、人間像の形成に向かって意欲、態度、自覚を養いましょう。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の学習・生活を見つめ直し、ライフデザインを描き、「今なすべきこと」を見出して実践することを目的とします。 2. 教育者の役割、あるべき姿について学び、考察して、自分が目指す教師像・人間像が描けることを目的とします。 3. 教育者がおかれている現状と問題点（課題）を知り、必要とされる専門性について学ぶことを目的とします。 4. 教育に留まらず現代社会の現状や課題に関心を深め、こどもとともに成長を続ける心構えや意欲を核心に持つことを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育者（以下、保育者を含む）の役割と倫理について考察を深め、論じることができるようになります。 2. 教育者の制度的な位置づけを認識し、説明することができるようになります。 3. 教育者の専門性について概略を理解し、教育を担う者として意欲を高めることができるようになります。 4. 教育者の協働について理解を深め、自己能力の発揮と他者理解の態度を養うことができるようになります。 5. 教育者の専門職的成長について理解し、常に研修を怠らず「能力・技術・人間性を鍛える心構え」を養うことができるようになります。 			
テキスト	<p>保育所保育指針および解説書／フレーベル館 幼稚園教育要領および解説書／フレーベル館 教科書としては、教職論／和田幸司他編／近畿大学弘徳学園発行を使用しますが、プリント教材及び視聴覚教材も利用します。</p>			
参考書	<p>保育用語辞典 第7版／森上史朗 他編／ミネルヴァ書房／2013年／2,484円 教職論 「よい教師」への扉を開く／佐島群巳他編／学文社／2010年／1,728円 実践に活かす教育基礎論・教職論／樋口直宏他編／学事出版／2010年／2,160円 改訂 保育者論／民秋言 編著／建帛社／2009年／2,052円 保育者論／汐見稔幸他編／ミネルヴァ書房／2010年／2,376円</p>			
基 成績評価 準	<p>受講態度（リアクションペーパーを含む）30点、レポートやプレゼンテーション20点、期末テスト（持ち込み不可）50点を総合的に評価します。</p>			
メ 受講の心構えと ツッ セー ジ	<p>授業は主として講義形式になりますが、双方向（応答）型の授業を心掛けたいと考えています。</p> <p>真に優れた教育者・保育者は、優れた社会人でもあります。この授業は教育者・保育者はいかにあるべきかを考えながら、教育者・保育者となる自分自身を見つめる時間にしてください。幼稚園教諭・保育士を志望する人はもちろんこと、志望しない人も「人間論」「子育て論」として学び、有意義な授業を作り上げていきましょう。自分自身を客観的に把握したり、他者の考えを受け止めながら、主体的に学ぶことを期待しています。</p> <p>普段の予習は強要しませんが、復習はしてください。また、新聞記事や参考図書も紹介しますので、日常から新聞に目を通したり、読書をするように心がけてください。</p>			
の 事 他 項				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 教職論の目標と概要・学ぶ意義
2 回	<教職（以下、保育職も含む）の意義と本質> 教師（以下、保育者も含む）の本質、教員養成の歴史と教師像の変遷、教職の特性と教職観
3 回	<任務と服務> 教員の身分・地位、教職と服務・関係法規、教職における倫理、分限と懲戒
4 回	<教師の仕事> 教員の専門性の拡大と職務内容・役割とあり方、教員の仕事の実際、保護者・地域社会との連携
5 回	<教師の資質・能力> 求められているプロとしての教員の資質・能力（必要な人間性・知識・技術・態度、使命感など）
6 回	<資質向上に向けての研修と意義> 教員の自覚的な成長、養成と研修、研修の種類、教師が育つ環境、資質向上と第三者評価（実践を社会に問う姿勢）など
7 回	<職場環境> 教員文化と同僚性、組織の一員としての意識と協働、職場における環境構成
8 回	<教育実習と採用試験> 教育実習の意義と目的、教育実習の実際／採用の現状と課題、採用試験の実態と傾向と対策
9 回	<教えることと学ぶこと> こども・保護者と向き合う教師の関係性：愛・信頼・尊敬（K・ヤスパースの「交わり」・M・ブーバーの「我と汝」を軸としての考察）
10 回	<学校教育をめぐる諸問題> 教育制度の整備とひずみ／学校に求められる教育ニーズの多様化と今日的課題（子育て環境の変化とこどもの変容、地域・社会との連携など）
11 回	<保護者支援の現状と課題> 支援の本質とねらい／支援者としての役割、支援の基 本としてのソーシャルワークの精神・手法からの学び、外部との連携とコーディネーターの役割
12 回	<教育は人間形成：人間と教育を考える> 思想の源流（四人の人類の教師）に学ぶ：ソクラテス、仏陀（釈迦）、孔子、イエス・キリスト
13 回	<理想の教育・教師像を求めて1> 教育のプロの教師としての心の構え：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリ
14 回	<理想の教育・教師像を求めて2> 吉田松陰、福沢諭吉、倉橋惣三、大村はま、東井義雄
15 回	<教育・保育に関する法令と総復習>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育原理	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	伊藤 博
授業概要	自分が今までに受けてきた教育について振り返り、「教育とは何か」についての問いに対する自分なりの明確な回答ができるよう学習していきます。そのため、毎回の授業ではグループワークを中心として進め、自分の意見をグループ内で述べるとともに他の学生の意見をしっかりと聴きます。その中で自分の意見や考えを肯定したり、修正したりなどにより「教育」とは何かを深く考えていきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育とは何か」という基本的な問いへの答えを考えることができますようになります。 2. 教育の目的・意義・方法・内容などについての、基本的な原則や理論的な基礎を明確にできるようになります。 3. 将来教員を目指すため、現在の教育問題を考える際の前提となる知識を身につけ、教育に対して深く理解できるようになります。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義・目的及び児童福祉との関連性について理解できます。 2. 教育の基礎的概念、理論、歴史について学び、教育に関する体系的知識を習得することができます。 3. 教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について理解できます。 4. 生涯学習社会における教育の在り方について考えることができます。 5. 教育学的な思考や態度を習得することができます。 			
テキスト	教育原理／小田豊監修、野尻裕子・栗原泰子編著／光生館／2014年／2000円			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 二十四の瞳／壺井栄／光文社／1952年／新潮文庫など多数文庫化 聖職の碑(いしぶみ)／新田次郎／講談社／1976年(講談社文庫 1981年)			
成績評価基準	毎回提出のレポート30%、授業態度点20%、定期試験50%とします。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でグループワークを実施しますので、シラバスをしっかりと読み込み自分なりの意見や考えを述べるように日常から教育に関する話題を新聞やインターネットなどから情報として得るように心がけてください。 ・文章の要約練習もかねて授業の中で4回の【プロジェクト学習】を行いますので、この時は事前学習(予習)をいつもよりしっかりとやっておいてください。 ・月曜日の1時間目に授業を行いますので、遅刻や欠席がないように毎回頑張って受講してください。幼児教育についてあなたに伝えたいことが沢山ありますので、神戸市内から毎回頑張ってやってきます。 ・質問などは授業中に積極的に行うようにしてください。 			
その他				

授業内容及び回数

1 回	教育とは その1 教育の意義、教育の理念
2 回	教育とは その2 成長と教育、教育の目的
3 回	教育と福祉 その1 子どもの権利条約、ECEC についての国際的な潮流
4 回	教育と福祉 その2 日本における就学前教育と児童福祉、家庭・地域に対する教育施策・福祉施策
5 回	日本の教育の歴史 その1 . . .【プロジェクト学習】 近代学校の成立、近代公教育制度の展開
6 回	日本の教育の歴史 その2 教育改革と学校教育、現代社会における学校教育の課題
7 回	教育観と子供観の変遷 -日本- . . .【プロジェクト学習】 近代日本までの教育理論、大正期・昭和期の幼児教育の理論、代表的な幼児教育理論
8 回	教育観と子供観の変遷 -諸外国- 教育観と子供観の変遷、世界の幼児教育
9 回	保育を取り巻く制度とその変遷 その1 日本の教育制度、教育と福祉の法規
10 回	保育を取り巻く制度とその変遷 その2 教育行政の目的と組織、虐待と子どもの人権
11 回	保育内容の変遷 その1 「幼稚園規則」による保育、保育項目による保育、保育内容（6領域）による保育
12 回	保育内容の変遷 その2 . . .【プロジェクト学習】 保育内容（5領域）による保育、保育所における保育内容
13 回	教育の実践 その1 . . .【プロジェクト学習】 教育目的・教育目標、教育の内容
14 回	教育の実践 その2 教育の方法、教育の計画、教育実践の多様な取り組み
15 回	生涯学習社会の中で 生涯学習の基礎、生涯学習社会と学校教育、生涯学習社会における保育者の役割
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育心理学	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	野口 和也
授業概要	<p>教育心理学の主な領域は、発達、学習、集団・適応、評価から成り立っています。その領域に満遍なく触れながら、本講義では、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え、捉え方を紹介します。学習や動機付け、人間関係、教育評価といった教育心理学の中心となる内容とともに、信頼関係の基礎となるカウンセリングマインドなどについても発展させていきます。心理学という枠組みからの理解や考え方を学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。学習・発達・人格・教育評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。また、現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基礎的知識をもとに専門家として保育実践、発達援助に生かしていける力量の担保を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習・人格・適応・発達・評価という教育心理学の基礎的な事項を理解し、その特徴を説明することができるようにします。 2. 生活、教育・保育場面を心理学の観点から見つめ分析し保育実践に応用することができるようにします。 3. 多様な学びを通した子どもたちの心身の育ちの過程について、論じることができるようにします。 			
テキスト	<p>学びと教えて育つ心理学—教育心理学入門—／小林芳郎編著／保育出版社／2011年／2,381円＋税</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館／100円＋税 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／190円＋税 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館／120円＋税 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館／190円＋税</p>			
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート15%、復習課題15%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「学ぶこと」「教えること」そして「育てること」は、「保育」「教育」に向き合う人々にとって、とても身近でとても大きい重要な活動になります。ぜひ、そのひとつ一つについて、一緒に一歩ずつ、考えていければと思います。</p> <p>また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。しっかりと実感をもって、学んでほしいと願っています。</p> <p>保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずで。毎回指示していく予習・復習に取り組み、実践に結びつく生きた知識を得てほしいと心から期待しています。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 教育心理学の領域と目的・研究方法
2 回	<こどもの発達1> 発達の原理・段階と個人差
3 回	<こどもの発達2> 発達の諸相と教育／遊びの発達
4 回	<こどもの発達3> 人間関係の発達／社会性・道徳性の発達
5 回	<こどもの学び1> 学習理論／条件付け
6 回	<こどもの学び2> 動機づけ／原因帰属
7 回	<どのように教えるか> 学習指導と教授法／発見学習／プログラム学習／適性処遇交互作用
8 回	<学級集団での学び> 学級集団の働きとその指導
9 回	<パーソナリティ> 類型論／特性論／精神分析理論と性格検査
10 回	<適応1> 適応とは何か／欲求とその種類
11 回	<適応2> 欲求不満と機制
12 回	<評価する> 教育評価の意義と方法／診断的評価・形成的評価・総括的評価
13 回	<特別なニーズのある子どもへの援助> 特別なニーズとその支援
14 回	<人と向き合う援助> カウンセリングとカウンセリングマインド
15 回	<まとめ> 取り巻く環境による子どもの発達と保育課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
発達心理学	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口 和也
授業概要	はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。人の生涯発達という視点に立ち、こころとからだ、ことは、考える力などの発達を学び、くわえて保育実践を行う上で重要な話題について学びを深めていきます。また、こどもたちひとり一人に寄り添えるより良い保育を提供するために、特別な支援を必要とするこどもへの支援・援助についても解説します。			
授業科目の目的	<p>保育において心理学という学問を扱う意味はどのようなものであるか、この授業では保育における心理学を学ぶ意義について理解していきます。</p> <p>発達心理学では、こどもと取り巻く環境との密接な相互のかかわりを通じて、発達は進んでいくことを理解することが要となります。そのために心理学におけるものの見方、考え方を学ぶことが目的となります。</p> <p>保育者として発達に見合った適切かつ確かな保育を行うために、生涯にわたり続いていくという観点から人間の発達の過程と特徴について理解していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育にかかわる心理学の知識を習得し、保育実践と関連づけることができるようになります。 2. こどもの理解と人の発達について、心理学的理解を行うための、ものの見方、考え方を学び、それらを基礎として、論じることができるようにします。 3. 生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達における人との相互作用の重要性について理解し説明することができるようにします。 			
テキスト	保育の心理学 I / 柳生崇志・梅崎高行編著 / 大学図書出版 / 2013年 / 1,900円 + 税			
参考書	<p>幼稚園教育要領 / 文部科学省 / フレーベル館 / 100円 + 税</p> <p>幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館 / 190円 + 税</p> <p>保育所保育指針 / 厚生労働省 / フレーベル館 / 120円 + 税</p> <p>保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館 / 190円 + 税</p>			
成績評価基準	授業態度10%、レポート20%、復習課題20%、定期試験50%により総合的に数量化して評価します。			
受講のセー ジと 心構え	<p>発達心理学は私たち誰もが歩んできた人生と重なり関係する話題が多くある授業になります。そして、心理学という人を学ぶ学問では、自分自身を振り返り考えを巡らし、“確かな学びを得る”ことが肝心となります。</p> <p>授業では、私たち人の発達に関する知識とともに各段階での特徴を提供していきます。幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現させながら、一緒に学んでいきましょう。確かな学びの獲得に向けて、その都度、伝えていく予習・復習にしっかり取り組むことを忘れずしてください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 保育とは何か／保育の中の心理学
2 回	<保育と心理学> 保育における心理学の位置づけ
3 回	<初期経験の重要性> 気質と環境／文化
4 回	<発達とは何か1> 誕生から乳幼児期まで
5 回	<発達とは何か2> 児童期から老年期まで
6 回	<生涯発達の諸理論> 心理社会的発達理論／発達課題
7 回	<愛着の形成> 愛着とはなにか／ホスピタリズム
8 回	<心の育ち> 情動の発達と自我
9 回	<からだの育ち> 身体発育／原始反射からはじまる運動発達
10 回	<考える力の育ち> ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作
11 回	<ことばの育ち> 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期
12 回	<関係のなかでの育ち> 関係発達論
13 回	<発達と学習> 観察学習／動機づけ
14 回	<特別な支援ニーズと援助> 特別な支援を要するこどもへの援助
15 回	<よりよい保育のために> 発達の最近接領域／指導計画／自己評価／第三者評価
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文化	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	小西 律
授業概要	<p>保育現場で使用されるこどもの文化財について、理論を踏まえた上で、役に立つ技術を身につけること。こども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現が出来るようにすること。この両面を視野に入れた学習を行います。その上で、絵本、紙芝居、パネルシアター、折り紙などの文化財、伝統文化、遊びなど実践に重きをおいた授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども達の生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などはどのようなか理論を踏まえ、豊かに育ち行くこどものために好ましい文化のあり方、意義について理解することを目的とします。 2. 保育現場で使用される文化財の中で、言語に関わる教材を取り上げ、実践することから保育技術の習得を図り、その実践からそれらがこどもの生活の中で経験と深く関係することを自ら得ることを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本、紙芝居、劇あそびなど保育の場で使用されるこどもの文化財の持つ性格、必要性が説明できるようにします。 2. 保育の場で使用される文化財についてその内容及び保育技術が獲得できるようにします。 3. 絵本、紙芝居などの実践からこどもの言葉、情緒を豊かに育てるとはどういう意味があるかを認識できるようにします。 			
テキスト	こどもと文学／小西律／近畿大学豊岡短期大学／1,000円			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. かならず折れるおりがみ①②③／小林一夫監修／ひかりのくに／2005年／本体800円 2. 読み聞かせ この素晴らしい世界／ジム・トレリス、亀井よし子訳／高文研／1,365円 3. 保育所保育指針／保育所保育指針解説書／フレーベル館 			
成績評価基準	<p>定期試験 20%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物（レポート）20%、実践 40%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育の場でこどもの文化の占める範囲、位置は広く重く、ここまでと制限されるものではありません。日々、使用される絵本、紙芝居、折り紙などは一見すると、その場で簡単に出来そうですが、たやすく出来るものではありません。これらは具体物を使用するがゆえに、安易に読めば、折れればと思われてしまう危険性を孕んでいるのです。こどもの日々の生活や成長を考えながら心して選択し、準備しておくことが大切で、繰り返しますが、その場でというものなどではないのです。</p> <p>こども達の育みを豊かにするためにどのような文化が必要なのかを常に考え、練習をし、私はこれだったら絶対大丈夫というものが出せるような姿勢を持って授業に臨んでください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<こどもと文化の関わり 1> 意義、歴史、内容、文化活動	16 回	<紙芝居 2> 上演の仕方、手直し、練習
2 回	<こどもと文化の関わり 2> 成長・発達と遊び、玩具	17 回	<紙芝居 3> 紙芝居の上演 (1)
3 回	<伝統文化とこども 1 折り紙 (1)> 意義、折り紙の基礎、小動物	18 回	<紙芝居 4> 紙芝居の上演 (2)
4 回	<伝統文化とこども 2 折り紙 (2)> こどもと五節句、歴史、端午	19 回	<紙芝居 5> 紙芝居の上演 (3)
5 回	<伝統文化とこども 3 折り紙 (3)> 壁面作成	20 回	<紙芝居 6> 紙芝居の上演 (4)
6 回	<絵本 1> こどもと絵本、絵本とは、絵本の種類	21 回	<お話> 意義、選び方 語り聞かせの方法と留意点
7 回	<絵本 2> 絵本の選び方、読み聞かせの方法と留意点	22 回	<パネルシアター 1> こどもとパネルシアター・人形劇、意義、 作成の仕方と留意点
8 回	<絵本 3> 絵本の読み聞かせ (1) 実践	23 回	<パネルシアター 2> 作成 (1)
9 回	<絵本 4> 絵本の読み聞かせ (2) 実践	24 回	<パネルシアター 3> 作成 (2)、上演の仕方、練習
10 回	<絵本 5> 絵本の読み聞かせ (3) 実践	25 回	<パネルシアター 4> パネルシアターの上演 (1)
11 回	<絵本 6> 絵本の読み聞かせ (4) 実践	26 回	<パネルシアター 5> パネルシアターの上演 (2)
12 回	<視聴覚教材について> テレビ、ゲーム、コンピュータの効用と課 題	27 回	<パネルシアター 6> パネルシアターの上演 (3)
13 回	<伝承あそび> 伝承あそびとは、歴史、あやとりなど	28 回	<伝統文化とこども 5 折り紙 (4)> 折り紙で遊ぶ 紙鉄砲、飛行機
14 回	<伝統文化とこども 4> 五節句 七夕	29 回	<伝統文化とこども 6> 五節句 節分、雛祭り
15 回	<紙芝居 1> 歴史、特徴、作成の仕方	30 回	絵本、紙芝居、1年間を通してのレポート 作成とまとめ
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育課程論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	宿南 久美子
授業概要	どのようなこと(教育・保育目標)を大切にして、どのような方法(教育・保育方針)で、どのようなこと(教育・保育内容)を、どの時期(教育・保育期間)にしていくかという全体計画が教育課程・保育課程です。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。			
授業科目の目的	幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるのかを理解することを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解することができます。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得することができます。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解することができます。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができます。 			
テキスト	教育課程・保育計画総論／田中亨胤・佐藤哲也編著／ミネルヴァ書房／2,000円＋税			
参考書	幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／文部科学省／フレーベル館			
成績評価基準	受講態度・意欲30% レポート10% 定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	教育課程・保育課程は、教育・保育の内容やあり方を定めるものです。保育者としての意識を高めるよう積極的・主体的な授業参加をしてください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<教育課程・保育課程とは何か> 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2 回	<保育カリキュラムの基礎理論> 保育カリキュラムの意義と必要性
3 回	<保育カリキュラムの構造> 保育カリキュラム編成の前提・基盤
4 回	<幼稚園の教育課程> 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方
5 回	<保育所の保育課程> 保育計画の基本
6 回	<保育所の特性をふまえて> 3歳未満児の発達と保育内容
7 回	<長期の指導計画> 園生活と長期の指導計画
8 回	<短期の指導計画> 短期指導計画の意義・作成
9 回	<保育の計画と評価> 保育の実践と観点表
10 回	<幼・保・小の連携カリキュラム> 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11 回	<開かれた園生活のカリキュラム> 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12 回	<危機管理保育のカリキュラム> 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性
13 回	<時代の変化と新たな保育内容 1 > 多文化保育のカリキュラム
14 回	<時代の変化と新たな保育内容 2 > 総合施設におけるカリキュラム
15 回	<時代の変化と新たな保育内容 3 > 信頼される園づくりと学校評議員制度
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。</p> <p>保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、DVD視聴など具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。</p>			
授業科目の目的	<p>保育所や幼稚園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができます。 2. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶことができます。 3. 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解することができます。 4. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解することができます。 5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶことができます。 			
テキスト	<p>幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／文部科学省／フレーベル館 適宜関連資料を配布</p>			
参考書	<p>保育用語辞典／ミネルヴァ書房 月間保育とカリキュラム／ひかりのくに</p>			
成績評価基準	<p>受講意欲20%、課題・レポート等提出物20%、定期試験60%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育所実習、また幼稚園実習を経験していますので、実際体験してきたことの中から疑問や課題をもって講義を聴き、一方通行の講義に終わらせないためにも、意見や質問を出して、積極的に授業に臨んでください。保育を学ぶ学生として、主体的に学ぶ姿勢を持ち続けることを望みます。</p>			
その他	<p>常に、保育所保育指針・解説書、幼稚園教育要領・解説書を利用します。毎回忘れずに持参してください。</p>			

授業内容及び回数

1 回	<保育の基本と保育内容 1> 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
2 回	<保育の基本と保育内容 2> 保育の全体構造と保育内容
3 回	<保育内容の歴史の変遷> 幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷にみる特徴と課題
4 回	<保育内容と子ども理解 1> 子どもの発達の特徴と保育内容
5 回	<保育内容と子ども理解 2> 個と集団の発達と保育内容
6 回	<保育内容と子ども理解 3> 保育における観察と記録
7 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 1> 養護と教育が一体的に展開する保育)
8 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 2> 環境を通して行う保育
9 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3> 遊びによる総合的な保育
10 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 4> 生活や発達の連続性に考慮した保育
11 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5> 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
12 回	<保育の多様な展開 1> 乳児保育の検討と、保育者の役割
13 回	<保育の多様な展開 2> 長時間保育
14 回	<保育の多様な展開 3> 特別な支援を必要とする子どもの保育
15 回	<保育の多様な展開 4> 多文化共生の保育
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと健康	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>保育は実践によって成り立つものです。それを実りあるものにするためには、理論的学習が必要です。乳幼児期の健康に対する幅広い知識と、個々の発育発達の状態に対する配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら、子どもの積極的な健康指導を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎をつくる重要な時期です。この授業は、こどもの健康を守り育てるために、実際の保育面で子どもの発達をどのように伝え、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、こどもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようになります。 2. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができます。 3. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための援助および指導ができるようになります。 4. 安全教育を理解し管理および指導の方法が分かるようになります。 5. 健康に関する内容について、指導案を作成することができます。 6. 健全な発育・発達を阻害している健康問題を認識・考察し、健康維持の生活についてアプローチしようとする力を身につけることができます。 			
テキスト	<p>子どものこころと体を育てる保育内容「健康」／編著 高内正子／保育出版社 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>保育用語辞典／ミネルヴァ書房 月間保育とカリキュラム／ひかりのくに</p>			
成績評価基準	<p>学習成果の1～6までは、筆記試験、レポート、グループディスカッションなどにより、知識態度の修得を確認する。 受講姿勢・意欲：10% レポート、グループディスカッション：40% 筆記試験：50%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心を持ち、現在の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきをはかりながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。</p>			
その他の事項	<p>必要に応じて参考になるプリントを配付しますので、ファイルしておいてください。講義の終わりに次回までの予習する内容と講義の振り返り内容などを示します。予習復習を行って講義に臨んでください。</p>			

授業内容及び回数

1 回	< 領域「健康」の理解 > 「健康」とは何か（保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容の理解）
2 回	< 行事と健康 1 > 伝統的的民族行事と子どもの健康
3 回	< 行事と健康 2 > 保育行事と子どもの健康な育ち
4 回	< 子どもの遊びと健康 1 > 子どもの健康と自然環境
5 回	< 子どもの遊びと健康 2 > 子どもの遊びと健康
6 回	< 子どもの遊びと健康 3 > 子どもの健康と土踏まず
7 回	< 健康な成長を促す運動 1 > 子どもの運動発達について
8 回	< 健康な成長を促す運動 2 > 子どもの健康と運動指導（指導案作成）
9 回	< 健康な成長を促す運動 3 > 子どもの健康と運動指導（指導案作成と模擬保育）
10 回	< 子どもの心の健康 1 > 子どものこころの発達
11 回	< 子どもの心の健康 2 > 子どもの健康と虐待
12 回	< 子どもの健康と喫煙教育 > 子どもを取り巻く喫煙環境と害
13 回	< 愛情あふれる「いのち」の教育 > わが国における性教育といのちをめぐる問題点
14 回	< 保育環境の安全性 1 > 子どもの健康と食生活
15 回	< 保育環境の安全性 2 > 子どもの安全教育
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと人間関係	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	野口 和也
授業概要	<p>こどもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々な活動をととした人間関係の発達について解説していきます。</p> <p>また、人と人が接し共に理解し合い協働で活動を展開していく保育においても、「保育者の人間関係」を視野に入れながら、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な人間関係について考察していきます。人は人のとの中で生き、その関係の中で育ちゆくという視点を中心に、「保育内容における人間関係」の基礎の習得を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもたちの育ちには、取り巻く人的物理的な環境との相互作用が影響を与え欠かすことができません。こどもたちの世界には、数えきれない様々な経験・体験があり、そのひとつひとつは人間関係の発達に関係します。その経験・体験、人間関係について学び、「保育者としての人のとの関係」における様々な協働にも目を向けながら、想像し考えを深めるとともに「保育内容における人間関係」についての基礎の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて言葉で説明できるようにします。 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解する視点を持ちその要点を論じることができるようにします。 3. 養育者・保育者などこどもを取り巻く人的環境における関係性についても、考察し実際の場面に応用することができるようにします。 			
テキスト	<p>随時配付します。</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館／100円＋税 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／190円＋税 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館／120円＋税 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館／190円＋税</p>			
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート20%、レスポンスカード20%、定期試験50%により総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育内容の「こどもと人間関係」という領域は大変身近でかつ日常的なものとなります。保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域を確実に理解するとともに、実践活動を意識しながら基礎的な知識を積み上げていきましょう。</p> <p>また、この授業で取り上げる「人間関係」は広範囲に渡りますので、それは私たち自分自身のことを考える機会になり得るかも知れませんし、私たちが出会えた大切な人々、仲間との人間関係についても考察を深めていく時間になれば良いと思っています。予習・復習を行い授業に臨むことが、知識として、実践技術として身に付くための必要条件と考えます。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 保育内容における「人間関係」の位置づけ
2 回	<現代社会とこどもの人間関係1> 人間関係の始まりと愛着
3 回	<現代社会とこどもの人間関係2> 最初の社会としての家族
4 回	<現代社会のこどもの人間関係3> 自己概念と理解／自分作り
5 回	<領域「人間関係」の考え方> 領域「社会」から「人間関係」へ／現在の領域「人間関係」の考え方
6 回	<「人間関係」の展開1> つまずきと葛藤の中で育つ力
7 回	<「人間関係」の展開2> ルール・決まり事の意味・意義
8 回	<「人間関係」の発達1> 道徳性の発達
9 回	<「人間関係」の発達2> 共感性の発達
10 回	<保育者とこどもの「人間関係」1> 「遊び」の中で育つもの
11 回	<保育者とこどもの「人間関係」2> 人間関係を育てる保育者の役割
12 回	<保育者の人間関係1> 保育者－養育者：育児支援者としての保育者
13 回	<保育者の人間関係2> 保育者－保育者：チーム保育と園内協力体制
14 回	<保育者の人間関係3> 保育者－関係機関：発達支援システムと関係機関との連携
15 回	<地域子育て支援にかかわる人間関係> 地域子育て支援センターとしての幼稚園・保育所
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと環境	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	藤井 太郎
授業概要	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」から、人的・物的・社会的環境及び自然環境のもつ役割や意味、こどもの発達と豊かな環境との関わりについて、知識の習得を図ります。</p> <p>保育者として具体的な活動や事例を通して理解を深めていきます。また、植物の栽培（後期のため紙上演習を含む）や物・自然物とかかわる保育演習を通して、こどもに生命への畏敬の念や探究心を養っていくことの重要性を習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>「環境を通して行う」という幼稚園・保育所の保育の特質を踏まえ、こどもをとりまく環境とその関わりについて実践的に学びます。</p> <p>保育における環境の重要性やその意味を考えるとともに、幼児期の発達の特性を踏まえた環境構成や援助の在り方についての理解を深めることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」のねらいや内容について理解できるようにします。 2. こどもを取り巻く環境との関わりと、それに伴うこどもの発達のあり方を説明できるようにします。 3. 保育実践における環境構成と援助のあり方について習得できるようにします。 			
テキスト	演習 保育内容 環境／柴崎正行編著／建帛社／2010年／1,512円			
参考書	<p>新 子どもと環境 理論編／小田豊編著／三晃書房／2008年／2,200円＋税</p> <p>保育内容 環境／日名子太郎・細野 一郎・藤樫道也 共著／学芸図書／2000年／1,700円＋税</p> <p>子どもと環境から考える保育内容／大橋喜美子・三宅茂夫 編著／北大路書房／2009年／2,376円</p>			
成績評価基準	<p>3つの学習成果について、課題発表とレポート提出、定期試験により理解度を評価します。定期試験を60%、課題・製作・発表等20%、レポートを20%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。</p> <p>保育者として、こどもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもの立場に立って指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのように誘導・指導するか、できるかを常に具体的に考えて積極的に取り組み、予習復習も行ってください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 「こどもと環境」を学ぶことの意義
2 回	保育の基本と「保育内容 環境」の位置づけ
3 回	こどもと環境のかかわり 1 自然環境
4 回	植物の紙上栽培実習 ミニトマトやサツマイモなどの野菜の栽培法、アサガオなどの草花
5 回	自然物とかかわる保育演習 木の実や落ち葉を利用した製作・遊び
6 回	こどもと環境のかかわり 2 物的環境
7 回	物とかかわる保育演習 紙飛行機・折り紙
8 回	こどもと環境のかかわり 3 人的環境の重要性： 心理学的観点から
9 回	こどもと環境のかかわり 3 の続き 哲学的観点から（ヤスパースの「交わり」、ブーバーの「我と汝」の思想から）
10 回	こどもと環境のかかわり 4 社会環境
11 回	「環境」に関する指導計画作成 長期計画（年間計画・期案）の作成演習
12 回	「環境」に関する指導計画作成 中期・短期計画（週案・日案）の作成演習
13 回	文字・数量への興味、関心の育成
14 回	領域「環境」と保育方法
15 回	領域「環境」と保育の実際 思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつ保育
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと言葉	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	森 成美
授業概要	領域「言葉」の保育内容を理解し、乳幼児期の発達過程と言葉の獲得過程を学びます。また、こどもが豊かな言葉を育むために、保育者の総合的援助や指導について具体的に学び、指導や支援の方法を身につけます。			
授業科目の目的	保育内容「言葉」の目標、乳幼児期の言葉の発達過程を正しく理解することを目的とします。こどもが自分の経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞こうとする意欲や態度を育てるための支援や指導の方法を学びます。言葉を豊かに育てる児童文化財や保育環境を創る実践力を培います。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉の獲得過程を理解できるようにします。 2. 子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友だち、保護者の関係から認識し理解できるようにします。 3. 保育者の言動のあり方を認識し、こどもの言葉を豊かに育てる保育環境を創る力を身につけます。 			
テキスト	幼稚園教育要領解説／文部科学省 保育所保育指針／フレーベル館 保育所保育指針解説書／フレーベル館			
参考書	子どもとことば／岡本夏木／岩波新書／390円 魅力ある保育者たち／高石自子／ひかりのくに／1,200円 新1年生の担任心得10か条／森成美／明治図書／2,210円			
成績評価基準	定期試験 60%、レポート・作品・実践 20%、授業・課題に取り組む姿勢 20%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	人は人に生まれ人として成長をします。人との関わりの過程から言葉は獲得されるものです。言い換えれば、言葉を通して人は成長してゆくといえましょう。言葉はその人の人間性を表現するものです。子どもたちの言葉の発達を豊かに育むことを目指して授業に臨んでください。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<言葉と生活 1> こどもの言葉とは何か
2 回	<言葉と生活 2 > 領域「言葉」について 「言葉」の意義 幼稚園教育要領・保育所保育指針
3 回	<言葉と生活 3> 領域「言葉」について 「言葉」の内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針
4 回	<言葉の発達と指導法 1> 乳児期
5 回	<言葉を豊かに育む児童文化財・遊び 1> わらべうた・手遊び
6 回	<言葉の発達と指導法 2> 3歳児
7 回	<言葉の発達と指導法 3> 4歳児
8 回	<言葉の発達と指導法 4> 5・6歳児
9 回	<言葉を豊かに育む児童文化財 2> ストーリーテリング、かるた、紙芝居、ペープサート、小道具等
10 回	<言葉を豊かに育む児童文化財 3> 作製
11 回	<言葉を豊かに育む児童文化財 4 > 作製
12 回	<言葉を豊かに育む児童文化財 5> プレゼンテーション
13 回	<言葉をめぐる問題> 言葉のおくれや障がいと言語教材
14 回	<話し言葉から書き言葉への誘い> 文字への興味を持たせる言語教材
15 回	<まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもとリズム表現	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	茨木 金吾
授業概要	<p>こどもにとって表現とは何か、保育の中でどのような意味を持つのか、表現する力を育てるとはどういうことなのかをドラマにおける表現方法、幼児用楽器などを使用しての音楽表現、ごっこ遊びや劇遊びなどの遊びを通しての身体表現から、その理論と実践方法を学習し、指導援助者としてのあるべき姿を追求していきます。</p> <p>また、こどもの活動を「表現」という一つの領域にとどまるのではなく、他領域での知識や技能と関連させながら考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現的領域、言語表現的領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とします。</p> <p>また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識をも合わせて習得していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所指針における、領域「表現」（特にリズム表現（含む身体表現））の位置づけと設定が理解できます。 2. 保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術が習得できます。 3. 表現する力を育てるための手法を、身体表現、音楽表現の分野から実践を通して習得できます。 4. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助のあり方を、ごっこ遊び、劇あそびを展開する中で考察し、そのきっかけをつかむことができます。 			
テキスト	<p>楽しく遊べる子どもの音楽表現 手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた / 田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著 / (株) 大学図書出版 / 2,700+税</p> <p>幼稚園教育要領 / 文部科学省 / フレーベル館 / 100円+税</p> <p>幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館 / 190円+税</p> <p>保育所保育指針 / 厚生労働省 / フレーベル館 / 120円+税</p> <p>保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館 / 190円+税</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた [改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 / ずき出版</p> <p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 / 圭文社</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験（習得した実践内容+講義内容を合わせた試験）：80% 2. 学習態度、意欲：20% <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>積極的に動き、グループ内での協調性を大切にいき、幼稚園教諭及び、保育士を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。</p> <p>また、7.5コマという短い授業時間数の中で、多くの内容を習得して行かなくてはならないことを自覚し、欠席、遅刻、早退することなく出席してください。</p>			
その他	<p>実践を通しての学びが多くなりますので、常に運動のできる服装でのぞんでください。また、ホールを使用する場合は、上履きが必要になりますので準備しておいてください。</p>			

授業内容及び回数

1 回	＜領域「表現」についての基本的な考え方＞ 幼稚園教育要領・保育所指針における領域「表現」（特にリズム表現（含む身体表現））の位置づけと設定の理解（この回のみ、45分授業）
2 回	＜表現する力を育てるための実践方法1＞ 表現活動をのびのびと行える環境作りについて、その重要性と実践方法について
3 回	＜表現する力を育てるための実践方法2＞ 身体的表現（歩く、走る、スキップ、ギャロップの基本リズムパターンの理解とその応用）
4 回	＜表現する力を育てるための実践方法3＞ 身体的表現（ムーブメント（動くこと）について）
5 回	＜表現する力を育てるための実践方法4＞ 音楽的表現（打楽器の取り扱い方から演奏を主とした表現活動について）
6 回	＜表現する力を育てるための実践方法5＞ 音楽的表現（手作り楽器の製作から、演奏を主とした表現活動について）
7 回	＜表現する力を育てるための保育者の役割と援助1＞ ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現
8 回	＜表現する力を育てるための保育者の役割と援助2＞ ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現 その発表とふりかえり
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと造形表現 I	1 年・後期	演習	15時間 (1 単位)	岩田 健一郎
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習について、幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに授業展開します。さらに、遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」等の援助のあり方について、製作体験と関連づけながら学習を行います。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導者として、子どもの発達と保育中に取り扱う教材に必要な知識をもつことを目的とします。さらに、材料・用具の操作、体験などの実践を通じた技術力の獲得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本を理解できるようになります。 2. 発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴及び乳幼児の表現活動の大切さを理解できるようになります。 3. 乳幼児の造形の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できるようになります。 			
テキスト	こどもと造形表現 I / 船井武彦 / 近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形 I / 岩田健一郎・船井武彦 / 近畿大学豊岡短期大学 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、レポート・課題（作品等）の提出状況・内容40%、定期試験60%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>乳幼児がモノに触れるという表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者としての力を貪欲に身に付けてください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、幼稚園、保育園等の現場での造形物や子どもの遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 学習の進め方と心構えについて <子どもの表現について> 保育所保育指針・幼稚園教育要領における「感性」と「表現」
2 回	<幼児造形教育の変遷> <乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について>
3 回	<振り返り・小テスト> <子どもの造形表現の環境づくりと援助について1> おおむね1歳未満児から3歳児
4 回	<子どもの造形表現の環境づくりと援助について2> おおむね4歳児から6歳児 <小学校との連携について>
5 回	<教材研究：教材と指導援助について> 講義と造形あそびによる実践的な学習 1
6 回	<教材研究：教材と指導援助について> 講義と造形あそびによる実践的な学習 2
7 回	<教材研究：教材と指導援助について> 講義と造形あそびによる実践的な学習 3
8 回	<振り返り・まとめ>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと音楽表現	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	西野享丸・大江美歩子 大谷妃早子・松本裕子
授業概要	<p>保育内容に沿った「子どもの表現活動」の援助に必要なピアノ奏法を学び、独奏曲では基本的な技能を身に付け、伴奏法（弾き歌い）では身に付けた技能を表現活動へと展開する方法を学びます。</p> <p>また、ピアノソルフェージュではスケールとカデンツァを中心に学習します。</p> <p>演奏については各学生の習熟度に応じた指導を実現するため個別指導とし、理論については内容により一斉に、または少人数授業で行う場合があります。</p> <p>前期・後期ともに授業内で発表を行います。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容に沿った子どもの音楽表現活動を援助できる演奏技術、音楽知識の習得を目的とします。子どもの表現活動の特性及び音楽表現についての考え方を理解し、子どもの活動を援助する為に必要な基礎技術を身に付けます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識が習得できます。 2. 子どもの音楽表現活動に欠かせない童謡曲などを習得することができます。 3. 習得した技能をリトミックなどへ展開することで、遊びを通して子どもの音楽表現活動の援助方法を習得できます。 			
テキスト	<p>こどもと音楽表現／原敏行 鎌田直美 黒北多恵子共著／近畿大学豊岡短期大学 こどものうた〔簡易伴奏曲付〕／田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著／圭文社／2,800円 授業の中で適宜プリント等を配付します。</p>			
参考書	<p>「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針（解説書含む）」／近畿大学豊岡短期大学</p>			
成績評価基準	<p>保育内容を理解し、適切な演奏ができる知識と理解がされているかを下記に示した割合で総合的に評価します。</p> <p>発表の成果50% 定期試験40% 学習意欲10%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの演奏技術を習得するには目的意識をもった毎日の練習が欠かせません。 ・様々な教材曲に共通する事柄（和声進行、リズムパターン、フレーズ構造）などに注目し、記憶に留めておく習慣をつけましょう。演奏力だけでなく保育現場で役立つ初見奏や伴奏法の向上にもつながります。 ・音楽を視覚的なものなどの音楽以外のものと関連付けてみたり、言葉で説明をしてみれば更に表現力、即ち、こどもへ音楽を伝える力も向上します。音楽は考えて行うことが最も大切です。 ・質問は大歓迎です。 			
その他				

授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明	16 回	発表 音楽理論3
2 回	ピアノ曲1 ピアノソルフェージュ1 音楽理論1	17 回	ピアノ曲13 ピアノソルフェージュ13 子どもの歌の弾き歌い5
3 回	ピアノ曲2 ピアノソルフェージュ2	18 回	ピアノ曲14 ピアノソルフェージュ14 子どもの歌の弾き歌い6
4 回	ピアノ曲3 ピアノソルフェージュ3	19 回	ピアノ曲15 ピアノソルフェージュ15 子どもの歌の弾き歌い7
5 回	ピアノ曲4 ピアノソルフェージュ4 子どもの音楽と歌声について学ぶ1	20 回	ピアノ曲16 ピアノソルフェージュ16 子どもの歌の弾き歌い8
6 回	ピアノ曲5 ピアノソルフェージュ5 子どもの音楽と歌声について学ぶ2	21 回	ピアノ曲17 ピアノソルフェージュ17 子どもの歌の弾き歌い9
7 回	発表	22 回	発表
8 回	ピアノ曲6 ピアノソルフェージュ6 子どもの音楽と歌声について学ぶ3 音楽理論2	23 回	ピアノ曲18 ピアノソルフェージュ18 子どもの歌の弾き歌い10
9 回	ピアノ曲7 ピアノソルフェージュ7 子どもの音楽と歌声について学ぶ4	24 回	ピアノ曲19 ピアノソルフェージュ19 子どもの歌の弾き歌い11
10 回	ピアノ曲8 ピアノソルフェージュ8 子どもの音楽と歌声について学ぶ5	25 回	ピアノ曲20 ピアノを使用したリトミックの展開1 子どもの歌の弾き歌い12
11 回	ピアノ曲9 ピアノソルフェージュ9 子どもの歌の弾き歌い1	26 回	ピアノ曲21 ピアノを使用したリトミックの展開2 子どもの歌の弾き歌い13
12 回	ピアノ曲10 ピアノソルフェージュ10 子どもの歌の弾き歌い2	27 回	ピアノ曲22 ピアノを使用したリトミックの展開3 子どもの歌の弾き歌い14
13 回	ピアノ曲11 ピアノソルフェージュ11 子どもの歌の弾き歌い3	28 回	ピアノ曲23 ピアノを使用したリトミックの展開4 子どもの歌の弾き歌い15
14 回	ピアノ曲12 ピアノソルフェージュ12 子どもの歌の弾き歌い4	29 回	ピアノ曲24 ピアノを使用したリトミックの展開5 子どもの歌の弾き歌い26
15 回	発表 および夏期休暇中の課題発表	30 回	発表
		【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育方法論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	伊藤 博
授業概要	「教育方法とは何か」や「教育課程の中に教育方法をどのように位置づけるべきか」を学習します。そしてこどもの成長・発達に対応した教育の方法等、教育方法の理論的理解を深めさせると同時に、その具体化として情報技術・機器の活用の方法を学習します。			
授業科目の目的	こどもの成長・発達に適切に対応した教育方法のあり方・その方法において、最近の情報技術の成果をどのように活用し、教育効果をあげるべきかについて取り上げます。また、情報化の進む中でこどもが情報技術を取得して社会での生活をスムーズに遂行できるようにするには、どのような教育をしなければいけないかを取り上げます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 将来教員を目指すため、現在の幼児教育の問題を考察する際の前提となる知識を身につけ幼児教育に対して深く理解できるようになります。 2. グループワークを中心とした実践的考察から、「教育方法とは何か」という基本的な問いへの答えを自分なりの結論を出るようになります。 3. 課題に対する自身の意見や考えをまとめ、グループ内で発表したり他のメンバーの意見や考え方などを参考にしたりしながら自身の意見や考えを修正できるようになります。 			
テキスト	自作教材を使用します。			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	毎回提出のレポート30%、授業態度点20%、定期試験50%とします。			
受講の心構えとメッ セー ジと	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でグループワークを実施しますので、シラバスをしっかりと読み込み、自分なりの意見や考えを述べることができるように日常から幼児教育に関する話題を新聞やインターネットなどから情報として得るよう心がけてください。 ・月曜日の1時間目に授業を行いますので、遅刻や欠席がないように毎回頑張って受講してください。幼児教育についてあなたに伝えたいことが沢山ありますので、神戸市内から毎回頑張ってやってきます。 ・質問などは授業中に積極的に行うようにしてください。 			
その 事項 他	ありません。			

授業内容及び回数

1 回	教育方法論の概要 教授学をはじめ、カリキュラム・教育評価に関すること、授業・教室に対する研究、教師教育に関することなど。また、コンピュータなどの機器を応用した教育工学を含む。
2 回	西洋の教育方法学史 1 古典的な教育方法
3 回	西洋の教育方法学史 2 一斉授業の成立
4 回	西洋の教育方法学史 3 新教育運動と教育方法 その後の西洋教育方法学
5 回	日本の教育方法学史 1 維新前後から第二次世界大戦の後までの教育方法学
6 回	日本の教育方法学史 2 1960年代以降、「教育方法の現代化」の取り組み
7 回	幼児教育の理論と実践 1 授業の方法
8 回	幼児教育の理論と実践 2 カリキュラムについて
9 回	幼児教育の理論と実践 3 教育評価について
10 回	幼児教育の理論と実践 4 授業分析について
11 回	幼児教育の理論と実践 5 教師の役割と専門性について
12 回	教育工学とコンピュータ 1 コンピュータの発達に伴い、それを応用した教育活動の実践
13 回	教育工学とコンピュータ 2 ICT（情報コミュニケーション技術）教育（1） コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラなどの基本
14 回	教育工学とコンピュータ 3 ICT（情報コミュニケーション技術）教育（2） デジタル動画教材の利用
15 回	今後の幼児教育の課題と教師の役割および総まとめ
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育相談	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	岸本 英之
授業概要	教育相談の目的は、いうまでもなく子どもの人間形成、人格形成となります。乳幼児を対象にした保育現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学んでいきます。また、カウンセリングの基本的態度を身につけ、様々な心理アセスメントの活用について、基礎知識の理解を深めます。			
授業科目の目的	教育相談とは、一人ひとりの子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育士、教員などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行うことです。このような働きかけを通して、子どものもつ悩みや問題の解決を援助し、さらにはその子どもの望ましいあり方や人格の成長をめざしていくこととなります。子どもたちが安心してよりよい教育を受けられるよう、指導助言ができる基礎理論の理解と実際について学ぶことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場における保育者の教育相談活動に必要な知識、態度や能力を獲得できるようにします。 2. カウンセリングの基本のひとつである共感的理解の態度を養うことができるようにします。 3. カウンセリングの基本のひとつである受容・肯定的尊重の態度を養うことができるようにします。 4. カウンセリングの基本のひとつである純粋・自己一致の態度を養うことができるようにします。 5. カウンセリングの基本のひとつである豊かな感受性を持ち情緒的に安定した人物となることができるようにします。 			
テキスト	教育相談／澤田 瑞也・吉田圭吾・下坂 剛著／近畿大学豊岡短期大学 プリント教材及び視聴覚教材も利用します。			
参考書	教育相談の実際／中野明德 著／東洋館出版社			
成績評価基準	受講態度、意欲・関心20%、レポート20%、プレゼンテーション10%、期末試験50%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>教育相談は、心配・不安・悩み・問題を抱える幼児・児童や保護者と向き合って相談に応じ、子どもの人格的成長を援助する関わりです。従って相談を受容し共感する力や信頼される人間性、適切な助言や支援ができる知識・技術が不可欠となります。</p> <p>本学の建学精神にもあるように、普段の生活や学習を通して、「人に愛され、信頼され、尊敬される人」になるように努めるとともに、日頃からテキストや参考書、新聞記事等にも関心を持って、予習・復習、日々計画的に真剣に学んでください。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	教育相談の基本1 教育相談の概要
2 回	教育相談の基本2 カウンセリングの基本
3 回	教育相談の基本3 カウンセリングにおける共感
4 回	教育相談と心理アセスメント技法1 知能検査と発達検査
5 回	教育相談と心理アセスメント技法2 行動観察法と質問紙法
6 回	教育相談と心理アセスメント技法3 投影法
7 回	子どもの自己理解を進める技法1 子どもの自己表現
8 回	子どもの自己理解を進める技法2 自己理解の発達
9 回	各種の自己理解の技法 スクイグル法・HTPテスト・風景構成法・フィンガーペンティングなど
10 回	保育園・幼稚園における園児への心理的援助
11 回	保育園・幼稚園における保護者との教育相談
12 回	教育相談の実際1 発達障害・知的障害
13 回	教育相談の実際2 非行・不登校・いじめ
14 回	教育相談と家庭・学校・地域
15 回	復習 カウンセリングの基本と心理アセスメント
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
乳 幼 児 保 育	2 年 ・ 前 期	講 義	30時間 (1 単 位)	井 上 美 由 紀
授 業 概 要	<p>乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、現場の様子を紹介しながら、0～2歳の生活と遊び、安全管理など、具体的な取り組みと課題について授業を行います。</p> <p>人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者としての役割を理解し、適切な保育支援の習得を目指す学びを進めていきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>わが国の乳幼児保育の変遷と、現代社会における家庭や子育ての現状を学び、乳幼児保育の基本を理解します。また、乳幼児期の発達を理解し、保育者としての必要な知識や技術を身につけていき、そこから乳幼児保育の実践に向けたイメージをつかみ、保育観を養っていきます。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の理念と歴史の変遷及び役割の学びを通して現代の保育と関連づけ、文章で説明できるようにします。 2. 乳幼児の発育、発達を踏まえた保育、生活や遊びの援助について具体的な学びの中で、実践力を身につけることができますようにします。 3. 現代社会における家庭や子育ての現状、乳幼児保育における 連携、子育て支援の必要性を学び、自分の意見で議論できるようにします。 			
テ キ ス ト	<p>乳幼児保育／糸 幸男／近畿大学豊岡短期大学 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／フレーベル館</p>			
参 考 書	<p>必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配布します。</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>授業への態度・発表20%、課題・提出物20%、定期試験60%で総合評価します。</p>			
メ ッ ク セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>保育者になるための学びであることを常に心におき、機会をとらえて乳幼児をみたり触れ合う経験をし、テキストの理論と結びつけて子どもの実際の姿を認識してください。</p> <p>発表や実践を通じた具体的な授業を実施しますので、予習、復習を行い、積極的に授業に臨んでください。</p>			
そ の 他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 乳幼児保育とは
2 回	<乳幼児保育の歴史、背景と制度> 乳幼児保育の意義、制度化、その背景
3 回	<現代社会と乳幼児保育> 現代社会における乳児、乳幼児保育の場
4 回	<乳児の発達と保育1> おおむね6か月未満
5 回	<乳児の発達と保育2> おおむね6か月から1歳3か月未満
6 回	<保育実践> 乳児の生活への援助
7 回	<幼児の発達と保育3> おおむね1歳3か月から2歳未満
8 回	<幼児の発達と保育4> おおむね2歳
9 回	<製作> 手づくり玩具
10 回	<集団保育における安全と健康> 健康管理、清潔、事故、病気への配慮と処置
11 回	<乳幼児保育の計画> 保育計画と指導計画、保育の記録と反省、評価
12 回	<乳幼児保育における連携> 家庭との連携、職場内での連携、他機関との連携
13 回	<乳幼児保育と子育て支援> 現代社会における地域子育て支援
14 回	<乳幼児保育の課題> 待機児童、虐待、外国人児童（多文化共生）、保育者の労働環境
15 回	<まとめ> 学習内容の確認 保育者として
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護内容	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	安達 美穂
授業概要	<p>社会的養護で学んだ知識をふまえ、家庭から離れ、里親や児童養護施設など社会的養護のもとで生活する子どもたちについての実際の事例を参照していきます。さらに、職業として現場に身を置く者の対処の仕方を参考とし、自分自身の視点で「事例に対する向き合い方」を考察します。そして、子どもの立場になって考え、日常的に展開されている子どもの生活や援助者の支援について事例を通して学びます。</p> <p>また、「養護」から「自立支援」へのつながりについても考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>児童の権利や保育士の倫理、社会的養護に必要な各種の知識をふまえ、児童の自立支援に向けた個別支援計画の作成ができるようになり、社会的養護の実践ができるようになることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の現状と動向を理解し、把握します。 2. 児童福祉施設などの施設養護の内容について理解します。 3. レジデンシャルワークに求められる援助の実際と基礎的な技術を理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士などの倫理について自らの姿勢を顧みることができるようになります。 2. 施設養護および他の社会的養護の実際について具体的に理解し言葉で説明できるようになります。 3. 個々の児童に応じた支援計画の作成の仕方を学び、日常生活の支援、治療的な支援、自立の支援などのレジデンシャルワークの方法と技術が実践できるようになります。 4. 社会的養護を通して、家庭支援、子ども家庭福祉、地域福祉を関連づけることができるようになります。 			
テキスト	<p>各時間毎に配布する資料を中心に演習を進めます。</p> <p>下記の参考書を常に準備します。</p>			
参考書	<p>保育と社会的養護原理／大竹 智・山田 利子 編集／みらい書房 保育と児童家庭福祉／櫻井 奈津子 編集／みらい書房 保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>定期試験を50%、授業ごとの演習問題25%、受講態度等25%（講義中の態度と意欲を加味する）により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と参考書を中心に演習を進めるので、指定された参考書を持参すること。 ・専門用語や援助技術に関してわからない項目について、資料や参考書を基にして各自調べておくこと。 ・授業後には配布資料やワークシート等をポートフォリオにまとめて事後学習に活用すること。 ・授業で指示した演習課題を評価の対象とするので、期限を守って提出すること。 <p>*毎時間ごとの演習問題については、原則として、授業終了後に全て解答し提出すること。また提出できない場合は、次回の授業までに完成させて提出すること。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	授業についてのガイダンス 施設養護の特質と基本原則
2 回	支援の計画と内容 インケア、リービングケア、アフターケア
3 回	日常生活支援に関する事例分析 施設養護の実際 乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設
4 回	施設養護の実際1 治療的支援に関する事例分析 情緒障害児短期治療施設他
5 回	施設養護の実際2 自立支援に関する事例分析
6 回	保育とソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用 レジデンシャルワークと援助技術
7 回	保育士などの倫理および責務 施設の小規模化と家庭的養護の推進
8 回	社会的養護の動向と方向性 施設養護と家庭養護における保育士の役割
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 育 実 習	1年次・後期 2年次・前期	実習	160時間 (4単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深め実践力を養います。また、幼稚園教諭の役割を理解します。</p> <p>附属幼稚園で、1年次 2～3月に4日間の実習を経験し、それを基に2年次 4月～7月にA・Bクラスに分かれて7日間の実習をします。さらに、9月に学外幼稚園での実習を2週間します。</p>			
授業科目の目的	<p>実習は、幼児や保育に関して習得してきた内容を保育の実際の中で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や学習課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深めることができます。 2. 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解することができます。 3. 幼稚園教諭としての自己課題を明確化することができます。 			
テキスト				
参考書	<p>幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>各実習園からの評価80%、実習日誌等提出物の状況20%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場では、学生であっても保育者としての自覚をもち、わきまえのある態度で臨んでください。また保育者としての身だしなみを考え、常に自己責任を意識しながら実習現場に立ってください。 ・幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。先生が楽しければ幼児も楽しいのです。何よりも保育の楽しさを見つけましょう。 			
その他				

授業内容及び回数

1 実習期間

実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。

○平成26年度入学生

〔附属幼稚園での実習〕

平成27年2月 2日（月）～3月12日（木）のうち4日間

平成27年4月10日（金）～7月10日（金）のうち7日間

（A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習する）

〔学外幼稚園での実習〕

平成27年9月7日（月）～9月19日（土） 2週間

○平成27年度入学生

〔附属幼稚園での実習〕

平成28年2月1日（月）～3月10日（木）のうち4日間

平成28年4月8日（金）～7月15日（金）のうち7日間

（A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習する）

〔学外幼稚園での実習〕

平成28年9月5日（月）～9月17日（土） 2週間

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育実習事前・事後指導	1～2年・通年	実習	45時間 (1単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。1年次 2月～3月・2年次 前期に行われる附属幼稚園での実習、さらに9月の学外幼稚園での実習に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができます。 2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができます。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学ぶことができます。 4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができます。 5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができます。 6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができます。 			
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	受講態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で保育の楽しさを体験するために、事前指導で大切なことをしっかり学びましょう。 ・附属幼稚園での実習記録のコピーを毎回必ず提出してください。実習を積み重ね、幼児理解・保育者の役割等を深めていきましょう。 			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<実習の意義と目的 > 実習とは何か／実習で学ぶこと	16 回	<保育指導案の作成 3 > 4歳児の指導案立案
2 回	<実習の内容と方法 > 観察・参加・責任実習	17 回	<保育指導案の作成 4 > 5歳児の指導案立案
3 回	<子どもを取り巻く様々な環境> 子どもの育ちと新幼稚園教育要領との関係/ 幼稚園・保育園・認定こども園の役割	18 回	<責任実習の振り返り 1 > 自己評価と課題
4 回	<教育課程・指導計画 1 > 長期指導計画	19 回	<責任実習の振り返り 2 > 自己評価と課題
5 回	<教育課程・指導計画 2 > 短期指導計画	20 回	<責任実習の振り返り 3 > 自己評価と課題
6 回	<保育観察 1 > 環境構成・幼児理解	21 回	<実習直前指導> 実習生としての心構え・準備物 身だしなみ等の確認
7 回	<実習日誌の記録方法 1 > 環境構成・幼児理解	22 回	<学外実習の振り返り 1 > 体験発表
8 回	<保育観察 2 > 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	23 回	<学外実習の振り返り 2 > 自己評価と課題・体験集作成
9 回	<実習日誌の記録方法 2 > 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	24 回	
10 回	<実践的音楽演習 1 > 幼児に即した歌・弾き歌い・手遊び	25 回	
11 回	<実践的保育演習 2 > 絵本・紙芝居等の導入からの方法	26 回	
12 回	附属幼稚園実習オリエンテーション	27 回	
13 回	<1年次の実習の振り返り> 教育実習の意義と目的	28 回	
14 回	<保育指導案の作成 1 > 指導案とは何か	29 回	
15 回	<保育指導案の作成 2 > 3歳児の指導案立案	30 回	
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習 I	1年・通年	実習	160時間 (4単位)	栗岡 あけみ 岡本 妙子
授業概要	保育実習 I は、保育所実習と施設実習からなります。実際に保育所、福祉施設において乳幼児（利用者）とかかわり、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。			
授業科目の目的	保育現場の実際に接し、子ども（利用者）の観察やかかわりを通して、子ども（利用者）への理解を深め、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。			
学習成果	<p>【保育実習 I（保育所）】 （2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児理解を確かなものにすることができます。 2. 保育所の機能と保育士の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解することができます。 3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を身につけることができます。 <p>【保育実習 I（保育所以外の児童福祉施設）】 （2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住居型児童福祉施設の生活に参加し、住居型児童福祉施設及び利用者とその家族について理解を深めることができます。 2. 住居型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について理解し身につけることができます。 3. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術を習得することができます。 			
テキスト	保育実習指導／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	実習簿の内容20%、各実習園による評価（実習態度、保育所理解、施設理解、乳幼児・児童の理解等）80%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能のもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の考えや感想など文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。 			
その他の事項	<p>利用する子どもや利用者の最善の利益を優先した実習実施ができるようにしっかりと準備して臨んでください。実習実施準備が整っていないと判断した場合は、実習の中止や延期、取り消す場合もあります。心して取り組んでください。</p> <p>成績評価は下記の2点が前提です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌を期日までに実習担当教員に提出していること 2. 実習後、実習園（施設）に礼状を送付したこと 			

授業内容及び回数

実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習Ⅰ（保育所実習）】 12日間（80時間）

前期

平成27年 7月 27日（月）～8月29日（土）のうち6日間観察実習

後期（下記の1、2のうちどちらか6日間）

1 平成27年12月19日（土）～12月26日（土）の6日間参加実習

2 平成28年 1月 4日（月）～ 1月9日（土）の6日間参加実習

【保育実習Ⅰ 居住型児童福祉施設等における実習】 おおむね10日間（80時間）

平成28年2月中旬～3月下旬 観察実習・参加実習

<履修上の注意事項>

保育実習指導Ⅰの履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導Ⅰで提示します。

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育実習指導 I	1年・通年 2年・前期	演習	60時間 (2単位)	栗岡 あけみ 岡本 妙子
授 業 概 要	<p>保育実習指導 I では、1年次に実施される保育実習 I（保育所・施設）の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設・保育所2週間（80時間） ・乳児院・養護施設・障害者施設など（80時間）の実習において要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、子どもへの理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。 実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができます。 2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができます。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できます。 4. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記すことができます。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができます。 			
テ キ ス ト	<p>保育実習指導／近畿大学豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参 考 書	<p>授業の中でプリント、資料を適宜配付します。</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>受講態度・学習への関心30%、提出物（身上書、ワクチン接種済み書など）、課題（指導案、製作物など）の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。</p>			
メ ッ ク の 心 構 え と シ ョ ウ	<p>実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょうか。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めていくこととはどういうことか一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育感を養ってください。</p>			
そ の 他				

授業内容及び回数

1 回	< オリエンテーション・実習の意義と目的 > 保育士の仕事について	16 回	< 施設実習に向けての実習の意義 >
2 回	< 保育所の機能と目的理解 > 身上書の書き方など諸手続き	17 回	< 保育計画・指導計画 > 保育計画に基づく指導案の作成
3 回	< 実習の心構えの理解 > 守秘義務、子どもの人権尊重	18 回	< 施設実習に向けての施設の実際 >
4 回	< 保育所実習の課題 > 実習事前の自己課題の明確化	19 回	< 実習課題の明確化 > 保育実践演習 手遊び 絵本 紙芝居 パネルシアター等
5 回	< 実習簿の記入方法 > 実習簿の意義・記入の諸注意	20 回	< 後期保育所実習直前指導 > まとめ 準備事項の確認 (保育所)
6 回	< 実習簿の記入方法2 > 記録の取り方・記入の仕方	21 回	< 施設実習に向けての施設の機能と役割 >
7 回	< 実習施設の理解 > 保育所の一日の流れと保育展開例	22 回	< 施設実習に向けての実習簿の書き方 >
8 回	< 保育所見学 > 環境構成・子どもの姿	23 回	< 施設実習直前指導 > まとめ 準備事項の確認 (福祉施設)
9 回	< 保育所見学のまとめ >	24 回	< 実習体験の振り返り > (保育所) 反省と実習事後課題 体験発表
10 回	< 前期保育所実習直前指導 > 準備事項の確認 (保育所)	25 回	< 実習体験の振り返り > (福祉施設) 実習事後課題の明確化 体験発表
11 回	< 前期保育所実習を終えて1 > 報告会 自己評価	26 回	< 実習体験の振り返り > (保育所) 子ども理解
12 回	< オリエンテーション・施設実習の心構え >	27 回	< 実習体験の振り返り > (福祉施設) 利用者と施設の概要の理解
13 回	< 前期保育所実習を終えて2 > 観察実習をとおして子ども理解	28 回	< 実習体験の振り返り > (保育所) 保育者の援助
14 回	< 施設実習の課題の明確化 >	29 回	< 全体総括 > (福祉施設) 保育実習課題の明確化
15 回	< 保育計画の意義 > 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法	30 回	< 全体総括 > (保育所) 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年	実習	80時間 (2単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>社会の状況が変化し「子育て・子育ち」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士ををめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱは保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができます。 2. 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実施することができます。 3. 指導計画の作成、実践、観察、評価、を行い、その重要性を説明することができます。 4. 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができます。 5. 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができます。 6. 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができます。 			
テキスト	保育実習指導／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 保育用語辞典／ミネルヴァ書房			
成績評価基準	<p>実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）80%、保育実習簿の内容（字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など）20%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術のもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。 			
その他	<p>本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）を修了していることが必要です。</p>			

授業内容及び回数

実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習Ⅱ（保育所実習）】 12日間（80時間）

平成27年8月17日（月）～8月29日（土） ・ 観察実習・参加実習・指導実習

授業計画

1. < 保育全般への参加と保育技術の習得 >
2. < 子どもの個人差理解と対応方法の習得 >
発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応
3. < 指導計画の立案と実践 >
4. < 子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得 >
5. < 地域社会に対する理解と連携方法 >
6. < 子どもの最善の利益への配慮 >
7. < 保育士としての職業倫理理解 >
8. < 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化 >

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習1」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体をとおして、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学び、実習後は、実習を丁寧に振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。</p>			
学習成果	<p>【事前指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己課題をもち積極的に実習に臨むことができます。 2. 発達を踏まえた指導計画を立てることができます。 3. 観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解することができます。 <p>【事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先での学習を客観的に振り返ることができます。 2. 自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができます。 			
テキスト	<p>保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。</p>			
参考書	<p>必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度20%、自主学習20%、提出物とレポート30%、発表態度と内容30%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	< 保育実習Ⅱに向けての心構え > 保育実習Ⅰの自己評価 保育実習Ⅱの目的、意義、内容
2 回	< 実習準備と保育実践力の育成 > 実習計画および手続き 保育技術（遊びと教材研究）
3 回	< 保育指導計画の作成 1 > 部分実習の指導計画の立案
4 回	< 保育指導計画の作成 2 > 一日実習の指導計画の立案
5 回	< 実習実施における諸注意 > 実習生としての心構え 守秘義務など
6 回	< 実習直前指導 > 実習課題の明確化 保育実習簿の記入方法確認 礼状の書き方
7 回	< 実習体験の振り返り > 自己課題の明確化
8 回	< 全体総括 > 自己課題の明確化
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	福祉施設実習であり、8月中旬～下旬の10日間（80時間以上）の実習を行います。			
授業科目の目的	<p>児童福祉施設の内容・機能等を、実践現場での体験を通して理解します。また、子ども・家庭・保育士とのかかわりを通して、保育士としての職業倫理や子どもの最善の利益への具体化について学びます。</p> <p>保育実習Ⅲは、保育所以外の多様な種別の児童福祉施設や社会福祉施設が対象となります。児童福祉施設における養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得します。家庭と地域の生活実態に触れ、子どもの家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養います。また、子育てを支援するために必要とされる能力を培います。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通じて理解することができるようにします。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことができるようにします。 3. 保育士としての業務内容や職業倫理について実践を通じ説明することができるようにします。 4. 保育士としての自己課題を認識することができるようにします。 			
テキスト				
参考書	保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	事前事後学習課題（20%）、実習施設評価と実習日誌（80%）で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習は、これまでの講義や演習で得られた知識や技能のもとに、多くの学びが得られるものです。その実現のためにも以下のことに注意し実習に臨むことを求めたいと考えています。</p> <p>体調管理には十分気をつけ、遅刻や欠席は絶対にしない。身だしなみはきちんと整える。諸注意を厳守し、各自が責任をもって行動する。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として捉えることが望まれます。詳細や各種連絡事項は、保育実習指導Ⅲで指示していく。必ず出席することが必要不可欠となる。学習成果の獲得に向けて、予習・復習にも高い意識を持って臨む姿勢を持ってほしいと考えています。</p>			
その他	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）を修了していることが必要です。			

授業内容及び回数

実習期間（以下はおおよその日程です。実習先の状況により、前後する場合があります。）

「施設実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬 10日間で80時間以上となります。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	岡本 妙子
授業概要	保育実習Ⅲ（施設）の事前および事後学習を行います。児童福祉法に規定される施設を対象として、保育実習において要求される事前手続きから基礎的な知識や社会人としてのマナーを身につけます。			
授業科目の目的	保育実習Ⅲ（施設）に向け、各実習施設やそこで暮らす子どもの姿を理解し、実習への目的意識や社会人、専門職業人としての自覚を高めることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの意義や目的を言葉で説明できるようにします。 2. 実習や既習の教科内容を関連付けて、保育実践力を養うことができるようにします。 3. 観察、記録、評価に基づいた保育の方法について意識し実践できるようにします。 4. 児童福祉施設やそこで暮らす児童について述べるできるようにします。 5. 実習での体験を普遍化し、現在の保育現場の課題、自己の保育者としての課題を明確化できるようにします。 			
テキスト	授業内において適宜資料を配付します。			
参考書	保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	受講態度30%、提出物など40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習は、これまでの講義や演習で得られた知識や技能のもとに、多くの学びが得られるものとなるはずですが、さらに、保育実習Ⅰで得た学びを発展させる場でもあることを理解してほしい。80時間以上の施設実習をやり遂げるためには何が必要となるであろうか。また、社会人としての職場体験実習にも位置付けられます。</p> <p>社会的ルールである守秘義務、勤務時間の厳守など社会人としての自覚がかせません。</p> <p>特に、体調管理には十分気をつけ、遅刻や欠席をしないことを強く求めます。身だしなみに気を配るとともに、諸注意を厳守し、責任をもって行動することが絶対必要なことだと認識してほしいと願っています。</p>			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 施設実習の意義と目的
2 回	<施設の機能と役割1> 養護施設の理解
3 回	<施設の機能と役割2> 障害児系施設の理解
4 回	<実習計画の作成> 実習計画の立案
5 回	<実習日誌の記入方法> 実習日誌の意義・記入の仕方
6 回	<実習直前指導> 実習生としての心構え・準備物
7 回	<実習体験の振り返り1> 体験発表
8 回	<実習体験の振り返り2> 自己評価と課題
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育・教職実践演習 (幼稚園)	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南 久美子 森 成美
授業概要	既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに教職生活を円滑にスタートできるよう、様々な場面での危機管理や保育カンファレンスを通して、学校現場で役に立つ指導力や実践力の獲得を図ります。			
授業科目の目的	本授業では、短期大学で学んできた知識と教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育者としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、教員としての研修の必要性と自己研鑽に努めることの自覚をもち、教職生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員として働く意味や使命感・責任感について答申や法律等を通して理解することができます。 2. 教員としての資質・能力とは何かを答申や法律等を通して理解することができます。 3. 教員としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができます。 			
テキスト	保育・教職実践演習／上長 然・國光みどり／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館／100円＋税 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館／190円＋税 ドラマを創る学級づくりの演出 小学1年／森成美他／明治図書／2,380円＋税			
成績評価基準	定期試験70% 授業・課題に取り組む姿勢30%で、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	本授業は、教職課程の総まとめに位置づけられています。 本授業を通して自らの状況を把握し、克服すべき点を意識し、さらに習得すべき点は習得し、よりよい教員になるための授業にいきましょう。			
その他				

授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2 回	<教職の意義> 学級経営の概要
3 回	<保育者としての学級経営1> 課題のあるこどもとは
4 回	<保育者としての学級経営2> 課題のあるこどもへの対応
5 回	<保育者としての学級経営3> 保育者自身の指向性とこども
6 回	<保育者としての学級経営4> 保育者と保護者
7 回	<保育者としての学級経営5> 人間教育の観点から保育
8 回	<保育者としての学級経営6> 人権教育の観点から保育
9 回	<保育カンファレンス1> まなび
10 回	<保育カンファレンス2> かかわり
11 回	<保育カンファレンス3> いのち
12 回	<信頼される保育者> 危機管理と危機対応
13 回	<特別支援教育への理解と対応> 特別支援教育と教師・保育者
14 回	<保幼小連携> 小1問題を防ぐための支援
15 回	<まとめ> 保育者として働くということ
【定期試験】 (有) ・ 無	

所 版

有 権

平成27年度 授業概要

平成27年4月1日発行（非売品）

〒668-8580 兵庫県豊岡市戸牧160番地
発行所 近畿大学豊岡短期大学
電話（0796）22-6361

印刷所 三景印刷株式会社
京都府与謝郡与謝野町弓木1865
電話（0772）46-3455

学籍
番号

氏
名